

A decorative archway with a sun in the center and two phoenixes on either side, surrounded by intricate patterns.

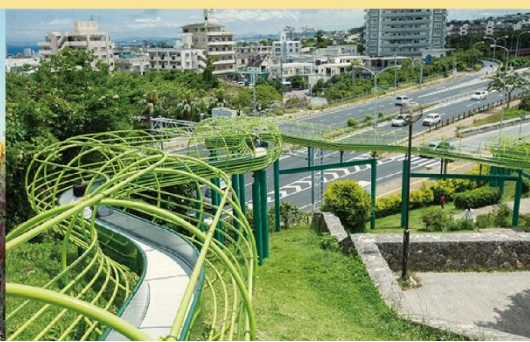
浦添市
観光振興
計画

URASOE
2018▶2025

古の王城と新たないぶきに出会う
てだこ（太陽の子）のまち うらそえ

2018年3月

浦添市



はじめに

本市には国指定史跡浦添城跡や手付かずのイノー（礁地）のほか、桑関連の市産品など多くの知られざる「観光コンテンツ」がございます。

これら観光コンテンツを十分に活かし、「住んでよし 訪れてよし」の観光地域づくりの実現のため、「浦添市観光振興計画」を策定いたしました。



本計画は今後8年間（前期3年・後期5年）の本市観光振興の指針となるものであり、期間中東側では沖縄都市モノレールの延長開業及び駅前周辺まちづくり事業の展開、西側では臨港道路浦添線・浦添北道路の供用開始や大型ショッピングモール建設、また、待望のリゾートホテル開発等も予定されております。

なお、本計画のキャッチフレーズを、「^{いにしえ}古の^{おうじょう}王城と新たないぶきに出会う てだこ（太陽の子）のまち うらそえ」としましたのは、琉球王国発祥の地とされる本市の歴史と、そして先人たちが残してきたものを今後大切にしなが、目に見えて進む開発による近未来的なものを融合させ活気ある都市（まち）にしていきたいとの想いを込めたものでございます。

最後に本計画策定にあたりましては、市民の皆様、各関係団体、事業者の皆様から活発なご意見を頂戴いたしました。

本計画策定にあたりご尽力いただきました浦添市観光振興審議会の皆様をはじめ、関係者の皆様へ心から感謝を申し上げます。

観光の振興は行政だけで推進できるものではありません。これから8年後の本市の輝ける姿を共に描きながら、浦添市全体として取り組みを進めて参りたいと考えております。

平成30年3月
浦添市長 松本 哲治

目次

第1章 計画の基本的考え方	1
1. 計画策定の背景と方向性.....	1
(1) 観光振興の意義.....	1
(2) わが国の観光を取りまく環境.....	2
(3) 沖縄県の観光を取りまく環境.....	5
2. 浦添市観光振興計画の策定.....	10
(1) 計画策定の経緯・目的.....	10
(2) 計画の位置づけ.....	11
(3) 浦添市観光振興計画の計画期間.....	11
第2章 観光の現状と課題	12
1. 浦添市の現状.....	12
(1) 浦添市の概要.....	12
(2) 浦添市の観光資源、地域資源.....	14
(3) 浦添市の観光実態.....	16
2. 浦添市観光実態調査結果.....	17
3. 浦添市の観光の課題.....	22
(1) 市民ワークショップの開催による市民の声.....	22
(2) 浦添市の観光の課題.....	23
第3章 浦添市観光振興計画の目指す姿	27
1. 基本理念.....	27
2. 観光振興による目指す将来像.....	28
第4章 基本方針	30
1. 浦添市の観光振興に係る基本方針.....	30
2. 施策体系.....	32
第5章 戦略的重点施策	34
1. 戦略的重点施策.....	34
2. 観光地域づくりを実現していくためのエリア別の方向性.....	40
第6章 浦添市の観光施策	50
1. 施策内容.....	50
(1) 地域資源である生活・文化・芸能・自然・施設・環境・人を活かす浦添での過ごし方の提案.....	51
(2) 浦添市の情報発信の強化.....	58
(3) 受け入れ環境として、滞在拠点・交通の充実.....	59
(4) 浦添観光を支える体制の充実.....	62
(5) マーケティング・経済波及効果の検証体制の充実.....	65
第7章 計画の実現に向けて	68
1. 推進体制の構築.....	68
2. 進捗管理.....	69
資料編	71
1. 策定の流れ.....	72
2. 目標数値の考え方.....	73
3. 浦添市観光振興審議会規則.....	74

第1章 計画の基本的考え方

1. 計画策定の背景と方向性

(1) 観光振興の意義

観光とは、中国の古典「易経」にある「国の光を観る」ことが語源であるといわれています。その地方の優れた地域資源を訪ね、観て、学び、体験することで、感動や癒しがもたらされ、生活の質の向上が図られることが観光の意義であるといえます。また、観光を通じて市町村や県、国を越えて人々が交流することで、その地域においてさまざまな効果ももたらされます。その効果には次のようなものがあります。

■地域への経済効果

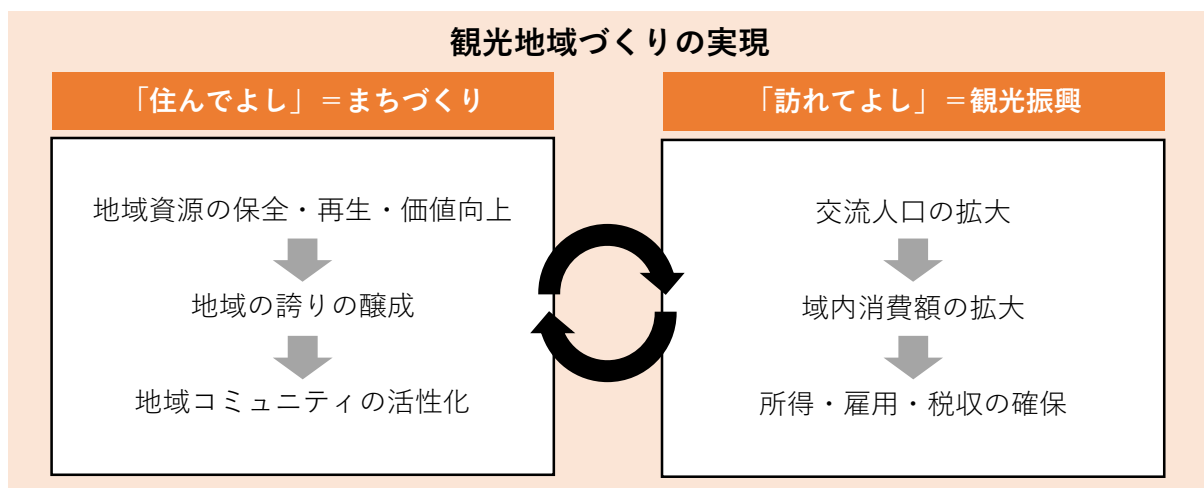
観光産業は裾野が広く、経済波及効果が高い産業といわれています。交流人口の増加により、交通機関の利用、飲食や宿泊、地場製品の購入等その消費活動は多岐に渡ります。これにより、地域経済の活性化や雇用需要の拡大など、市民生活の安定と向上につながることを期待されます。

■地域の誇り、アイデンティティの醸成効果

観光客を受け入れる地域にとっては、さまざまな人がその地域の資源を認め、訪れ、称えてくれることにより、自らの地域の価値を再認識し、それが自信となり、地域の誇りやアイデンティティが醸成されます。

■“住んでよし 訪れてよし”の観光地域づくりの実現

「地域の誇り、アイデンティティの醸成」や観光客との観光交流（交流人口増加、滞在時間増加、消費金額増加など）から生じる、「地域への経済効果」といった様々な効果を生かして、地域の「あるべき姿」を実現していく取組こそ、“観光地域づくり”の考え方です。



(2) わが国の観光を取りまく環境

国では、観光立国の実現に向けた施策の総合的かつ計画的推進に向け、平成18年に「観光立国推進基本法」が成立し、平成24年3月に「観光立国推進基本計画（平成24年度～28年度）」を閣議決定し、「明日の日本を支える観光ビジョン」（平成28年3月30日明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定）を踏まえ、観光は我が国の成長戦略の柱、地方創生への切り札であるという認識の下、拡大する世界の観光需要を取り込み、世界が訪れたいくなる「観光先進国・日本」への飛躍を図ることを目的に、平成29年3月、平成29年度からの新たな「観光立国推進基本計画（平成29年度～32年度）」が閣議決定されました。

【観光立国の実現に関する施策についての基本的な方針】

①国民経済の発展

観光を我が国の基幹産業へ成長させ、日本経済を牽引するとともに、地域に活力を与える。

②国際相互理解の増進

観光を通じて国際感覚に優れた人材を育み、外国の人々の我が国への理解を深める。

③国民生活の安定向上

全ての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような環境を整え、観光により明日への活力を生み出す。

④災害、事故等のリスクへの備え

国内外の旅行者が安全・安心に観光を楽しめる環境を作り上げる。

	新たな基本計画の目標 (目標年:平成32年) <青字:平成27年実績> <赤字:平成28年実績>	<参考> 観光ビジョンの目標 (目標年:平成32年)	<参考> 旧基本計画の目標 (目標年:平成28年)
1. 国内旅行消費額	21兆円 <平成27年:20.4兆円> ← <平成28年:20.9兆円(速報値)>	21兆円	宿泊18兆円、 日帰り6.5兆円 ^{*2}
2. 訪日外国人旅行者数	4,000万人 <平成27年:1,974万人> ← <平成28年:2,404万人(推計値)>	4,000万人	1,800万人
3. 訪日外国人旅行消費額	8兆円 <平成27年:3.5兆円> ← <平成28年:3.7兆円(速報値)>	8兆円	3兆円 ^{*2}
4. 訪日外国人リピーター数	2,400万人 <平成27年:1,159万人> ← <平成28年:1,436万人(推計値)>	2,400万人	1,000万人程度 ^{*2}
5. 訪日外国人旅行者の 地方部 ^{*1} における延べ宿泊者数	7,000万人泊 <平成27年:2,514万人泊> ← <平成28年:2,845万人泊(速報値)>	7,000万人泊	【ゴールデンルート以外の地域】 2,400万人泊 ^{*2}
6. アジア主要国における 国際会議の開催件数に占める割合	3割以上・ アジア最大の開催国 <平成27年:26.1%・アジア最大>	(見直し)	【国際会議の開催件数】 5割以上増(1,111件以上)、 アジア最大の開催国
7. 日本人の海外旅行者数	2,000万人 <平成27年:1,621万人> ← <平成28年:1,712万人(推計値)>		2,000万人

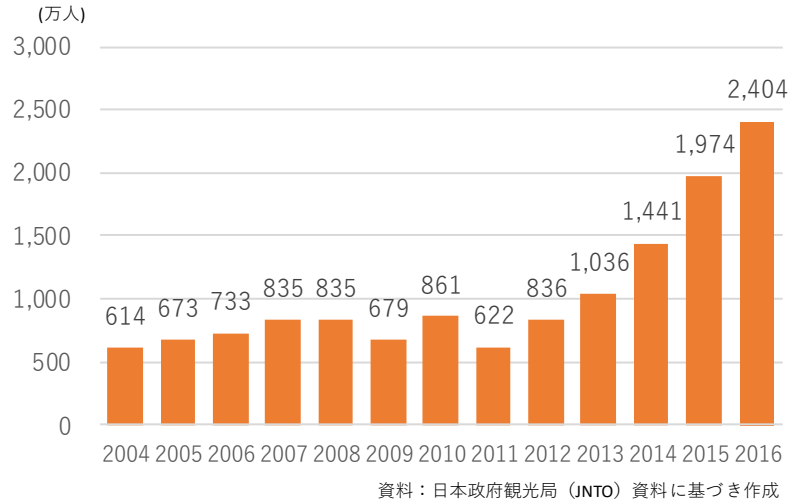
^{*1}: 基本計画及び観光ビジョンの目標の「地方部」は三大都市圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県)以外の地域、旧計画の目標の「ゴールデンルート以外の地域」は東京都、千葉県、大阪府、京都府以外の地域を指す。

^{*2}: 参考指標。

■国の動向

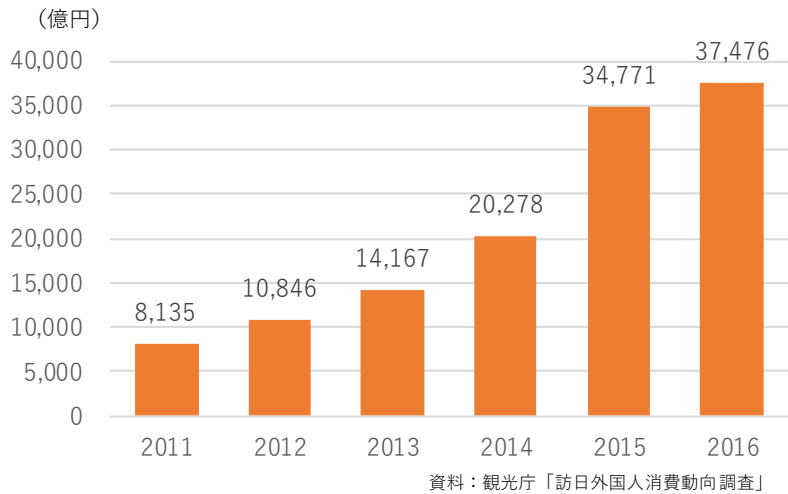
○訪日外国人旅行者数の推移

2016年の訪日外国人旅行者数は、過去最高でした。2015年の1,974万人をさらに上回り、2,404万人(対前年比21.8%増)となり、4年連続で過去最高を更新しました。



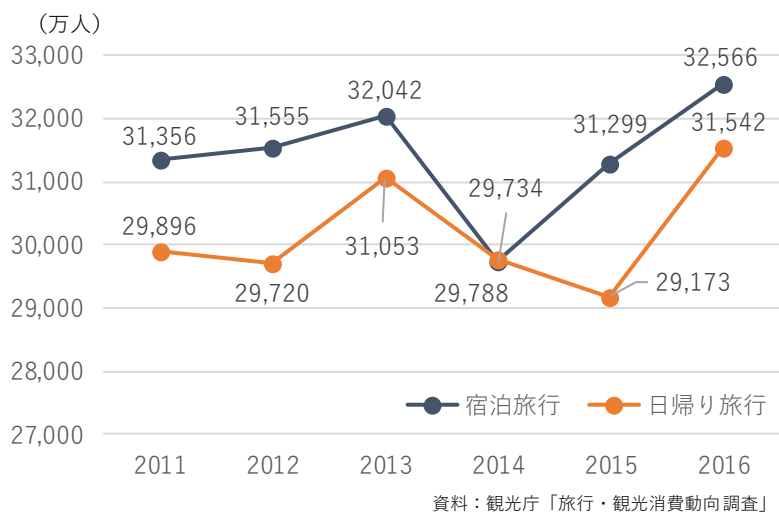
○訪日外国人旅行者による消費の推移

訪日外国人旅行者による日本国内における消費額は、2012年以降急速に拡大し、2016年には前年比7.8%増の3兆7,476億円となりました。



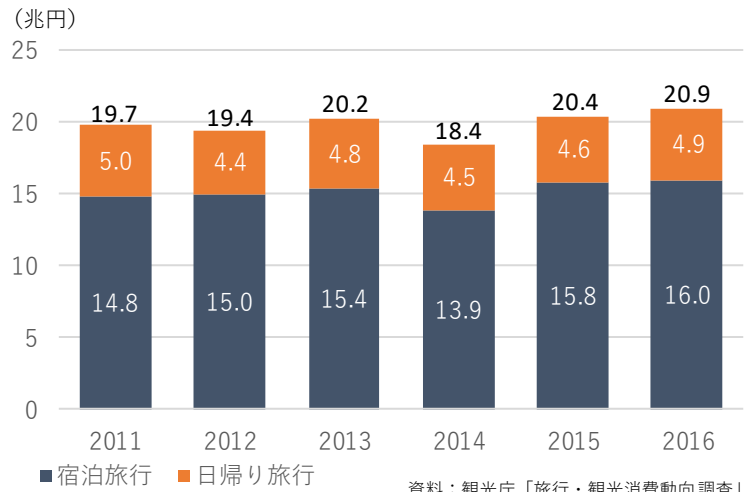
○国内宿泊観光旅行延べ人数、国内日帰り観光旅行延べ人数の推移

2016年に国内宿泊旅行に行った人数は延べ3億2,566万人(前年比4.0%増)、国内日帰り旅行は延べ3億1,542万人(前年比8.1%増)となりました。



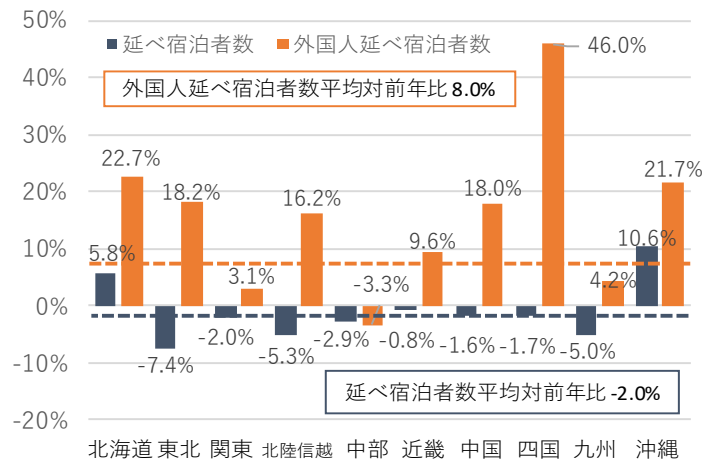
○国内旅行消費額の推移

国内旅行消費額については、2014 年は対前年で減少したものの、2015 年、2016 年ともに増加し、2016 年には 20.9 兆円となりました。



○延べ宿泊者数（全体）及び外国人延べ宿泊者数の地方ブロック別対前年比

2016 年の地方ブロック別延べ宿泊者数について、対前年比で見ると、北海道及び沖縄地方では増加となりました。また、外国人延べ宿泊者数は、10 地方のうち 9 地方で伸びており、特に四国地方の伸び率が高くなりました。

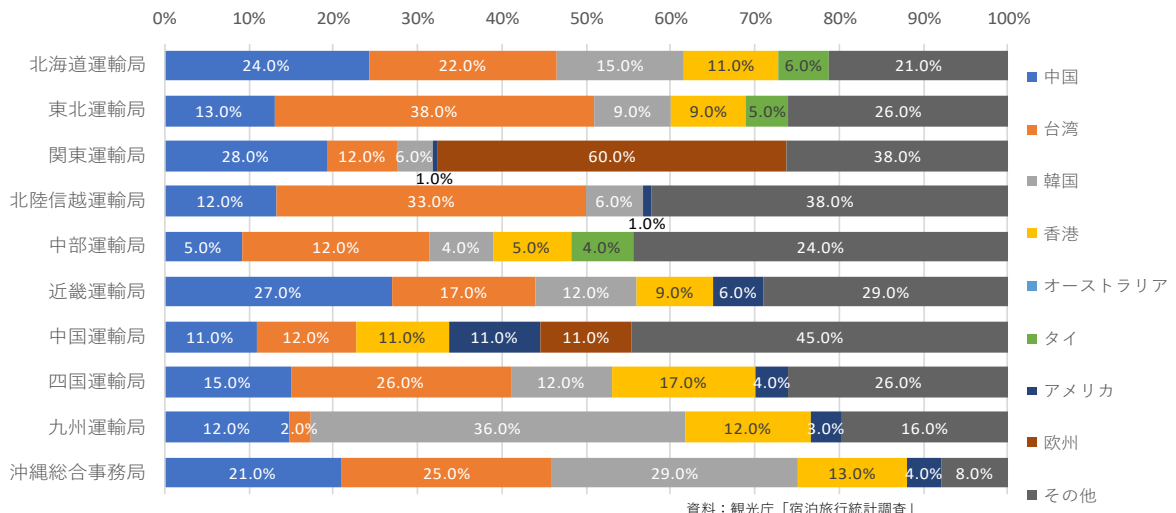


注 1：2015年(平成27年)の確定値と2016年(平成28年)の速報値を比較し

○地方ブロック別外国人延べ宿泊者の国・地域別構成比

2016 年における地方ブロック別外国人延べ宿泊者において、沖縄総合事務局をみると、中国、台湾、韓国からの宿泊者が多く占めていることがわかります。

その国籍別の構成をみると、中国からの宿泊者が三大都市圏を中心に 4 地方で、台湾からの宿泊者がそれ以外の 4 地方で、韓国からの宿泊者が九州を中心に 2 地方で高い比率を占めています。



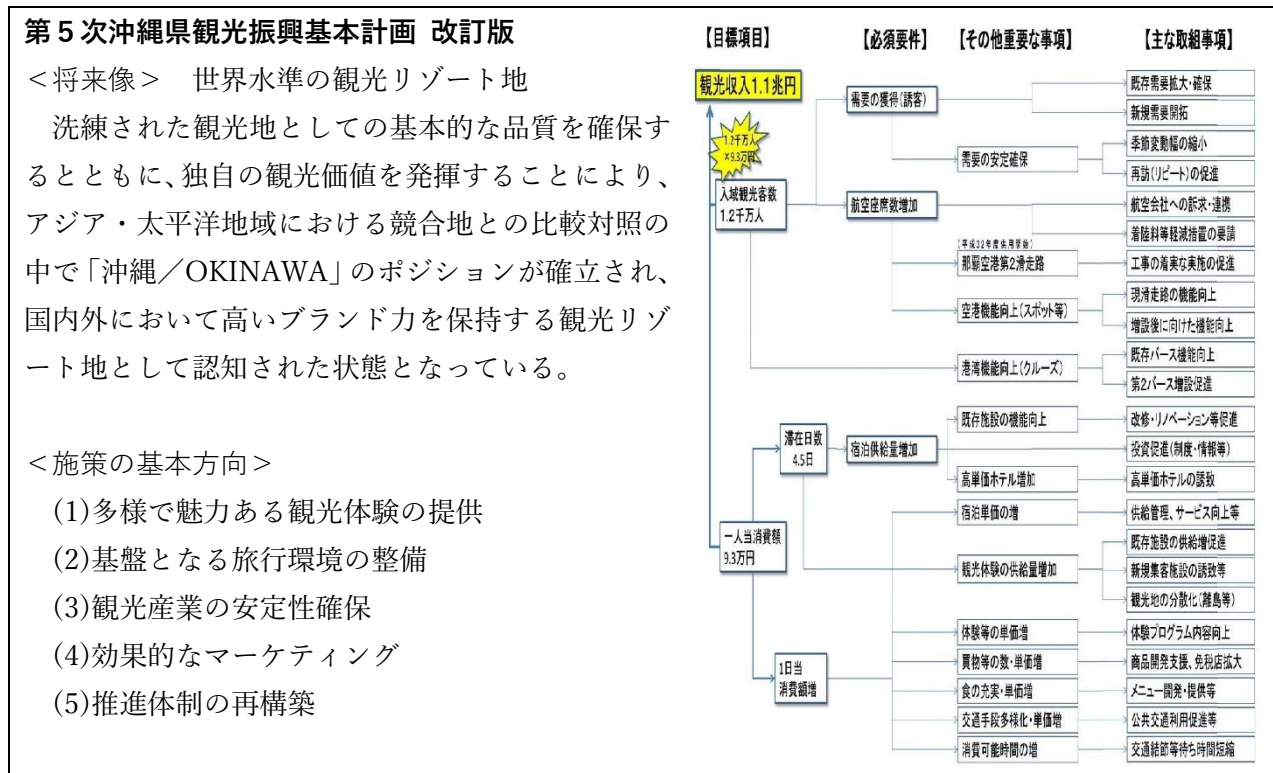
注 1：欧州は英国・フランス・ドイツの3カ国

(3) 沖縄県の観光を取りまく環境

沖縄県では、平成 22 年に県民が望む沖縄の将来像を示した「沖縄 21 世紀ビジョン」を策定し、平成 24 年に今後の沖縄振興分野を包含する総合的な基本計画である「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」及び具体的取組をまとめた「沖縄 21 世紀ビジョン実施計画」に基づき各種事業を推進しています。

また、観光を県経済のリーディング産業と位置づけ、沖縄県観光振興条例(昭和 54 年条例第 39 号)第 7 条に基づき、昭和 51 年度より 4 次にわたり観光振興基本計画を策定し、基盤整備等を進めてきました。また、あわせて、平成 14 年に国が策定した沖縄振興計画における分野別計画とし 3 次にあたる観光振興計画を策定し、具体的な取組を進めてきた結果、現在、国内有数の観光・リゾート地としての評価を得ています。

近年の動向を踏まえ、持続的に沖縄観光を維持・発展させ、更に今後とも沖縄観光が県経済を牽引し、わが国の経済発展にも寄与していくためには、国内外市場の戦略的開拓や環境と共生する観光地への展開、沖縄観光ブランドの構築などに積極的に取り組んでいく必要があることから、平成 29 年 3 月に「第 5 次沖縄県観光振興基本計画 改訂版」を策定し、この基本計画に掲げる目標の達成を目指し、官民一体となって観光振興施策を推進していくために、「沖縄観光推進ロードマップ」も策定しています。



また、「沖縄県観光振興基本計画」においては、MICE 振興によるビジネスツーリズムを沖縄観光の新機軸と位置付け、観光分野を中心とした MICE 振興の取組強化を図っていくこととしています。

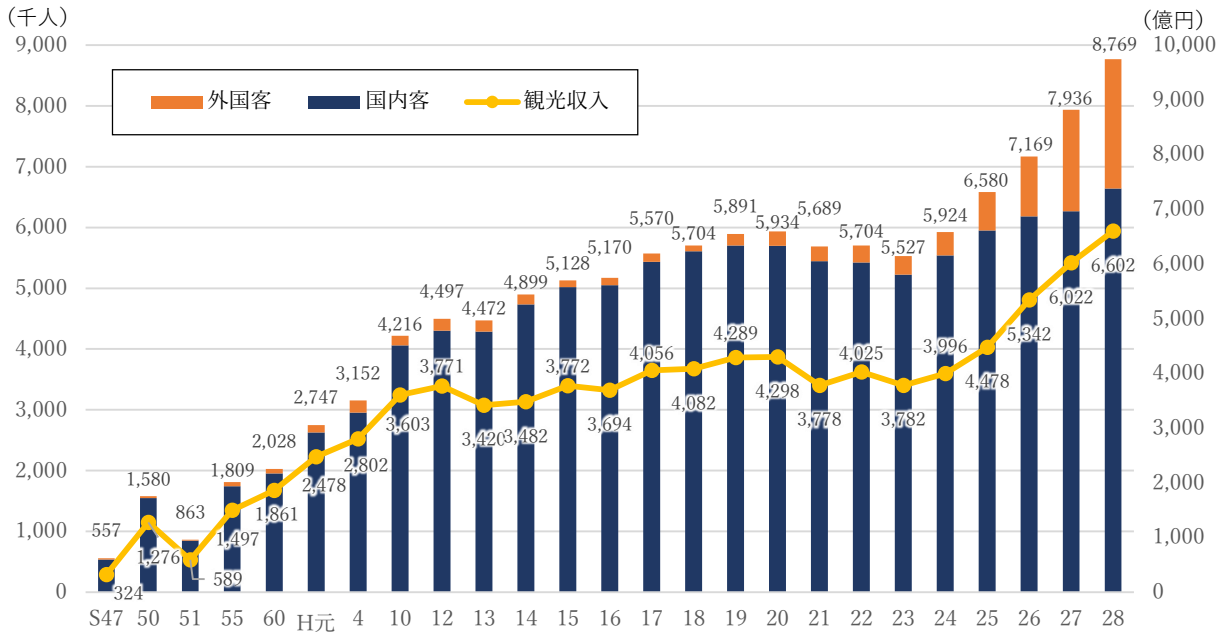
これらの計画等に示される沖縄県の MICE 振興に関する施策を体系的に整理し、取りまとめるとともに、MICE の推進・活用による県経済の発展及び国際的な MICE 開催地としての地位確立に向けた基本的な考え方や施策の展開方向等を具体的に示した「沖縄 MICE 振興戦略」を平成 29 年に策定するほか、中城湾港マリンタウン地区においても、沖縄県大型 MICE 施設の建設が予定されています。

■ 沖縄県の動向

○ 入域観光客数と観光収入の推移

平成 28 年度の入域観光客数は 876 万 9,200 人となったことで前年度実績 793 万 6,300 人を 83 万 2,900 人上回り、10.5%の増となりました。

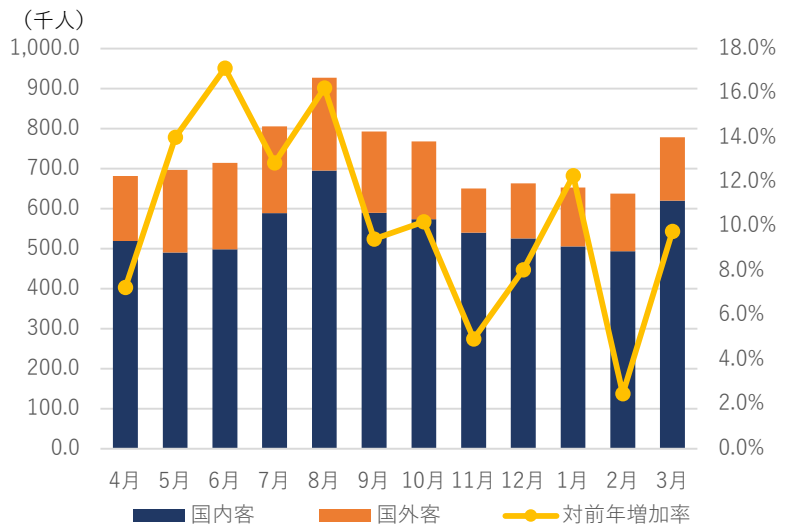
この内、国内客は前年度実績から 37 万 4,100 人(+6.0%)増加の 664 万 100 人、外国客は 45 万 8,800 人(+27.5%)増加の 212 万 9,100 人となりました。



出所：沖縄県「観光要覧」、「平成26年度沖縄県入域観光客統計概況」、「平成26年度の観光収入について」

○ 入域観光客数 (平成 28 年度 月別)

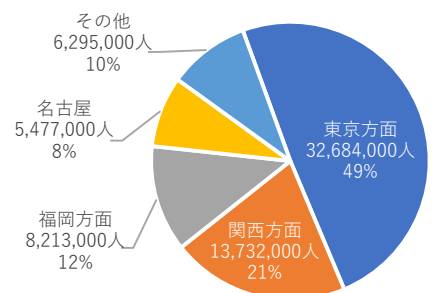
平成 28 年 8 月の入域観光客数は、92 万 6,900 人と、初めて 90 万人を超え、単月での過去最高を更新しました。
また、前年度に続き、全ての月で過去最高を更新したことに加え、全ての月で 60 万人以上を記録しており、ポトム期の底上げが進んでいます。



出典：沖縄県「平成 28 年版観光要覧」

○ 国内客 入域状況

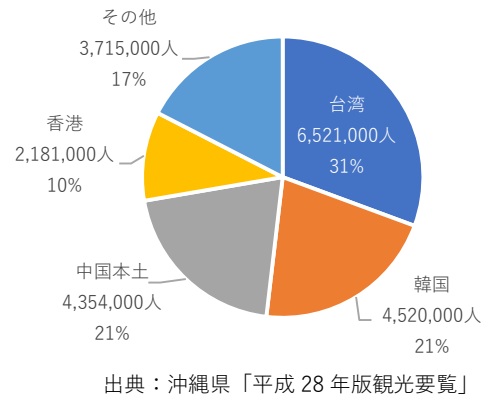
平成 28 年の国内客入域状況をみると、東京方面が 32,684,000 人と約半数を占めており、次いで関西方面が 13,732,000 人、福岡方面が 8,213,000 人と続いています。



出典：沖縄県「平成 28 年版観光要覧」

○外国客 入域状況

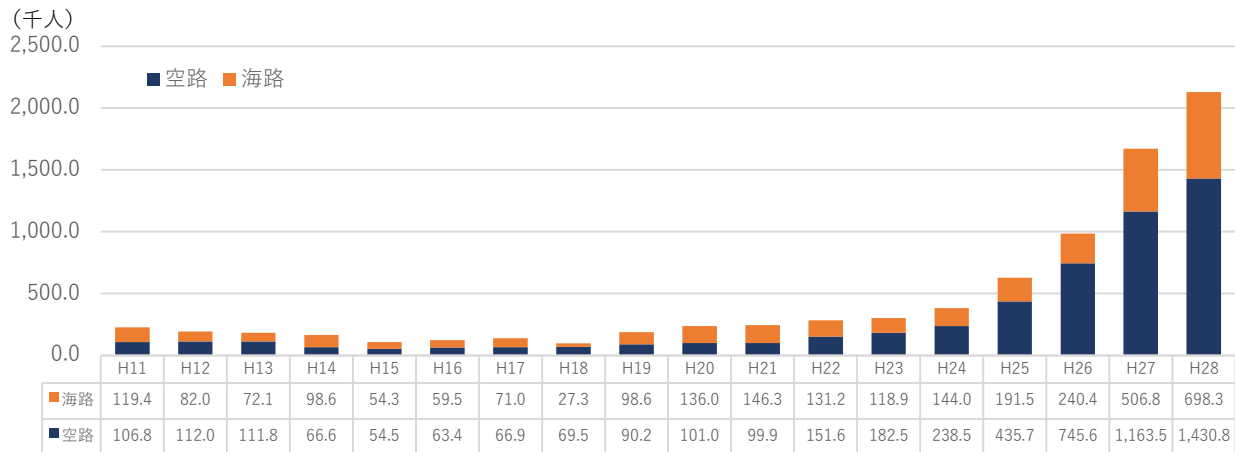
平成 28 年度の外国客入域状況をみると、国別の外国客入域状況としては、台湾から 6,521,000 人と最も多く、次いで韓国から 4,520,000 人、中国本土から 4,354,000 人などとなっています。



○外国人観光客数の推移（空海路別）

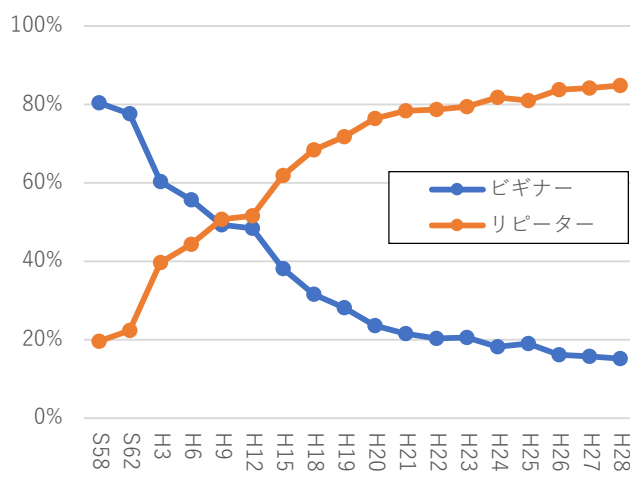
平成 27 年度から引き続き訪日旅行人気が続いていることに加え、沖縄発着航空路線の新規就航及び既存路線の増便があり、空路客が増加しています。また、クルーズ船の寄港回数が夏場を中心に大きく増加したことにより、海路客も大幅に増加しました。

平成 29 年度は、東アジアの主要国・地域において航空路線拡充の動きがあることや、クルーズ船の寄港回数が昨年を大幅に上回る予定となっていることから、引き続き好調に推移すると見込まれます。

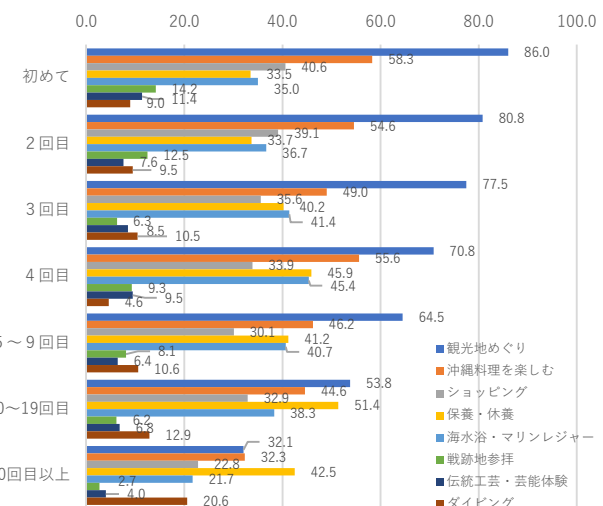


○初回来訪率とリピーター率の推移

平成 28 年度はリピーター率 84.8%と近年増加傾向です。また、訪問回数の増加に伴い、「観光地めぐり」から「保養・休養」へ活動の内容が移行傾向となっています。

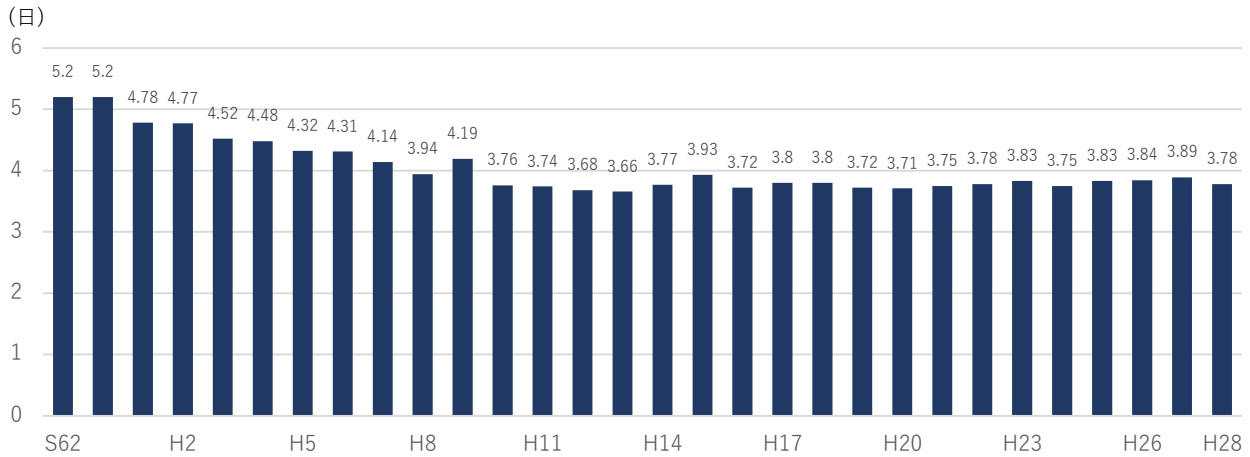


※H12 年度、H15 年度、H18 年度は航空機内で行った大規模調査による数値



○平均滞在日数の推移

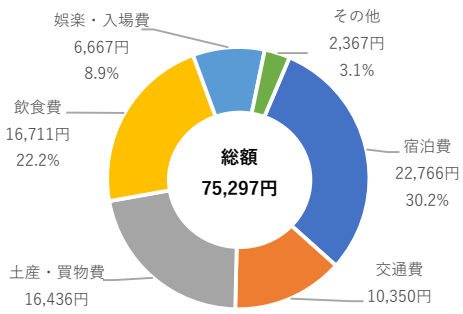
平均滞在日数については、平成 28 年度で「3.78 日」であり、近年横這い傾向です。



出典：沖縄県「観光統計実態調査」 ※H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値

○観光客一人あたり県内消費額

観光収入は、入域観光客数の大幅増により、前年度と比較して 9.6% の増加となり、4 年連続で過去最高を記録しています。なお、観光客一人あたり県内消費額は前年度と比較して微減しています。

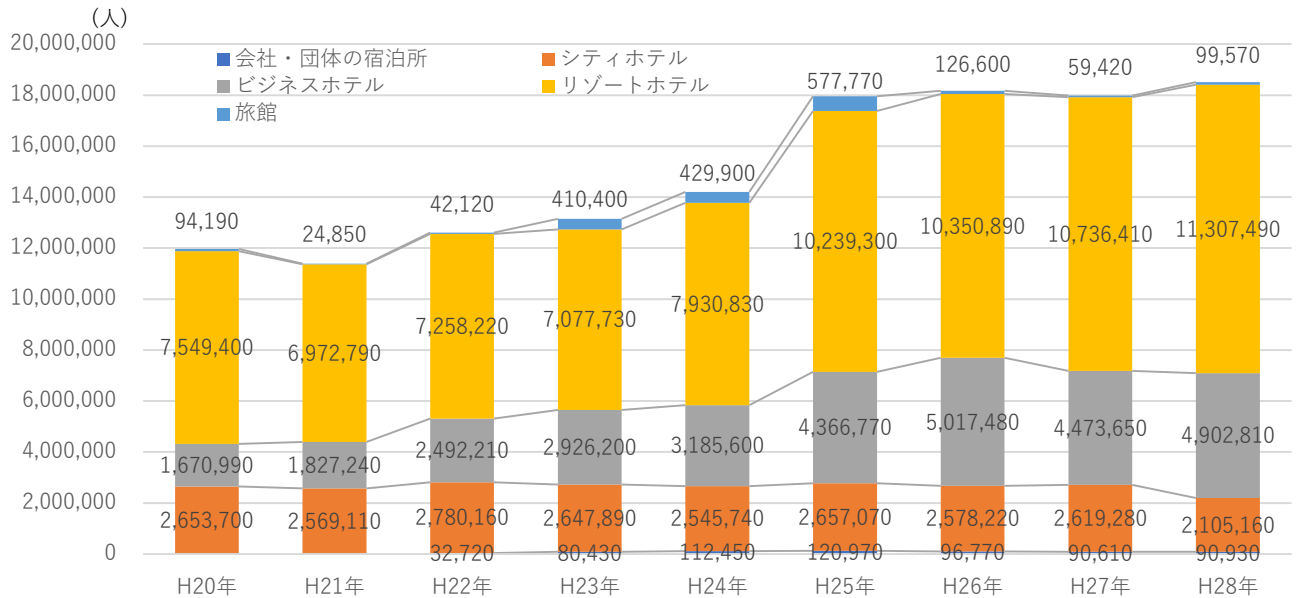


出典：沖縄県「平成27年観光統計実態調査」

年度	観光収入 (百万円)		観光客一人あたり消費額 (円)		入域観光客数 (人)	
	実績	対前年度比	実績	対前年度比	実績	対前年度比
H18年度	408,286	100.6%	71,560	98.3%	5,705,100	102.4%
H19年度	428,939	105.1%	72,795	101.7%	5,892,300	103.3%
H20年度	429,882	100.2%	72,458	99.5%	5,934,300	100.7%
H21年度	377,832	87.9%	66,403	91.6%	5,690,000	95.9%
H22年度	402,526	106.5%	70,553	106.2%	5,705,300	100.3%
H23年度	378,264	94.0%	68,427	97.0%	5,528,000	96.9%
H24年度	399,674	105.7%	67,459	98.6%	5,924,700	107.2%
H25年度	447,868	112.1%	68,062	100.9%	6,580,300	111.1%
H26年度	534,172	119.3%	74,502	109.5%	7,169,900	109.0%
H27年度	602,214	112.7%	75,881	101.9%	7,936,300	110.7%
H28年度	660,294	109.6%	75,297	99.2%	8,769,200	110.5%

○宿泊施設タイプ・延べ宿泊者数の推移

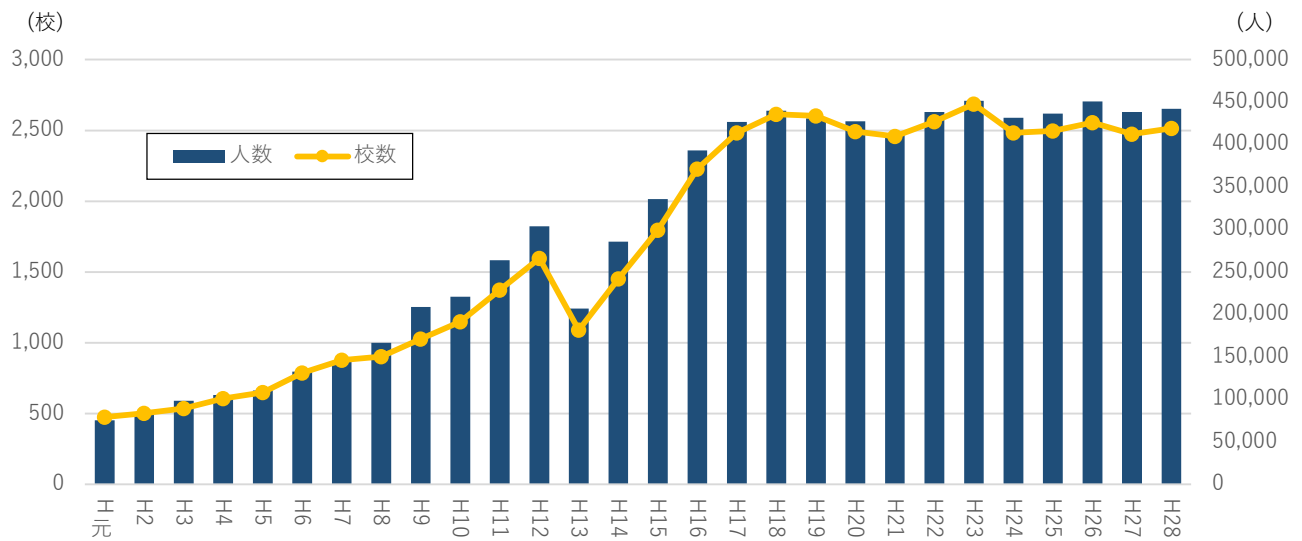
平成 25 年以降の延べ宿泊者数は、概ね横這いの傾向となっています。また、宿泊施設タイプ別で見ると、リゾートホテルの延べ宿泊者数が最も多くかつ増加傾向です。



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

○沖縄修学旅行の入込実績

平成23年は東日本大震災による旅行先の振替の影響もあり、校数、人数ともに過去最高となりましたが、平成24年は一昨年の水準に戻りました。平成23年を除くと、平成17年からは2,500校前後、40～45万人で推移しています。



出典：修学旅行に関する統計

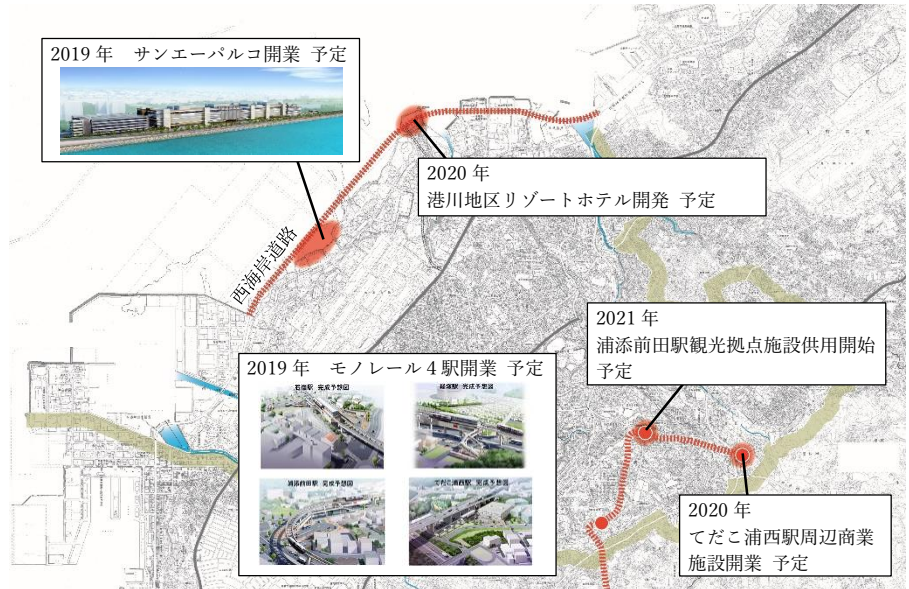
2. 浦添市観光振興計画の策定

(1) 計画策定の経緯・目的

浦添市は国道により市域が東西に分かれ、西海岸部分は牧港補給地区があり、観光客が滞在するような宿泊施設等も少ないことから観光による経済効果を楽しむににくい状況になっています。

しかし、本市には手付かずのイノーや国指定史跡浦添城跡のほか、桑関連の市産品などといった多くの知られざる「観光コンテンツ」を有しています。

これらの観光コンテンツを十分に活かすため、いまだ未整備である市の観光振興の指針となる「浦添市観光振興計画」を策定・事業化し、今後展開が予定されている西海岸開発やモノレール延長との相乗効果により、経済効果を十分に享受することを目的とします。

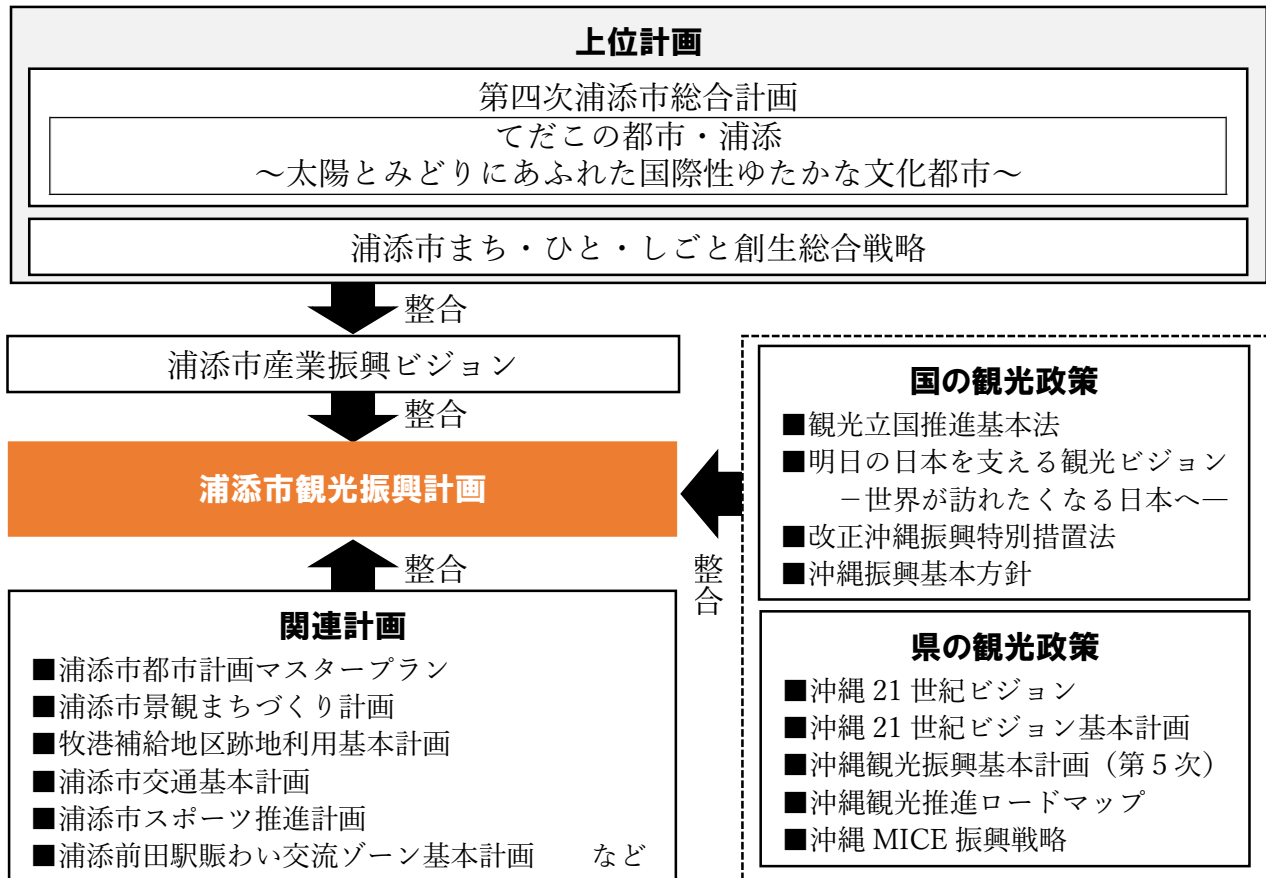


《2018年度からの本市に係る主な出来事》

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
各種計画	第四次浦添市総合計画・基本構想 後期基本計画 (H28～)		(仮) 第五次浦添市総合計画・基本構想 前期基本計画					
	浦添市まち・ひと・しごと 創生総合戦略 (H28～)							
	浦添市産業振興ビジョン							
	浦添市観光振興計画							
	前期計画 (3年)			後期計画 (5年)				
予定		<ul style="list-style-type: none"> モノレール4駅開業 サンエーパルコ開業 	<ul style="list-style-type: none"> てだこ浦西駅周辺商業施設開業 港川地区リゾートホテル開発 	<ul style="list-style-type: none"> 浦添前田駅観光交流拠点施設供用開始 				<ul style="list-style-type: none"> 2025年以降 牧港補給地区返還 (予定)

(2) 計画の位置づけ

「浦添市観光振興計画」は、浦添市の上位計画である第四次浦添市総合計画（基本構想・後期基本計画）及び浦添市都市計画マスタープラン等の関連計画と密接に関連し、かつ国及び沖縄県の観光関連計画等との整合を図ります。



(3) 浦添市観光振興計画の計画期間

本計画の計画期間は、2018 年度から 2025 年度までの 8 年間とします。

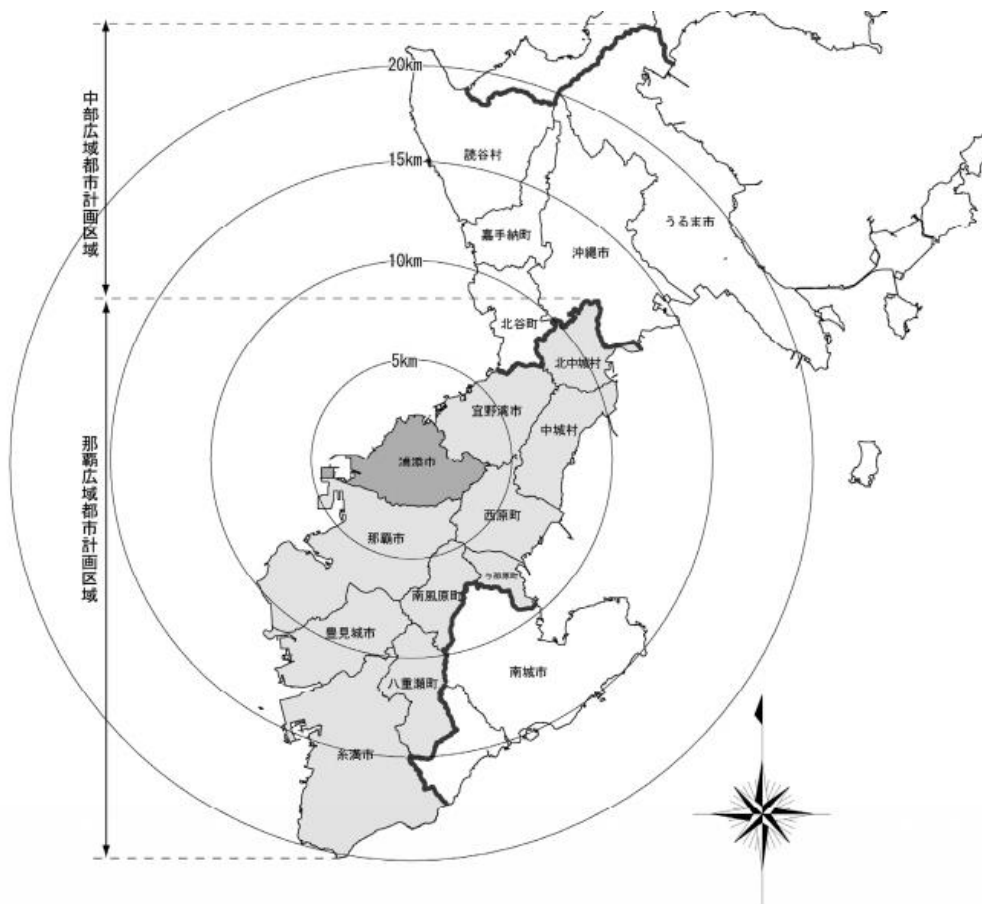
第2章 観光の現状と課題

1. 浦添市の現状

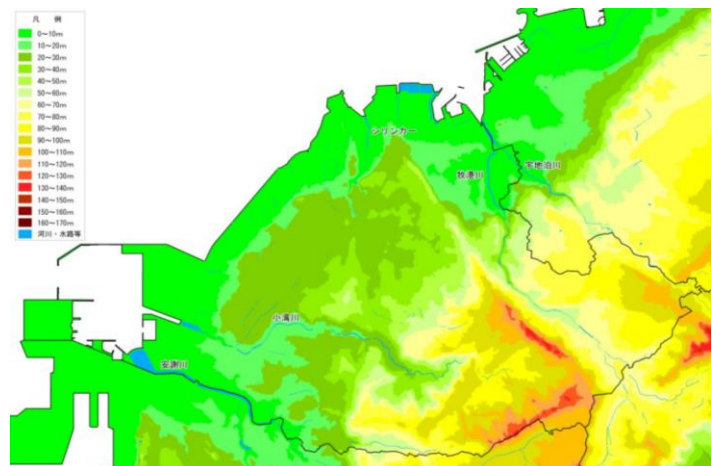
(1) 浦添市の概要

浦添市は、沖縄本島南部に位置しており、西は東シナ海に面し南は県都那覇市、東は西原町、北は宜野湾市に接しています。市域（飛地を含む）は、東西 8.4km、南北 4.6km で、北を頂点として南西と南東に広がった扇状の形をしており、面積 1,927ha を有する都市です。

市域全域が近隣 5 市 4 町 2 村とともに那覇広域都市計画区域に指定されています。（那覇広域都市計画区域：那覇市、浦添市、宜野湾市、糸満市、豊見城市、西原町、与那原町、南風原町、北中城村、中城村の全域及び八重瀬町の旧東風平町域）

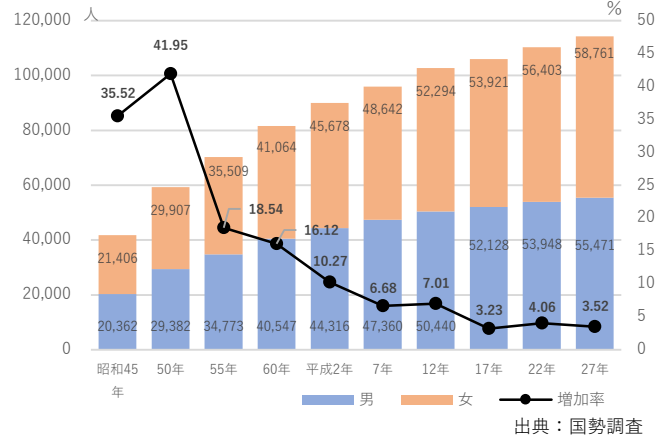


本市の地形は、東から西にかけて緩やかに傾斜しており、東部の仲間、安波茶、経塚、西原、沢岬一帯は標高約 100m の丘陵地帯、西部の勢理客から仲西、宮城、屋富祖、城間、港川に至る国道 58 号沿いは標高 20～30m の台地となっています。また、東部と西部の中間部分は台地に挟まれて窪地となっています。



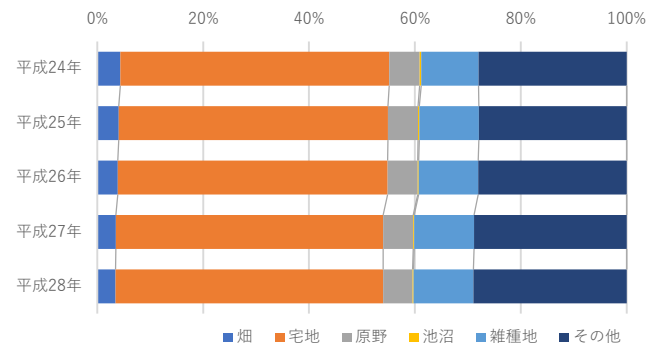
①人口

市街地の拡大により着実に人口が増加し、平成27年には、人口114,232人となっています。昭和45年からの45年間で、人口は約7.2万人増加しています。



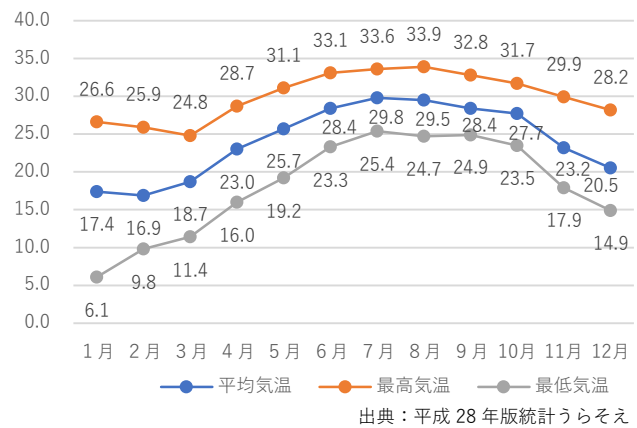
②土地利用

浦添市の土地利用については、宅地が約4割以上を占めており、この5年間で微増しています。次いで、軍用地やその他の土地利用が占めており、畑や原野の面積がごくわずかという状況になっています。



③気候

浦添市が位置する沖縄本島は、亜熱帯性海洋気候に属しており、1年を通して温暖な気候となっています。浦添市については、観光シーズンである夏の時期の最高気温は約33℃となっており、その他の季節についても平均気温は23℃前後となっており、温かい気候となっています。



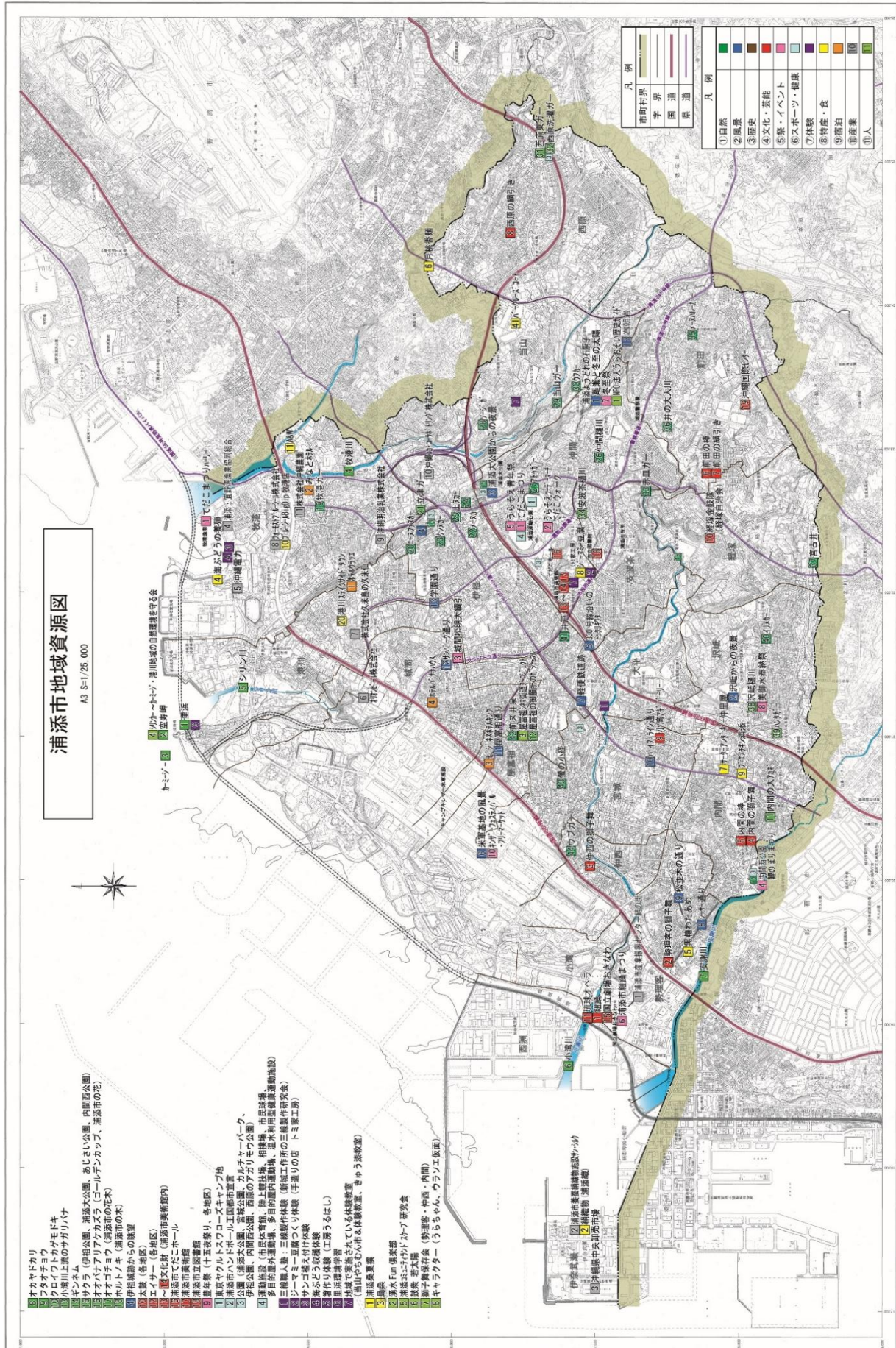
④産業

平成27年の就業人口は46,104人となっています。部門別産業就業者の割合を見ると、第3次産業が全体の75.7%、次いで第2次産業が13.1%、第1次産業が0.4%の順でそれぞれ占めています。

分類	人数	割合
第1次産業	農業	136 0.3%
	林業	3 0.0%
	漁業	51 0.1%
第2次産業	鉱業、採石業、砂利採取業	9 0.0%
	建設業	3,820 8.3%
	製造業	2,230 4.8%
第3次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	328 0.7%
	情報通信業	1,514 3.3%
	運輸業、郵便業	2,200 4.8%
	卸売業、小売業	7,334 15.9%
	金融業、保険業	1,186 2.6%
	不動産業、物品賃貸業	1,101 2.4%
	学術研究、専門・技術サービス業	1,710 3.7%
	宿泊業、飲食サービス業	2,816 6.1%
	生活関連サービス業、娯楽業	1,617 3.5%
	教育、学習支援業	2,446 5.3%
	医療、福祉	6,220 13.5%
	複合サービス事業	322 0.7%
	サービス業（他に分類されないもの）	4,049 8.8%
	公務（他に分類されるものを除く）	2,053 4.5%
分類不能の産業	4,959 10.8%	
合計	46,104 100.0%	

出典：平成27年国勢調査

(2) 浦添市の観光資源、地域資源

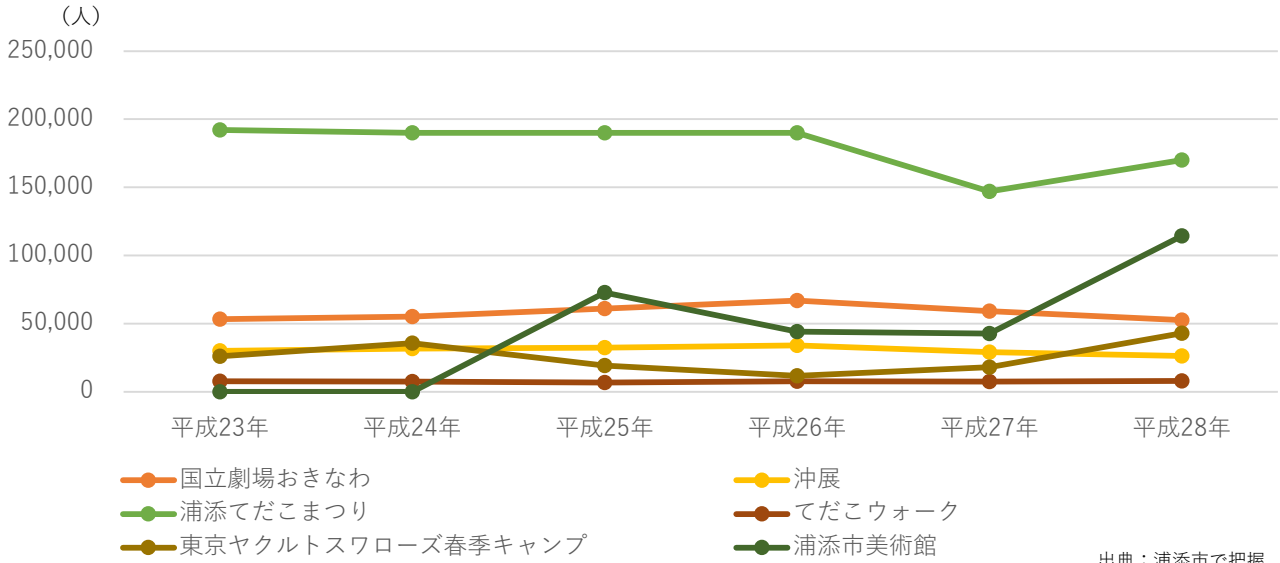


平成 24 年度「浦添市着地型観光商品うらおそいでこ回廊開発事業」委託業務での調査より、参照。

(3) 浦添市の観光実態

○主要観光施設及びイベント等の入込客数

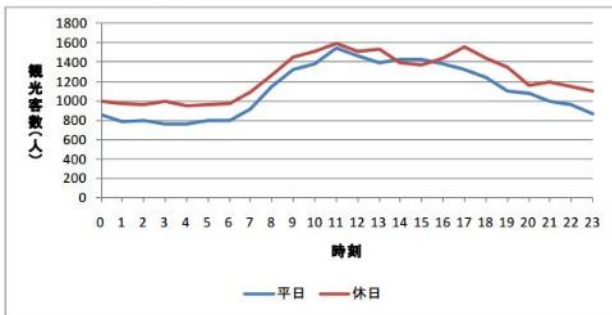
主要な観光施設及びイベント等の入込客数は、減少傾向となっています。



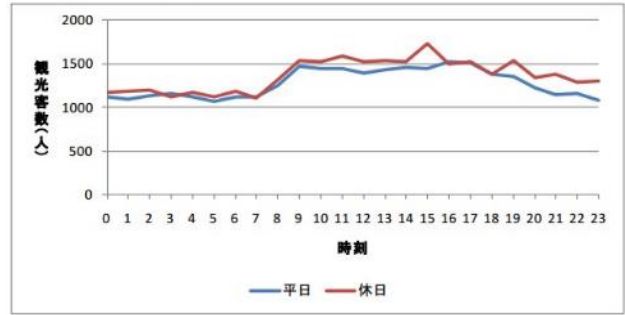
○県外観光客数の時間推移

夜間に比べ、昼間の観光客が増加しています。その傾向は1月に比べ10月の方が大きく、10月では夜間の観光客は休日の方が多いが、昼間はあまり変わらない傾向をもっています。また、1月の平日と休日の差は小さくなっています。

図表 VI-2-51 浦添市(10月)



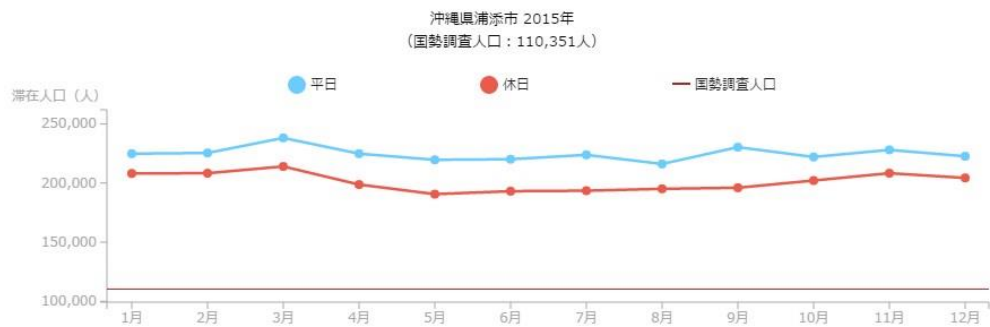
図表 VI-2-52 浦添市(1月)



出典：平成24年度戦略的リピーター創造事業報告書

○地域経済分析システム (RESAS) におけるデータ

・滞在人口月別推移



【出典】株式会社Agoop「流動人口データ」

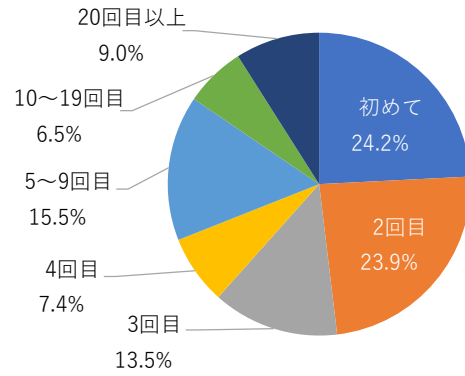
【注記】滞在人口とは、市区町村単位で滞在時間が2時間以上の人口を表している。
 熊本市の区については、熊本市が平成24年4月に政令指定都市となったため、平成22年の国勢調査人口が区単位になっておらず、滞在人口率は計算されない。

2. 浦添市観光実態調査結果

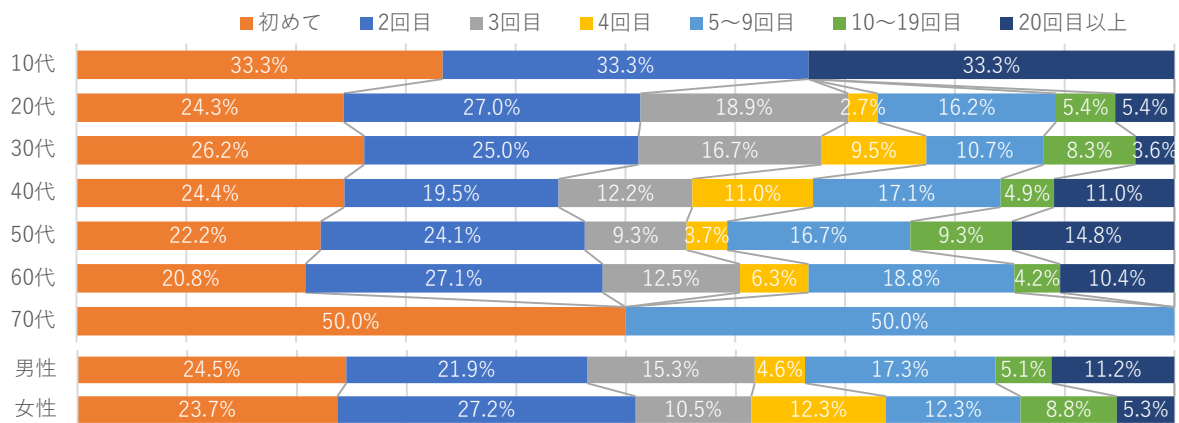
「平成 28 年度版 浦添市観光統計実態調査（サーベイ）－観光客の声－」で行われたインターネットアンケート調査の結果をもとに、以下の傾向を分析することができます。

○来県回数

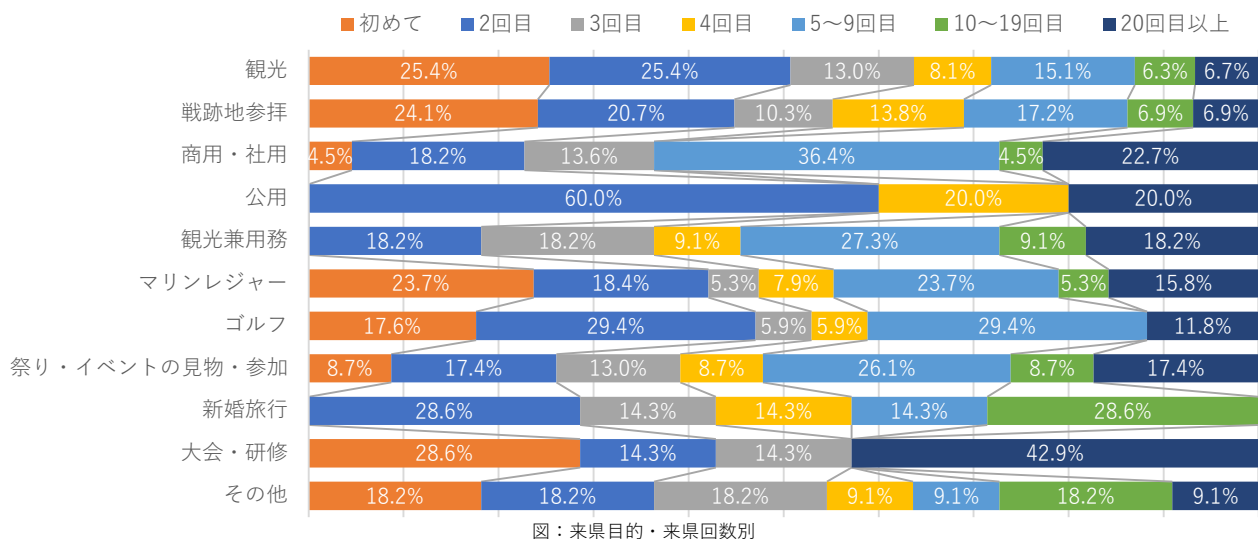
来県回数については那覇市が「4 回目以上」が最も多く、「2 回目」「3 回目」の順となっている一方で、浦添市の場合は「初回」が最も多く、「2 回目」「3 回目」の順になっています。よって、那覇市の場合、沖縄観光のリピーターが主なターゲットである一方で、浦添市の場合、来県経験が浅い訪問者がターゲットと考えるべきでしょう。



回答者の来県回数を年代別でみると、ほぼ全年代で「初回」が多いものの、年代が高くなるにつれ訪問回数が増える傾向にあります。性別でみると女性の場合、「2 回目」の割合が最も大きく、年代が上がるに連れ訪問の回数も増える傾向にあります。よって、浦添市の場合、沖縄観光初心者の来訪が多い一方で、年齢が高い、あるいは女性の沖縄観光のリピーターの訪問が多いことがわかります。



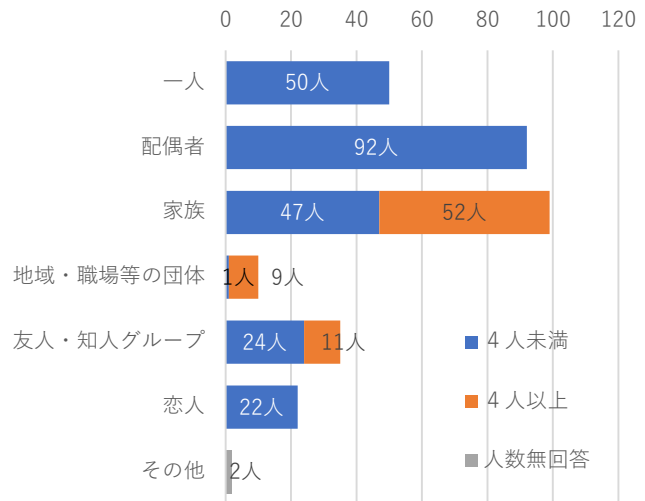
回答者の来県回数を来県目的別でみると、「初めて」とした回答者は、浦添市の場合も大会・研修目的、戦跡地参拝といった短期あるいは、代表的な観光コンテンツの場合高くなっています。



○同行者

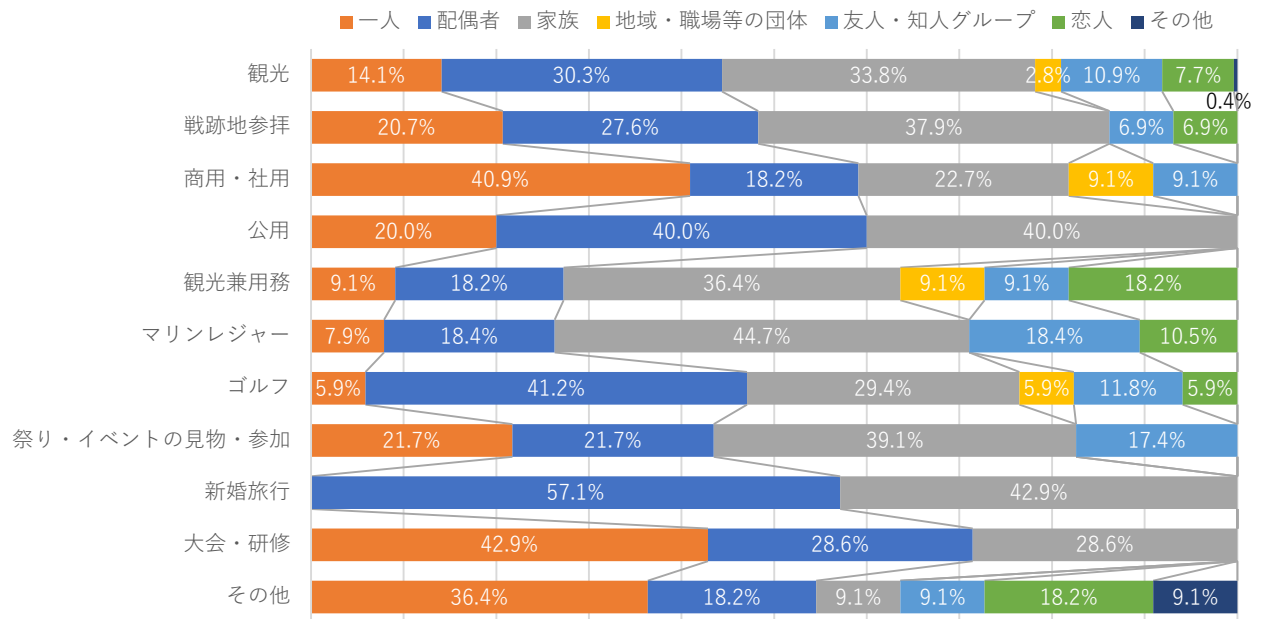
同行者を回答の多い順から並び替えると、那覇市の場合「夫婦」が最も多い一方、高齢者を除き浦添市の場合は「家族」が最も多くなっています。次いで「配偶者（夫婦）」が高く、以降は那覇市同様「友人・知人グループ」、「一人」、「恋人」、「地域・職場の団体」「その他」の順となっています。

また、「家族」、「地域・職場等の団体」を比べると、那覇市は、4人未満が多いものの浦添市の場合は4人以上が多いことから、浦添市を訪問した団体の方が、若干数が多いという特徴があります。



図：同行者別

また「家族」と同伴の場合は、マリトレジャー、新婚旅行、公用、戦跡地参拝を目的に来県したケースが順に高く、「夫婦」と回答した割合は、新婚旅行（当然ですが）、ゴルフ、公用の順に高い傾向がありました。「一人」と回答した割合は、（当然ですが）大会・研修、商用・社用、その他の目的が高く、「地域・職場の団体」と回答した割合は、祭り・イベントの見物・参加が多くなっています。

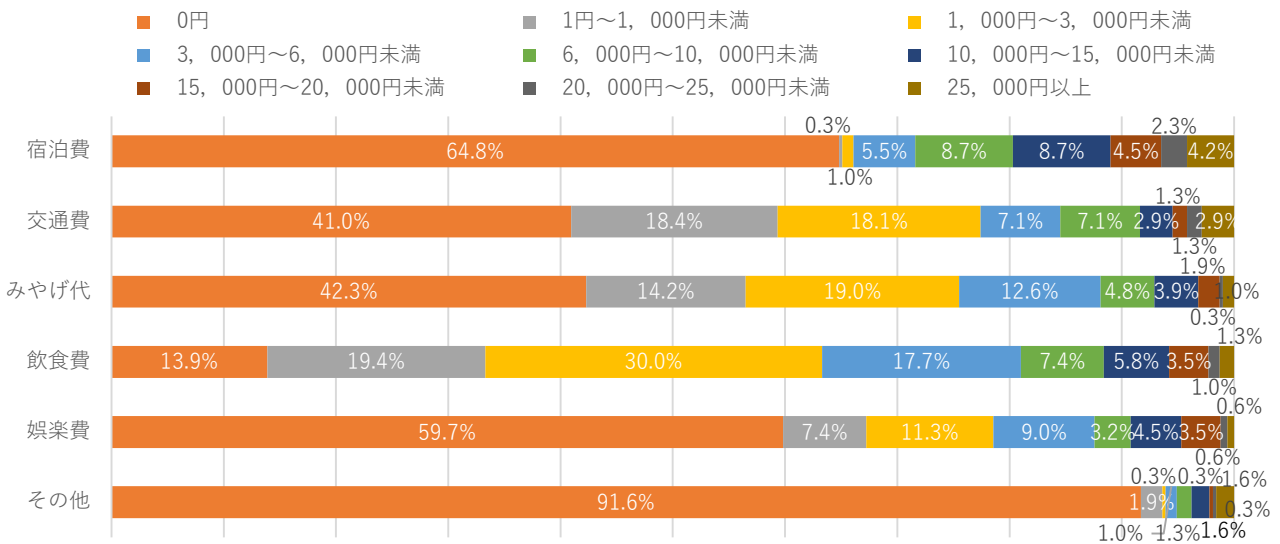


図：来県目的・同行者別

○浦添市内だけで支出した一人当たりの費用

浦添市内だけで支出した一人当たりの費用を5費目挙げ、金額を区切り回答者の割合をみると、飲食費を除く全ての費目で「0円」が最も多く、来訪者が浦添市ではほとんど支出していないことがわかります。

交通費の占める割合は高くなっていますが、反面これは市内の移動に利用できる公共交通機関が少ないことの裏返しともとれることから、必ずしも歓迎すべき傾向とは言えないものと思われます。浦添観光の場合いづれにせよ、来訪者の数も問題ですが、来訪しても市内での支出が伴わない、つまり経済効果を期待できない状況にあります。

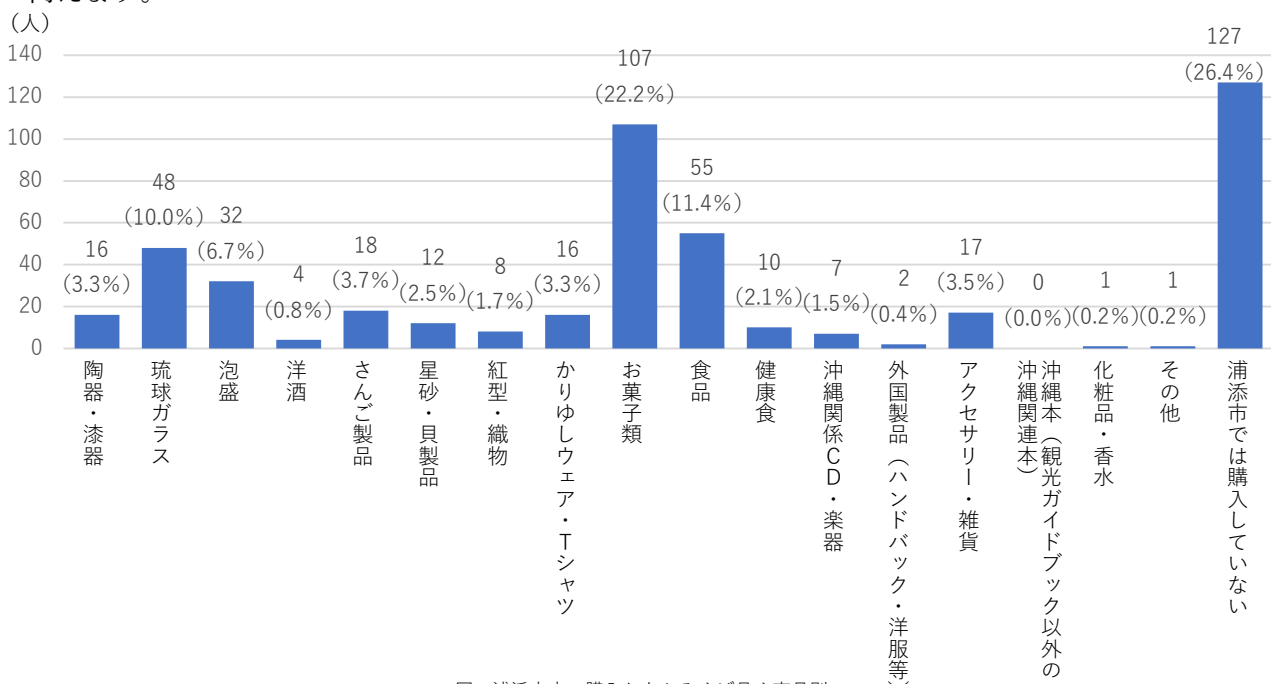


図：浦添市内だけで支出した一人当たりの費用別

○浦添市内で購入したおみやげ品や商品

「浦添市内では購入していない」26.4%を除き、市内で購入したおみやげ品や商品を多い順から並び替えると、「お菓子類」が最も多く、「食品」、「琉球ガラス」、「泡盛」等と続いています。

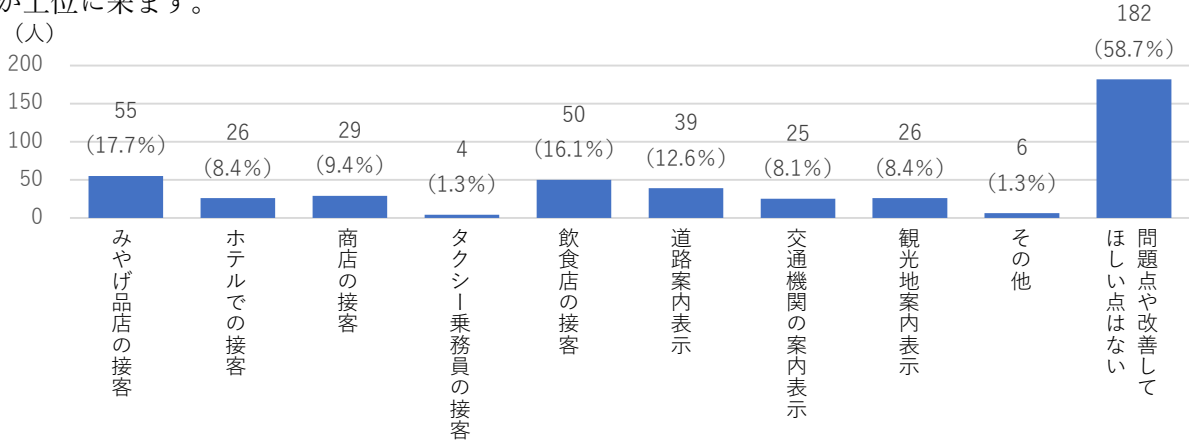
「琉球ガラス」と「泡盛」の順位に逆転が見られるものの、那覇市の上位3項目と変わらないことを踏まえると、浦添市のおみやげ品も地域特性の無い、県内どこでも手に入る類のものであることが伺えます。



図：浦添市内で購入したおみやげ品や商品別

○サービス面における問題点や改善点

サービス面における問題点や改善点を「その他」を除き回答の多い順から並び替えると、浦添市の場合「みやげ品店の接客」、「飲食店の接客」が上位にあり、それらは那覇市よりも上位にあります。次いで、那覇市では最も多い「道路案内表示」が続き、次は再び「商店での接客」と接客に対する不満が上位に来ます。

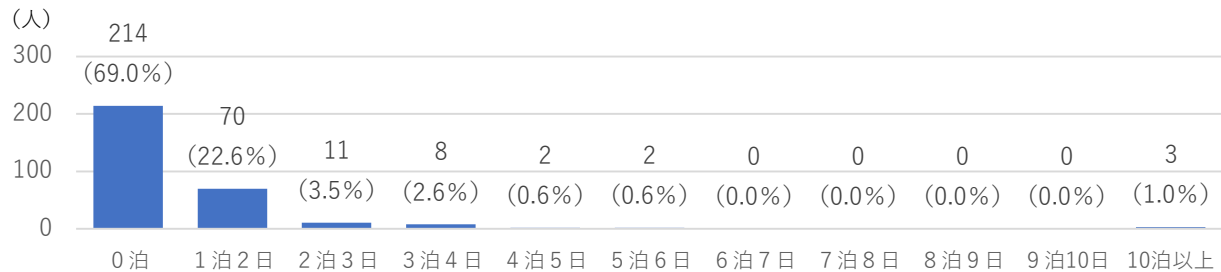


図：サービス面における問題点や改善点別

○浦添市内滞在日数

浦添市内での滞在日数は69.0%が「0泊」、すなわち滞在せずとなっています。22.6%を占める「1泊2日」のような短期滞在の民泊やAirbnbのような個人経営を除き、宿泊先がほとんど存在しない浦添市の場合、これは妥当な結果と言えるでしょう。「2泊3日」以上の宿泊に関しては備考などから知人、親類・縁者先への宿泊を指すものがほとんどです。

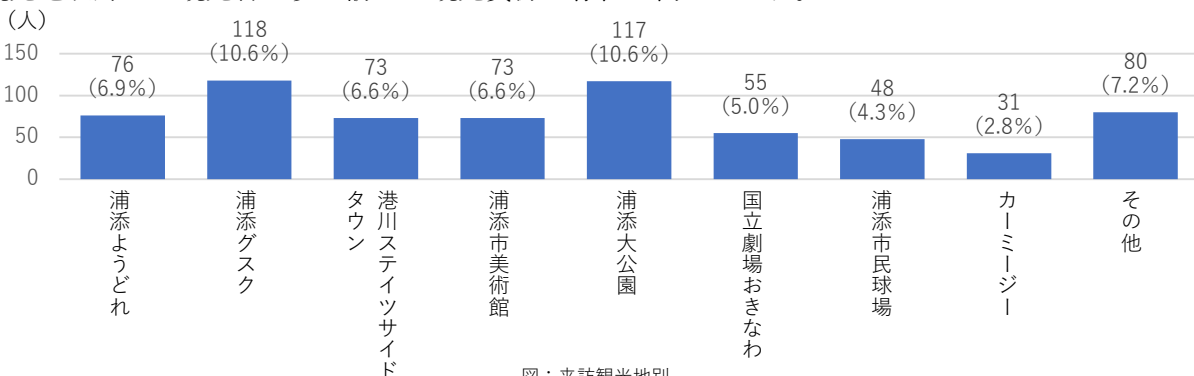
ちなみに、那覇市の場合、「1泊2日」の割合が38.5%と最も高く、次いで「2泊3日」の35.8%から「9泊10日まで」、宿泊数の少ない順にその割合が高くなっています。



図：浦添市内滞在日数別

○来訪観光地

浦添市内で観光客の訪問が多い観光資源は「浦添城」や「浦添ようどれ」といった「浦添大公園」を含む周辺施設が最も多く、同地域だけで47.0%に上ります。続いて「浦添市美術館」が6.6%、「港川ステイツサイドタウン」です。「その他」が7.2%と高率を示すことから、選択肢で挙げた代表的な観光地以外にも観光客は多く訪れる観光資源の存在が伺われます。

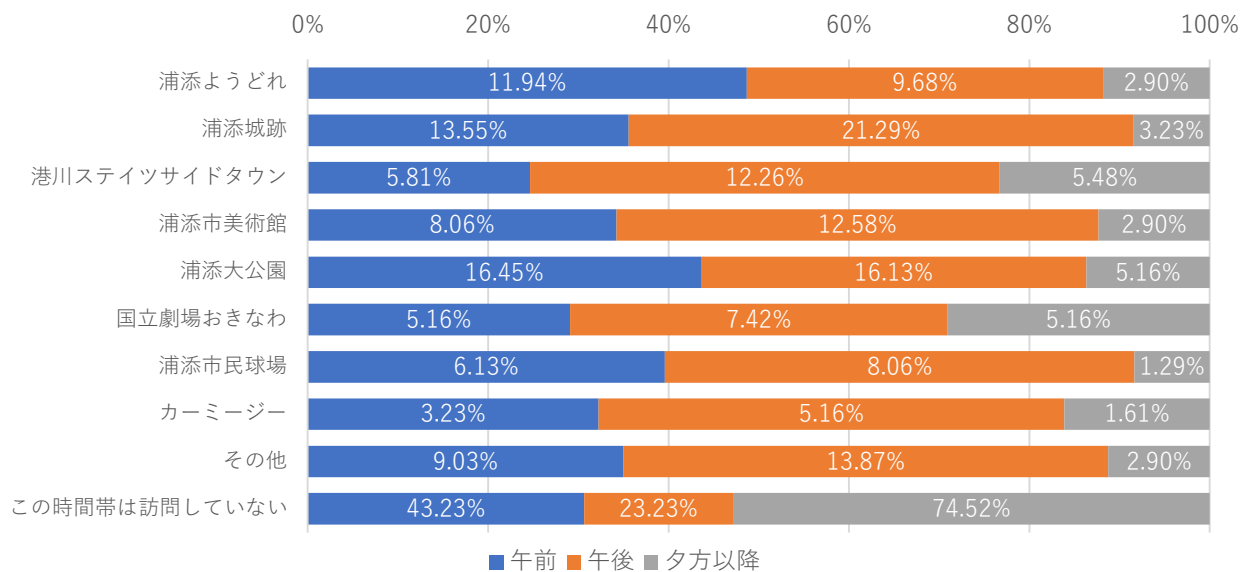


図：来訪観光地別

来訪時間帯別で見ると、開演時間の影響で夕方以降の比率が高い「国立劇場おきなわ」を除き、那覇市の国際通りやてんぶす那覇、DFS や牧志公設市場に波の上ビーチなどの夕刻の訪問に適した観光地が少ないことは一目瞭然です。

「浦添市民球場」はヤクルトスワローズのキャンプの見学、「浦添市美術館」は展示作品の観覧が主な目的であることから、日中を通じての訪問が多い一方で、「浦添城跡」や「浦添ようどれ」といった「浦添大公園」の主要訪問地は、日差しが柔らかい午前中の訪問が多いようです。

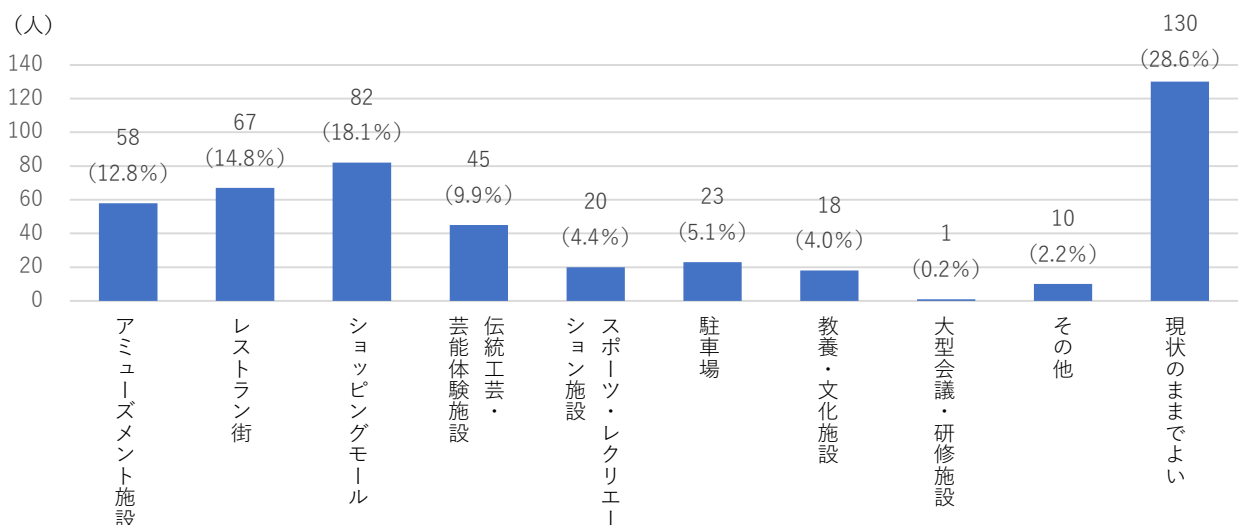
カーミージーへの訪問が午前・午後へシフトしているのは同地で行われている自然観察ガイドの時間の影響と思われるが、強い日差しでも干潟は涼しいことが、日中の誘客に繋がっているのであれば、干潟観光は浦添観光の訪問時間の分散に一役買えるかもしれません。



図：来訪観光地・時間帯別

○浦添市内にほしい施設

「その他」を除いて浦添市に欲しい施設を回答の多い順から見ると、「現状のままでよい」が28.6%と最も高い一方で、「ショッピングモール」が18.1%、「レストラン街」や「アミューズメント施設」が10%を超え、「伝統工芸・芸能体験施設」の9.9%を凌いでいます。



図：浦添市に欲しい施設別

3. 浦添市の観光の課題

(1) 市民ワークショップの開催による市民の声

本計画の策定にあたり、浦添市民の機運の醸成を図るとともに、市民が日頃抱いている想いを把握するために、市民ワークショップを開催しました。

《市民ワークショップの開催概要》

回・日時	内容
第1回 7月1日(土) <参加者14名>	<p>■浦添市の観光地域づくりを考えよう～将来像～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、友人が浦添に来たときに市内で案内したいところはどこですか。 ・今後、浦添に観光客が来ることで期待することはどのようなことですか。 ・今後、浦添に観光客が来ることで問題だと思ふことはどのようなことですか
第2回 7月8日(土) <参加者17名>	<p>■浦添市の観光地域づくりを考えよう～方向性～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浦添での「遊ぶ」「食べる」「買う」のテーマについて ・上記のテーマごとに、以下検討。 「なにを」：どんなことができるか、どんなものが面白いのか 「どこで」：浦添のどこにあるモノ・コトか 「だれが」：ターゲットを誰にするか、どのような方に来てほしいか 「その他」：最も良い時間帯・季節、展開する価格帯など
第3回 8月26日(土) <参加者11名>	<p>■浦添市の観光地域づくりを考えよう～取組・アイデア～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各エリアにおける浦添ならではの楽しみ方等を検討。 (エリア) A：カーミーゼー、牧港、港川（港川ステイツサイドタウン等） B：浦添グスク～浦添大公園～てだこホール・美術館 C：屋富祖

■ワールド・カフェ方式の採用

参加者が話しやすく環境をつくり、発言機会を増やし、参加意識を高め、参加者同士のつながりをつくることを目的に、「ワールド・カフェ方式」を採用しました。

この方式により、少人数に分かれたテーブルでテーマに応じて自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることができました。



～住民満足度について～

「第四次浦添市総合計画 後期基本計画」の策定にあたり、平成27年度に市民アンケート調査を実施し、前期計画の施策に対する満足度を点数化※しています

<平均満足度> ※5段階評定法（5：満足、4：やや満足、3：ふつう、2：やや不満、1：不満）に基づく数値

政策	平均満足度
政策1 希望と活力にあふれた生活創造都市	2.85点
政策2 世界へ翼を広げる交流文化都市	3.06点
政策3 とともに支え合う健康福祉都市	2.97点
政策4 安心安全でやすらぎにみちた快適環境都市	3.04点
政策5 ひと・まち・未来が輝く市民協働都市	3.02点

(2) 浦添市の観光の課題

浦添市の現状等や平成 28～29 年度に開催した市民ワークショップ、作業部会、検討委員会、審議会でも出ました意見等を踏まえ、これから観光振興を進める際の課題を以下のように整理します。

課題① 地域の歴史・文化・芸能の保存・活用

- 浦添市には、首里城以前の中山王城として知られる浦添城跡をはじめ、様々な歴史的なストーリーが存在します。しかし、これら歴史文化資源は、観光的な活用が進められておらず、アンケート調査の結果、来訪している観光地として「浦添城跡」が上位にあるものの、まだまだ市内外の認知度が低い状態です。浦添市らしい知る人ぞ知る通のコンセプトやストーリーを構築し、それらを積極的に活用したコンテンツを造成し、歴史・文化・芸能の産業化を図る必要があります。
- 浦添城跡の近接地にモノレール駅が建設されることから、浦添城跡や浦添市美術館等といった歴史・文化資源を核とし、その周辺の活性化を図っていく必要があります。
- 浦添城跡は長い歴史の中で荒廃し、戦前まで残っていた城壁も大部分が破壊され、現在、発掘調査や復元整備が進められています。今後も継続的に調査・整備を進めていくほか、文化財が有する歴史的な価値を活用し、積極的にソフト面を充実させ、その価値を理解してもらい、来訪者の満足度をあげていくことが必要です。また、文化財の活用を通じて、市民の誇りや地域プライドを醸成していく必要があります。
- 浦添市内では、空手や踊り、獅子舞、綱引き等といった地域固有の歴史文化が根付いていることから、これら歴史文化の観光コンテンツ化を進め、歴史・文化・芸能の産業化を図り、地域内の伝統文化といった視点だけではなく、来訪者に“見せる”ものの視点も加え、地域活性化を推進していく必要があります。
- 沖縄県の伝統文化であり、国指定重要無形文化財及びユネスコ無形文化遺産に登録される「組踊」の保存・振興を目的とした国立劇場おきなわが立地していることから、これまで様々な連携を行い、組踊の普及を行ってきました。年度内来場者数は増加しているものの、さらに連携を図り、組踊の認知度の向上、そして来訪者の誘客を高めるコンテンツとして磨き上げる必要があります。

課題② 自然環境の保存・活用

- 牧港補給地区（キャンプキンザー）の存在により、浦添市内の海は開発されず、今でもきれいな海が残っています。海は観光資源のひとつであることから、貴重な海の資源の保護や環境保全を図りながら、誘客するためのコンテンツとして自然環境を活用していくことが求められます。その中でもカーミージーは、従来から港川地域住民による里浜や小中学校などの環境学習の場として利用されてきました。臨海道路浦添線の開通により、訪れる人が増加することが予測されることから、貴重な西海岸の自然を生かした取組を推進し、イノアの保全と活用の両輪で取組を進めていく必要があります。

課題③ 魅力的な商品（モノ・コト）の活用・造成

- 近年、滞在コンテンツの形態が「モノからコト」へ変化していることから、文化的な資源や食、スイーツ観光といった親和性の高い浦添市の資源を活用して、「コト」を造成していく必要があります。また、屋外での地域資源が多く、雨天時でも対応することができるコンテンツが少ないため、雨天時でも楽しむことができるコンテンツの構築も必要となります。
- 浦添市内で印象深い体験を造成し、修学旅行生といった若い世代に提供することで、将来、浦添市のリピーターにつながる可能性があります。
- 浦添市を代表とする土産品がないことから、市内で購入したお土産品は県内どこでも買えるものが上位に挙がっており、市内における支出する一人当たりの消費額も低い状況です。市内の事業者等と連携を図り、市産品の開発・PRを進めていく必要があります。
- 各商店街をはじめ、市内には様々な店舗が立地していることから、魅力的な店舗づくりを進め、来訪客がそこでお金を落とせるような仕掛けの構築が必要となります。
- イベントの充実を図り、観光客の誘客コンテンツとしていくためにも、イベントを観光資源として捉え、市内の事業者等が連携し、展開していく必要があります。

課題④ スポーツツーリズム・MICE等の推進

- 浦添市では、ヤクルトスワローズ誘致事業やハンドボール等といった様々なスポーツ関連の取組が行われていますが、活動が分散しており、インパクトのある取組に至っていません。これらの取組をとりまとめ、浦添市における「スポーツツーリズム」として充実させていく必要があります。
また、ヤクルトキャンプの際は、多くの観光客が訪れていますが、練習を見るだけで市内の周遊やお金を落とすところまでつながっていないことから、見学者の滞在促進を図る必要があります。
- 東海岸に大型 MICE の建設が予定されていることから、大型 MICE との連携を図り、アフターMICE等の推進を図り、観光客を誘客する必要があります。

課題⑤ 施設を核とした賑わいの創出

- モノレールの延長により新設される浦添前田駅やてだこ浦西駅周辺では、観光交流拠点施設等の開発が進んでおり、今後浦添市内において核となるエリアになってくることが予測されます。そのため、周辺のエリアの施設や資源等と核となる拠点が連携を図ることで、一体的な賑わいづくりを進めていく必要があります。

課題⑥ 個店（中小企業等）の人材の発掘・活用

- 市内には、特色のある店舗や店主がおり、最近「まちゼミ」の取組が行われ始めたため、これら「ヒト」を観光資源として捉えた展開、充実を図っていく必要があります。

課題⑦ 情報発信方法の確立

- 浦添市は、観光地としての認知度が低く、住宅地としてのイメージが強い状況です。これから、観光振興を進めていくにあたり、まずは浦添市の観光について知ってもらうきっかけとして、市内の拠点やWEB等を用いた情報発信が必要になってきます。
また、全国及び沖縄県において、訪日外国人が増加してきていることから、多言語による情報発信手法の構築も進めることが求められてきます。今後、アフターMICE等の取組やクルーズ船等の受入も検討していることから、積極的に訪日外国人に対する対応が必要となります。
- これまで、ふるさと納税の返礼品で市産品等を扱ってきましたが、なかなか浦添市の魅力の発信に寄与できていないことから、返礼品についても、「モノからコト」へシフトし、体験プログラム等の提供を検討していく必要があります。

課題⑧ 受け入れ施設の整備・充実

- 浦添市の観光振興の課題として、宿泊施設が少なく、アンケート結果でも69%の方が浦添市内「0泊」と回答しています。これから滞在時間を延長させるためには、新たに宿泊施設を建設するだけでなく、既存施設の活用や民泊等を検討していく必要があります。
- 浦添大公園や浦添城跡等の既存施設は、様々な規制や調整が必要なことから、うまく活用できていない状況です。浦添市にとって、核となる既存施設であることから、効果的に利活用できるよう、柔軟な取組、調整が必要となってきます。
- 西海岸開発に伴い、クルーズ船を誘致するために、クルーズ船バースの整備に向けた取組を推進していく必要があります。

課題⑨ 交通・情報インフラの充実

- 市内での滞在時間を延長するためには、市内における2次交通の整備が必要となります。これからモノレール駅や西海岸等の開発により、交通の流れも変化することが予測されることから、開発動向に合わせた交通体系の整備が必要となってきます。2次交通の整備にあたっては、レンタサイクル、レンタバイク、路線バスといった様々な移動手段を検討し、観光客だけではなく、市民も利用できるものとし、サービスの拡充を図っていくことが重要です。
また、効果的に市内をめぐることができるよう、わかりやすいマップや案内サインが必要となります。

課題⑩ 観光地域としての空間形成

- 浦添城跡の界隈や自然緑地の保全を推進していくとともに、市内の開発動向に合わせて浦添市のまちなみを維持していくための方策を検討していく必要があります。
また、四季や時間帯に応じたまちなみ・眺望スポット等が市内各場所にあることから、観光資源として活用していくことが求められます。

課題⑪ 観光人材の育成

- 観光に関わる事業者等の観光に対する機運を高めるために、商品開発及び販路開拓の勉強会、店舗づくりの講習会等を実施していく必要があります。
- 観光客の満足度を高めるためには、ガイドによる案内や解説が求められてきます。観光ガイドの養成を行っていくとともに、案内技術を向上させる必要があります。
- 観光に関わる方々だけの育成に留まらず、市民も浦添市に誇りを持ち、来訪者のおもてなしを行う、また子どものころから、郷土愛の醸成を図り、浦添市内で活躍していける人材を育成していくといった取組を進めていく必要があります。

課題⑫ 観光まちづくり推進体制の構築

- 観光まちづくりを推進していくためには、中心となって全体をとりまとめるかじ取り役が必要となります。そのため、観光事業者等との連携を図るとともに、補助金に頼らず自立した仕組みを構築していくことが求められてきます。また、情報の一元的な窓口の設置や訪日外国人向けの相談窓口等の設置も求められています。

課題⑬ 広域連携の推進

- 那覇市に隣接しているという立地的な特性を最大限に生かし、周辺市町村との連携を図り、沖縄県及び浦添市への流入を増やしていくことが必要です。広域連携を推進していくために、広域での滞在コンテンツの造成や情報発信、イベント等での連携等の検討を進めていく必要があります。

課題⑭ マーケティング戦略の構築

- これまできちんとしたマーケティング調査を実施していないことから、詳細な観光入込客数を把握することができていない。また、マーケティング調査に基づく戦略がないまま、事業を進めてきたことから、実態やニーズを踏まえた戦略を構築していく必要があります。

課題⑮ 観光振興による経済波及効果の検証

- 浦添市では様々な観光に関わる事業を行ってきました。しかし、それらの事業がどのような経済効果を生み出してきたのかといった検証を行うことができていませんでした。観光地域づくりは、交流人口の拡大による域内消費の拡大が目的であることから、経済波及効果の検証を進めていく必要があります。

第3章 浦添市観光振興計画の目指す姿

1. 基本理念

浦添市には、浦添城跡周辺でのまちあるきガイドや、組踊や獅子舞、棒術、エイサー、綱引きなど芸能の保存継承の取組、カーミーゼーの保全活動、商店街の飲み歩きイベントなど、各エリア、各時期に様々なイベントやプログラムが実施されています。

また、那覇市に隣接し、北部を目指す多くの観光客が市内の幹線道路を利用しており、非常にアクセスに優れた立地特性を有します。

一方で、浦添市および浦添市の観光資源に対する、県外観光来訪者の知名度は高くはない状況です。観光来訪者の多くは、那覇や北部を拠点とした通過地点として訪れている状況であり、また、市内には大型の宿泊施設が無いことなどから、宿泊・滞在して浦添で楽しむ方々は多くはありません。観光収入の面では、地域経済への波及は発展途上の段階にあります。

このような状況の中、まずは浦添市に来てもらうこと。そのために「いつ来ても、何かがやっている。」という来訪者の受け皿があり、時期を問わず来訪者との交流で賑わいがある姿を目指します。そのために情報発信を強化し、浦添市での楽しみ方、過ごし方を知ってもらうことに努めます。さらに、滞在型のプログラムや魅力的な店舗・施設を巡るなどで多くの来訪者が市内を周遊し、ホテルや民泊により市内に宿泊し、長時間滞在して浦添を楽しむことができる基盤を整えること、それにより地域経済の活性化を実現していきます。

さらに、観光まちづくりを通じて、市民の生活満足度を高めることに努めます。市民にとっても住みやすい環境をつくること。また、地域の魅力を市民が再認識し浦添市への誇りを高めることが、浦添市の観光振興の目的です。

《第四次浦添市総合計画》

都市像 **てだこの都市・浦添**

まちづくりの目標 **太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市**

浦添市観光振興のキャッチフレーズ

いにしえ おうじょう

古の王城と新たないぶきに出会う てだこ（太陽の子）のまち うらそえ

浦添市は、古琉球時代の中山の王城と考えられている浦添グスクをはじめとした様々な歴史を有しているとともに、新たに整備される施設やコンテンツ等がこれから育まれていきます。

本計画は、これら市内の古いモノ・コトを土台にしながら、新たなモノ・コトとの融合を図り、新たな魅力に出会うことができる、“てだこのまち”の形成を目指していきます。

2. 観光振興による目指す将来像

1

**市内の各所で、地域の活動やイベント・観光プログラムが実施され、
来訪者との交流で賑わいを生む。～受け皿をつくる～**

浦添城跡周辺でのまちあるきガイドや、組踊や獅子舞、棒術、エイサー、綱引きなど芸能の保存継承の取組、カーミーゼーの保全活動や商店街の飲み歩きイベントなど、各エリア、各時期に様々なイベントやプログラムが実施されています。

那覇市に隣接し、北部を目指す多くの観光客が市内の幹線道路を利用しており、非常にアクセスに優れた立地特性の中で、まずは「いつ来ても、何かがやっている。」という来訪者の受け皿があり、時期を問わず来訪者との交流で賑わいがある姿と地域経済の活性化を目指します。

【目標数値】

指標	実績値	2020年	2025年
イベント等の参加者数※1	31万人	54万人	61万人

※1：市内入域観光客数の推計値に対するイベント参加者数の比率を、2020年および2025年の入域観光客数の推計値に乗じた。

2

**効果的な地域情報の発信により、浦添での楽しみ方、過ごし方を、
地元の方も来訪者も良く知っている。～知ってもらう～**

現在は、浦添市および浦添市の観光資源に対する、県外観光来訪者の知名度は高くはない状況です。しかし、浦添市観光情報ポータルサイト「うらそえナビ」では、観光客および市民に向けての観光プログラムや地域の魅力、店舗情報、イベント情報などの地域情報を発信しています。

これら情報発信が充実し、県内外からの観光来訪者、国外からの来訪者も、浦添での楽しみ方、過ごし方を知っている状況を目指します。

また、浦添市民も地域の歴史文化や商店街、イベント情報などを日常的に入手し、浦添での楽しみを良く知り、知り合いや来訪者へ伝えられる状況を目指します。

【目標数値】

指標	実績値	2020年	2025年
ウェブサイト閲覧数※2	52万件	91万件	104万件

※2：市内入域観光客数の推計値に対するページビュー数の比率を、2020年および2025年の入域観光客数の推計値に乗じた。

3

市内へ観光来訪者が増え、特に宿泊を伴い、 長時間滞在して浦添を楽しむ方が増える。～滞在してもらう～

現在、浦添市内には非常に多くの方が訪れています。ただし、観光来訪者の多くは、那覇や北部を拠点とした通過地点として訪れている状況です。また、市内には大型の宿泊施設が無いことなどから、宿泊・滞在して浦添で楽しむ方々は多くはありません。

滞在型のプログラムや魅力的な店舗・施設を巡るなどで多くの来訪者が市内を周遊し、ホテルや民泊により市内に宿泊し、長時間滞在して浦添を楽しむ方が増える姿を目指します。

【目標数値】

指標	実績値	2020年	2025年
入域観光客数※ ³	40万人	71万人	80万人
宿泊者数※ ⁴	—	7万5千人	16万人

※3：「平成28年度浦添市観光統計実態調査」から来浦率を算出し、沖縄県の入域観光客数の推計値に乗じた。これに、大型商業施設開業に伴う増加効果を加味し、浦添市の入域観光客数を算出した。

※4：2025年までの宿泊施設誘致見込み及び民宿・民泊・ホームステイ等の実施見込みをもとに、想定される市内宿泊収容人数を算出し、定員稼働率や平均宿泊数を加味して宿泊者数を推計した。

4

市内でのイベントや観光プログラムへの参加、宿泊・滞在、飲食や買い物などの増加、 さらに市内産業への波及により地域経済が活性化する。～経済効果を上げる～

市内各地、各時期に観光プログラムやイベントが開催され、来訪者の市内宿泊、飲食や買い物が増加します。観光プログラムやイベントを運営する事業者に加え、市内の宿泊、飲食、小売り、製造、交通など、広く市内産業の振興につながり、地域経済が今以上に活性化していく状況を目指します。

【目標数値】

指標	実績値	2020年	2025年
観光消費額※ ⁵	23億円	—	137億円

※5：浦添市の入域観光客数（市内宿泊客・日帰り客別）に市内宿泊客・日帰り客の消費単価を乗じた。

5

観光まちづくりの推進が、浦添で生活する方々の住みやすさ・働きやすさにつながり、 市民が持つ浦添市への誇りを高める。～市民の満足度を高める～

観光まちづくりは、観光来訪者が地域住民等との交流を生むことや、産業の活性化により、市民の生活満足度を高めることが重要です。来訪者が増え、観光収入が増加することで地域産業の活性化を実現、地区の環境整備や集客拠点施設の整備により、市民にとっても住みやすい環境をつくること、またこれらを通じて、地域の魅力を市民が再認識し浦添市への誇りを高める状況を目指します。

【目標数値】

指標	実績値	2020年	2025年
市民満足度※ ⁶	—	—	3.5

※6：5段階評定法（5：満足、4：やや満足、3：ふつう、2：やや不満、1：不満）に基づく数値。「第4次浦添市総合計画後期基本計画」の全政策分野への関連性を考慮し、平成27年度に実施されたアンケート調査に基づき、政策ごとの平均満足度（5段階評定）の中央値（3.02）を参考に設定した。

第4章 基本方針

1. 浦添市の観光振興に係る基本方針

基本理念及び観光振興による目指す将来像を達成するために、以下の基本方針に基づき、浦添市の観光を振興していきます。

①地域資源である生活・文化・芸能・自然・施設・環境・人を活かす浦添での過ごし方の提案

浦添城跡をはじめとする歴史的資源や、国立劇場おきなわ、浦添市てだこホール、浦添市美術館などの文化的施設、組踊や前田棒、各地域の獅子舞、綱引きなど芸能文化資源や活発な地域活動、カーミージーの自然環境や保全活動など、歴史・文化・芸能、自然環境を活かした浦添市での過ごし方を、観光来訪者に提案していきます。

そのための魅力的な商品として、滞在コンテンツの造成や物産商品の開発、イベントでの来訪者の受け入れ、またスポーツツーリズムやMICE誘致などの取り組みも進めます。

また、浦添市では今後数多くの施設整備が予定されています。大型商業施設やモノレール新駅周辺の整備などの機会を観光振興に活用することにも取り組みます。

さらには、地域の商業の魅力創出、観光振興の担い手としての人材の発掘活用にも努めます。

②浦添の情報発信の強化

浦添市を訪れる方、訪れたいと考える方、浦添市を知らない方、市民など様々な対象に向けた、的確な情報発信が必要です。マーケティング調査に基づく、ターゲットの設定とターゲットに対しての効果的な情報発信手法により、来訪者および市民に対しても訴求力を高めていきます。

情報の一元化による来訪者や市民に対してのわかりやすさ、情報アクセスのし易さを高めることや、地域住民や来訪者と共に行う情報発信の仕組みづくりによる鮮度の高い発信に取り組みます。そのためのウェブサイトの充実や各種プロモーションでの発信を行います。

③受け入れ環境として、滞在拠点・交通の充実

観光・交流拠点の充実として、整備が進む西海岸の商業施設、カーミージーの体験施設、市内モノレール駅の観光目線での機能充実を図るとともに、浦添大公園や浦添城跡周辺などの既存施設の効果的かつ柔軟な利活用を推進します。ホテルの誘致等の展開による宿泊機能の充実を進めます。また、クルーズ船からの誘客に向けて、将来的なクルーズ船バースの整備に向けた検討を進めます。

交通については、観光振興における非常に重要な課題であり、今後の市内での施設整備をふまえた2次交通の充実や駐車場の整備確保に向けた取組、道路案内サインの充実に努めます。

また、まちなみ形成、景観の保全に努め、観光地域としての魅力を高めることにも取り組みます。

④浦添観光を支える体制の充実

観光推進の担い手として、観光来訪者への商品造成を主導する人材、観光ガイドの育成や地域の子どもたちへの郷土愛醸成も推進します。

また、浦添市観光協会の法人化や行政内の観光推進体制の充実を図り、観光推進のかじ取り役となる官民連携の体制構築に取り組みます。訪日外国人の受け入れ体制としても、機能の充実を図ります。

さらに、市内事業者同士の連携強化により、効果的に観光誘客の推進と地域の魅力向上、経済効果を高めることに取り組みます。

他市町村との連携による効果的な来訪者の受け入れや情報発信、観光商品の開発など、広域連携の取組、その体制構築にも努めます。

⑤マーケティング・経済波及効果の検証体制の充実

観光受け入れの推進と並行して、観光マーケティング情報の収集を、行政および事業者の協力のもとで推進します。観光来訪者の情報集積を図ることで、今後予定される西海岸やモノレール新駅、その周辺開発など、地域の環境や人の流れの変化に対応した観光事業を展開することにつながります。

民間事業者が観光推進により効果を得るため、収集した情報の活用を進めます。情報活用により事業者のサービス向上や新事業展開を効果的に実施できる仕組みの構築を図ります。

2. 施策体系

観光振興の 基本理念

《第四次浦添市総合計画》 都市像 **ただこの都市・浦添**
まちづくりの目標 **太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市**

浦添市観光振興による目指す将来像

1 市内の各所で、地域の活動やイベント・観光プログラムが実施され、来訪者との交流で賑わいを生む。～受け皿をつくる～

指標	実績値	目標値
イベント等の参加者数	31万人	(2020年) 54万人 (2025年) 61万人

2 効果的な地域情報の発信により、浦添での楽しみ方、過ごし方を、地元の方も来訪者も良く知っている。～知ってもらおう～

指標	実績値	目標値
ウェブサイト閲覧数	52万件	(2020年) 91万件 (2025年) 104万件

3 市内へ観光来訪者が増え、特に宿泊を伴い、長時間滞在して浦添を楽しむ方が増える。～滞在してもらおう～

指標	実績値	目標値
入域観光客数	40万人	(2020年) 71万人 (2025年) 80万人
宿泊者数	—	(2025年) 16万人

4 市内でのイベントや観光プログラムへの参加、宿泊・滞在、飲食や買い物などの増加、さらに市内産業への波及により地域経済が活性化する。～経済効果を上げる～

指標	実績値	目標値
観光消費額	23億円	(2025年) 137億円

5 観光まちづくりの推進が、浦添で生活する方々の住みやすさ・働きやすさにつながり、市民が持つ浦添市への誇りを高める。～市民の満足度を高める～

指標	実績値	目標値
市民満足度	—	(2025年) 3.5

※5段階評定法による

観光振興の基本方針

(1) 地域資源である生活・文化・芸能・自然・施設・環境・人を活かす浦添での過ごし方の提案

(2) 浦添の情報発信の強化

(3) 受け入れ環境として、滞在拠点・交通の充実

(4) 浦添観光を支える体制の充実

(5) マーケティング・経済波及効果の検証体制の充実

戦略的重点施策

1) 地域の歴史・文化・芸能の保存・活用

2) 施設を核とした賑わいの創出

3) 来訪者及び市民にも訴求する浦添市の情報発信の強化

4) 受け入れ施設の整備・充実

5) 官民による観光まちづくり推進体制の構築

6) マーケティング情報のフィードバックの仕組みづくり

エリア別の方向性（浦添城跡周辺エリア・カーミージー周辺エリア・港川ステイツサイドタウン・屋富祖商店街周辺エリア）

浦添市観光振興のキャッチフレーズ

いにしえ おうじょう

古の王城と新たないぶきに会う てだこ（太陽の子）のまち うらそえ

施策・プロジェクト

①地域の歴史・文化・芸能の保存・活用

- i) 周遊ルート構築、組踊での誘客、文化資源と連動するコンテンツづくり
- ii) 浦添城跡・浦添市美術館の歴史・文化資源としての活用
- iii) 文化財の保存・活用
- iv) 地域活動の観光コンテンツ化
- v) 国立劇場おきなわとの連携強化（組踊での認知度及び誘客等を高める取組）

②自然環境の保全・活用

- i) 里浜のガイドライン作り
- ii) 自然環境を活用した誘客

③魅力的な商品（モノ・コト）の活用・造成

- i) テーマ性を活かした浦添ならではの滞在コンテンツの造成
- ii) 店舗の魅力化
- iii) クルーズ船からの誘客に向けたコンテンツ造成の取組
- iv) 雨天時の滞在プログラム構築
- v) 市産品の開発およびPR（桑製品・うらそえ織等）
- vi) イベントの充実（大規模イベントの集客・安全確保、地域イベント・スイーツ・祭事での観光客受け入れ、他地域イベントとの連携）
- vii) 修学旅行受入への取組（体験型プログラム構築・安全管理推進）

④スポーツツーリズム・MICE等の推進

- i) スポーツツーリズムの充実（ヤクルトキャンプ見学客の浦添滞在促進、各種スポーツ合宿受け入れ、てだこウォークを活用した誘客推進、ハンドボール王国のPR推進）
- ii) 魅力ある新たなスポーツイベントの創出
- iii) 浦添市てだこホール等の活用
- iv) MICE誘致への取組
- v) スポーツ環境の整備・充実

⑤施設を核とした賑わいの創出

- i) 観光交流拠点施設（にぎわい交流ゾーン）を核とした周辺施設との賑わいの創出
- ii) 港川ステイツサイドタウンの賑わいの創出

⑥個店（中小企業等）の人材の発掘・活用

- i) 「まちゼミ」等の取組の推進

①情報発信方法の確立

- i) 情報発信手法の構築（ウェブ・紙媒体等）
- ii) うらそえナビの充実・発信力強化
- iii) 多言語による情報発信手法構築
- iv) 浦添市ふるさとてだこの都市応援寄附金返礼品を活用した浦添市の魅力発信

①受け入れ施設の整備・充実

- i) 宿泊施設の充実
- ii) 観光・交流拠点の充実（西海岸地区、市内モノレール駅、カーミージー地区海浜公園拠点施設など）
- iii) 既存施設の効果的かつ柔軟な利活用（浦添大公園、浦添城跡）
- iv) クルーズ船バースの整備に向けた事業主体との連携

②交通・情報インフラの充実

- i) 2次交通の充実（市民・観光客が利用できるコミュニティバス、レンタルサイクル等）
- ii) 西海岸や市内モノレール駅等とあわせた市内交通体系の整理・整備
- iii) 公衆無線LAN整備
- iv) 案内サインの充実
- v) 駐車場の整備・確保に向けた取組

③観光地域としての空間形成

- i) まちなみ・景観保全（景観地区検討、自然緑地保全、商店街、季節や時間帯に応じたまちなみ・景観・眺望スポット活用）
- ii) シンボルロード等の街づくりとの連携

①観光人材の育成

- i) 観光推進の担い手発掘・育成
- ii) 観光ガイド育成・技術向上（訪日外国人対応含む）
- iii) 市民の誇りづくり
- iv) 子どもたちの郷土愛の醸成（人材育成）

②観光まちづくり推進体制の構築

- i) 浦添市観光協会の組織強化及び法人化
- ii) かじ取り役となる官民連携の体制構築
- iii) 市内事業者間の連携強化
- iv) 訪日外国人受け入れ体制の構築
- v) 行政内の体制の連携強化
- vi) 観光客向けの防災・防犯

③広域連携の推進

- i) 他市町村との連携体制の構築

①マーケティング戦略の構築

- i) 継続的なマーケティング調査の実施分析

②観光振興による経済波及効果の検証

- i) 経済波及効果を生み出す他業種連携推進
- ii) 経済波及効果を求めるためのデータ収集

第5章 戦略的重点施策

1. 戦略的重点施策

本観光振興計画においては、今後浦添市において必要と考える施策・プロジェクトを網羅的に整理します。ただし、全般的な施策・プロジェクトの中で、特に重要度が高いと考える内容については、戦略的重点施策と位置づけ、優先的に事業推進を図ることとします。

観光振興の基本方針に基づき、他施策・プロジェクトへの影響が高いと考える内容、浦添市の観光振興に係る課題に即した内容として重要度が高いと考えるものを、戦略的重点施策として以下のとおり位置付けます。

観光振興の基本方針	戦略的重点施策	解決すべき課題
①地域資源である生活・文化・芸能・自然・施設・環境・人を活かす浦添での過ごし方の提案	1) 地域の歴史・文化・芸能の保全・活用	→浦添市が有する資源を活用されていない →ターゲット設定と資源連携による訴求力を高める
	2) 施設を核とした賑わいの創出	→既存および新たに整備が予定されている交流拠点を核として集客力を高める
②浦添の情報発信の強化	3) 来訪者及び市民にも訴求する浦添市の情報発信の強化	→来訪者だけでなく、市民にも訴求することで、地域と一体での観光振興を進める
	4) 受け入れ施設の整備・充実	→これからの拠点整備と既存施設の柔軟な活用により、滞在型への転換を図る
④浦添観光を支える体制の充実	5) 官民による観光まちづくり推進体制の構築	→持続的な観光まちづくりを図るための充実した体制構築が必要
	6) マーケティング情報のフィードバックの仕組みづくり	→マーケティングに基づく観光事業の推進により、効果的に経済効果を高める
⑤マーケティング・経済波及効果の検証体制の充実		



～目指す将来像を実現する～

受け皿をつくる／知ってもらおう／滞在してもらおう／経済効果を上げる／市民の満足度を高める

重点施策① 地域の歴史・文化・芸能の保存・活用

浦添市は、浦添城跡をはじめとする歴史的資源や、国立劇場おきなわ、浦添市てだこホール、浦添市美術館などの文化施設を有します。また、組踊や前田棒、各地域の獅子舞、綱引きなど芸能文化資源、活発な地域活動など、観光客にとってまだ知られざる資源が数多くあります。

これらを来訪者受け入れのコンテンツとして磨き上げ、各資源の連携により滞在型のプログラムとして構築することで、地域での保全活動の充実と、来訪者に対して過ごし方を提案し・滞在を受け入れる仕組みを作り出すことで、来訪者に訴求力の強い浦添を作り出すことに取り組みます。

【戦略的重点施策としての選定理由】

- ✓ 沖縄固有の資源である組踊の発信は浦添市固有の資源であり、活用の可能性が高い。
- ✓ 浦添城跡を中心とした歴史・文化資源の集積は、周遊ルートとして楽しめる資源としての活用が可能である。
- ✓ 浦添市美術館、国立劇場おきなわ、浦添市てだこホールといった文化施設を有することが、観光誘客においても高い優位性を有する。
- ✓ 市内各地域で活発に活動がある芸能、環境保全活動等は、沖縄固有、浦添固有の文化体験の場として、訴求力の高いコンテンツとなる可能性を有する。

◇積極的に推進する取組

- ①周遊ルート構築、組踊での誘客、文化資源と連動するコンテンツづくり
- ②浦添城跡・浦添市美術館の歴史・文化資源としての活用
- ③文化財の保存・活用
- ④地域活動の観光コンテンツ化
- ⑤国立劇場おきなわとの連携強化（組踊での認知度及び誘客等を高める取組）

重点施策② 施設を核とした賑わいの創出

モノレール延長と連動して整備・検討が進む浦添前田駅および拠点施設を核として、当エリアの賑わいづくりに取り組みます。また、現在も多くの来訪者を受け入れている港川ステイツサイドタウンの更なる賑わいの創出に取り組みます。

周辺エリアの店舗の魅力化や、近接する地域での歴史文化での体験型コンテンツとの連動、誘客のための効果的な情報発信等について検討・推進します。

【戦略的重点施策としての選定理由】

- ✓ モノレール延長、新駅の整備など、今後開発が進む浦添市での新たな拠点の活用は、県内観光流動の新しい動きを作り出すものであり、重点的に進めるべき可能性を有する内容である。
- ✓ 外国人住宅をリノベーションして展開する港川ステイツサイドタウンは、既に多くの観光客を集めていることから、観光振興を進めるにあたっての重要な起点となる。交通などにおいては現状での課題も多いことから、これらの解決は緊急性を有する内容としても重要である。

◇積極的に推進する取組

- ①観光交流拠点施設（にぎわい交流ゾーン）を核とした周辺施設との賑わいの創出
- ②港川ステイツサイドタウンの賑わいの創出

重点施策③ 来訪者および市民にも訴求する浦添の情報発信の強化

マーケティング調査に基づく、ターゲットの設定とターゲットに対しての効果的な情報発信手法により、来訪者および市民に対しても訴求力を高めていきます。

情報の一元化による来訪者や市民に対してのわかりやすさ、情報アクセスのし易さを高めることや、地域住民や来訪者と共に行う情報発信の仕組みづくりによる鮮度の高い情報発信に取り組みます。そのためのウェブサイトの充実や各種プロモーションでの発信を行います。

【戦略的重点施策としての選定理由】

- ✓ 知名度が高くない現状において、情報発信は重要かつ優先度の高い内容である。
- ✓ 現状でも充実を図っている観光ポータルサイトであるうらそえナビの強化は情報発信の中でも、優先的に進めるべき内容である。
- ✓ 今後さらに来訪が増加する見込みのあるターゲットとして外国人の受け入れ強化が重要であり、そのための多言語対応は必要性が高い内容である。
- ✓ 浦添市ふるさとてだこの都市応援寄附金返礼品の活用により、既存の地域商品および新たな観光商品等においても発信力を高められる効果的効率的な施策として有効である。

◇積極的に推進する取組

- ①情報発信手法の構築（ウェブ・紙媒体等）
- ②うらそえナビの充実・発信力強化
- ③多言語による情報発信手法構築
- ④浦添市ふるさとてだこの都市応援寄附金返礼品を活用した浦添市の魅力発信

重点施策④ 受け入れ施設の整備・充実

観光・交流拠点の充実として、整備が進む西海岸の商業施設、カーミージーの体験施設、市内モノレール駅の観光目線での機能充実を図るとともに、浦添大公園や浦添城跡周辺などの既存施設の効果的かつ柔軟な利活用を推進します。ホテルの誘致等の展開による宿泊機能の充実を進めます。

また、クルーズ船からの誘客に向けて、那覇港管理組合と連携し、将来的にクルーズ船バースの整備に向けた検討を進めます。

【戦略的重点施策としての選定理由】

- ✓ 西海岸の商業施設やカーミージーの体験施設、モノレール新駅等の開発に伴う新たな入込流動を見込んだ観光面での施設活用は、優先的に取り組むべき課題として重要度が高い。
- ✓ 新たな観光流動と連動して、既存施設への誘客への波及の可能性を有することから、既存施設の柔軟な利活用により、観光客への訴求力を高めることは、効果の高い取組となる。

◇積極的に推進する取組

- ① 宿泊施設の充実
- ② 観光・交流拠点の充実（西海岸地区、市内モノレール駅、カーミージー地区海浜公園拠点施設など）
- ③ 既存施設の効果的かつ柔軟な利活用（浦添大公園、浦添城跡）
- ④ クルーズ船バースの整備に向けた事業主体との連携

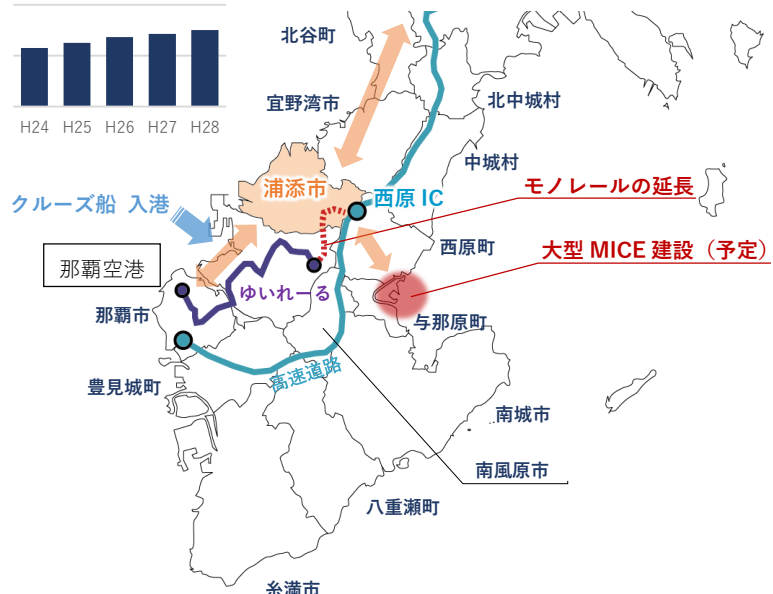
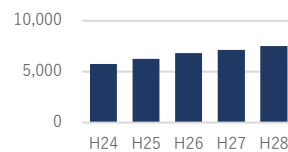
～「受け入れ環境の整備・充実」に係る浦添市のポテンシャルについて～

浦添市は、県内一の入込観光客数を誇る那覇市や、「中城湾港マリンタウン地区」に大型 MICE 施設の建設が決定された与那原町と西原町などに隣接しており、今後観光客を受け入れていくための立地的なポテンシャルを有する場所に位置しています。今後、モノレールの延長により、浦添市から那覇空港まで 40 分程度で行くことができるようになり、交通渋滞の影響を受けずに、中北部への移動も可能とします。

これらに加え、浦添市のモノレール駅にパーク＆ライド駐車場の整備によって、将来的に那覇市からレンタカー等の移動ではなく、浦添市を拠点とする新たな観光周遊ルートが確立されていきます。

そのため、浦添市においても、宿泊施設や観光・交流拠点の充実を図り、地域経済の発展を目指していきます。

○那覇市観光入込客数（千人）



重点施策⑤ 官民による観光まちづくり推進体制の構築

浦添市観光協会の法人化や行政内の観光推進体制の充実を図ります。また、観光推進のかじ取り役となる官民連携の体制構築に取り組みます。訪日外国人の受け入れ体制としても、機能の充実を図ります。

市内事業者同士の連携強化により、効果的に観光誘客の推進と地域の魅力向上、経済効果を高めることに取り組みます。

【戦略的重点施策としての選定理由】

- ✓ 今後本格的に地域として観光振興を推進するにあたって、観光協会の役割の重要性が高まる。組織強化により、施策推進の強化は優先的課題である。
- ✓ 観光協会および行政の推進力強化のためには、関連団体や民間事業者、市民との連携強化が必要であり、そのための仕組み構築が求められる。それによる、地域の経済効果を高めることが、更なる推進力を持つことにつながる内容である。
- ✓ 観光客の安全確保は、特に旅行会社等との連携においては条件となる内容であり、早急に整備を行うべき内容である。

◇積極的に推進する取組

- ①浦添市観光協会の組織強化及び法人化
- ②かじ取り役となる官民連携の体制構築
- ③市内事業者間の連携強化
- ④訪日外国人受け入れ体制の構築
- ⑤行政内の体制の連携強化
- ⑥観光客向けの防災・防犯

重点施策⑥ マーケティング情報のフィードバックの仕組みづくり

観光マーケティング情報の収集を、行政および事業者の協力のもとで推進します。

民間事業者が観光推進により効果を得るため、収集した情報の活用を進めます。情報活用により事業者のサービス向上や新事業展開を効果的に実施できる仕組みの構築を図ります。

【戦略的重点施策としての選定理由】

- ✓ 既存の観光資源の活用とあわせ、本市では、西海岸やモノレール新駅など新たな開発が順次進む中で、観光来訪者の行動、満足度、経済効果など目に見える変化を把握することは非常に重要である。それをもとにした、施策の再検討を位置づけることで、時流を的確につかみ、効果的に観光振興を進めるための基盤とすることができる。

◇積極的に推進する取組

- ①継続的なマーケティング調査の実施分析
- ②経済波及効果を生み出す他業種連携推進
- ③経済波及効果を求めるためのデータ収集

～戦略的重点施策の展開例～

- ・観光施策推進にあたっては、行政、関連団体、事業者、市民それぞれの役割のもと、連携・協働して進めることが重要です。それぞれの立場での目的を念頭に、役割分担を図って進めていきます。
- ・以下、例として、以前本市において実施した『浦添「よりみち」観光振興事業』の展開方法を例示します。

【うらそえスイーツめぐり券】

県内屈指のスイーツ店舗等が多く存在していることから、スイーツを軸とした具体的な着地型観光商品開発事業を展開する。具体的には、浦添市内のスイーツ店舗をめぐることができるチケットを販売し、観光客の誘客を図っている。



■うらそえスイーツめぐり券

- ・販売価格：500円、1冊あたり3店舗周遊可能
- ・企画参画店舗数：22店舗
- ・めぐり券販売店舗数：7店舗（企画参加店舗22件でも購入可能）

<推進方法（◎：主体実施、○協力実施）>

4月	企画	■事業内容企画 ・目的・実施内容・実施体制の検討・整理 ◎行政（商工産業課観光係）：協力 実施体制調整
		■事業委託者の検討 ・本事業の企画・実施・運営事業者の決定 ◎行政（商工産業課観光係）：事業者決定 ◎浦添市観光協会：事業受託
5月	募集	■参画店舗開拓 ・説明会の周知（市内62事業者対象） ・説明会（計2回）の実施（計15事業者参加） ・各店舗巡回による参画店舗の募集 ◎行政（商工産業課観光係）：説明会実施 ◎浦添市観光協会：企画・運営
		参画店舗（22事業者）が決定
6月	企画用の商品開発	■参画店舗との調整 ・参画店舗商品の調整 ◎行政（商工産業課観光係）、浦添市観光協会：調整 ○参画店舗：商品検討・開発 ・広報・PRの準備 ◎行政（商工産業課観光係）、浦添市観光協会：写真提供依頼・撮影、チラシ・ポスターのデザイン、動画撮影 ○参画店舗：協力
		■めぐり券販路開拓 ・めぐり券販売店舗との調整⇒44店舗協力 ◎行政（商工産業課観光係）、浦添市観光協会：協力依頼、調整
7月 ～ 2月	販売・情報発信	■販売 ◎行政（商工産業課観光係）、浦添市観光協会：運営 ○めぐり券販売店舗（44店舗）：めぐり券販売、PR ○参画店舗：商品提供 ↑チケット料金 ↓手数料 ↓商品料金
		■販売促進 ・ポスター、チラシ設置 ・動画配信 ・SNSでの情報配信 ・めぐり券販売店での周知 ◎行政（商工産業課観光係）、浦添市観光協会：実施
3月	事業検証	■事業結果・評価、課題整理 ・販売枚数（1,888部）、利用率（62.4%）等の状況整理 ・利用者等へのアンケート調査、評価情報収集 ◎行政（商工産業課観光係）、浦添市観光協会：評価収集
		■事業改善 ・参画店舗の拡大 ・参画店舗商品の改良 ・販売戦略の整理 ◎行政（商工産業課観光係）、浦添市観光協会：参画店舗との調整、販売戦略の整理 ○参画店舗：商品改良
4月 ～		■企画の継続 ・浦添市観光協会主体での継続事業実施 ◎浦添市観光協会：事業継続的に企画・運営

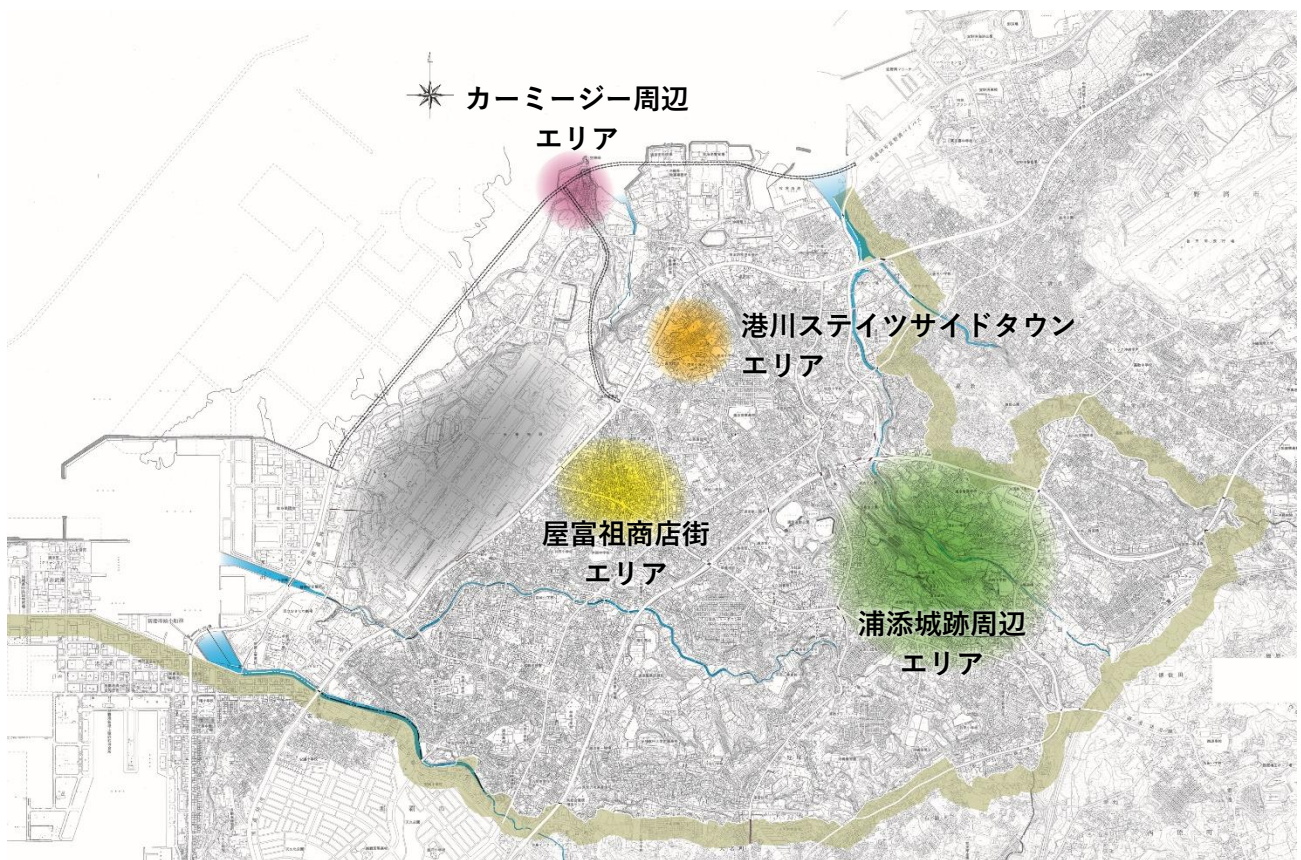
2. 観光地域づくりを実現していくためのエリア別の方向性

観光地域づくりを実現していくためには、エリアごとの特色・特性に応じ戦略的に観光振興を図ることが重要であると考えます。

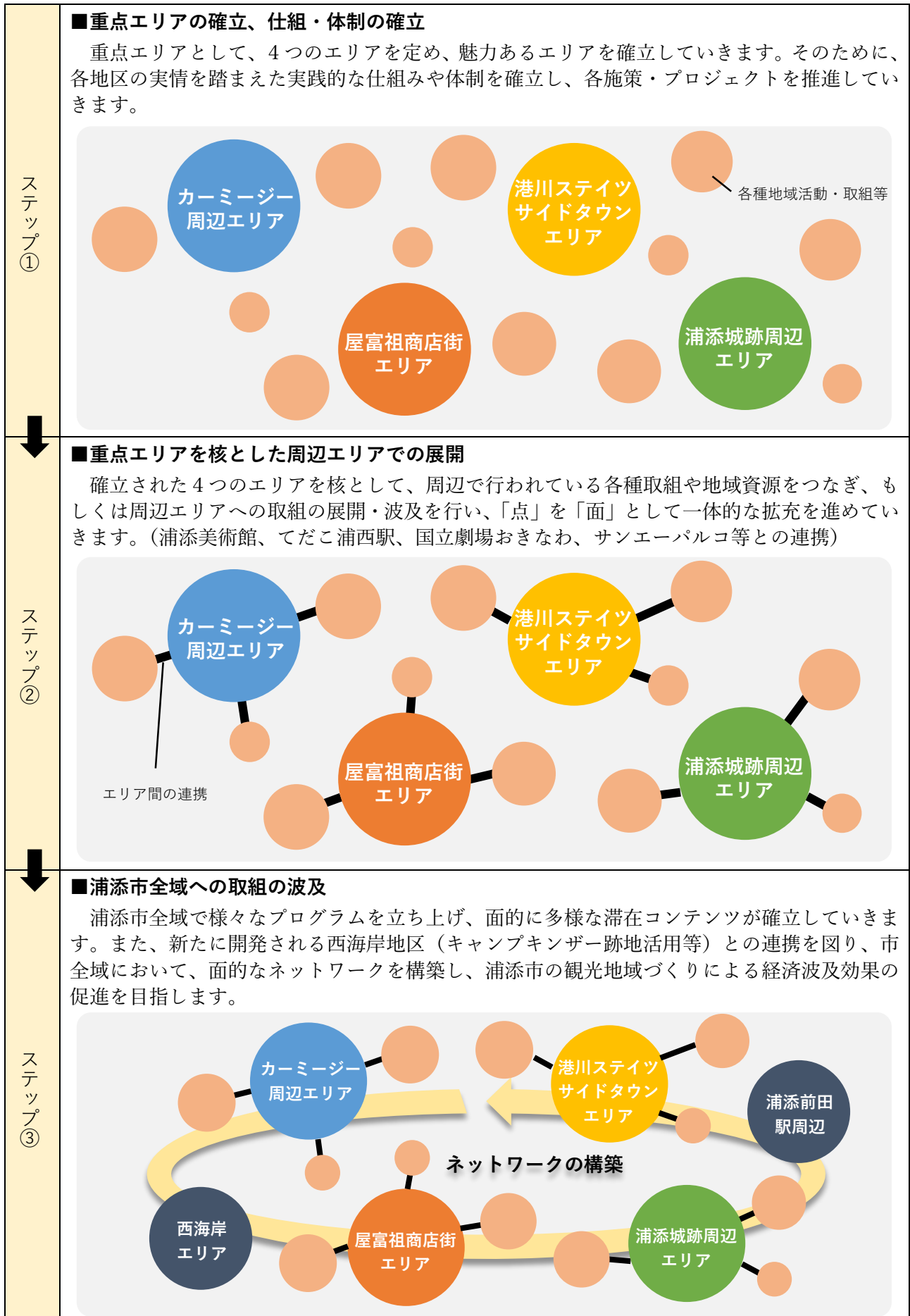
エリア別の観光地域づくりの取組は、地域資源の分布や自治会・団体・事業者等の取組状況などがそれぞれ異なるため、段階的に事業化が可能なエリアから順に進めていくことが有効的であると考えます。浦添市では、これまで様々な取組や活動が進められてきたエリア、その他にも現在、事業が進行中であるエリア等があることから、先行的に観光地域づくりを実現するために、重点的に取組を進めるエリアを設定します。

また、そのエリアを核として、周辺部及び他のエリアにおいても、エリアごとの歴史や生活文化、地域資源の活用の現状を踏まえ、重点的に取組を進めるエリアとのつながりを鑑みて、今後、エリア別のワークショップや詳細調査等の開催を経て、観光地域づくりの実現のロードマップを構築していくことが必要となります。

【重点的に取組を進めるエリア】



【エリア別の段階的な取組イメージ】



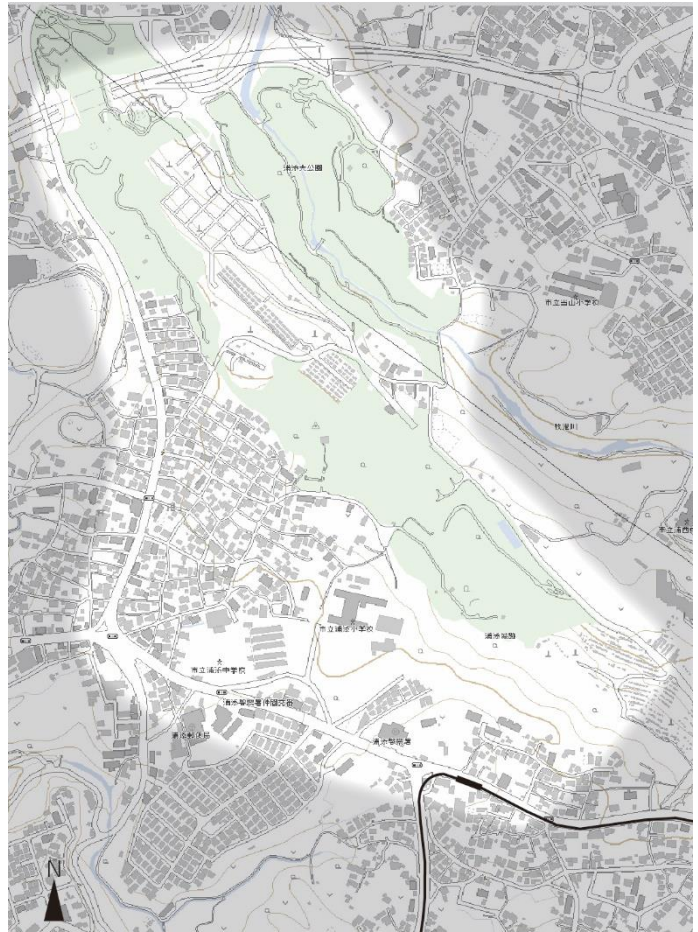
重点エリア① 浦添城跡周辺エリア（歴史・文化拠点）

浦添グスクは、石灰岩台地上に造営された古琉球時代の中山の王城と考えられており、北側崖下には琉球王国初期の王陵「浦添ようどれ」があることで知られています。1200年代にグスクが築かれ、1609年の薩摩軍侵攻で焼け落ちました。去る沖縄戦では日本軍の防衛拠点となり、米軍との激戦が繰り広げられ、戦災や戦後復興のための採石等により石積み城壁はほとんどなくなってしまいました。城内には今も日本軍の壕跡が残っています。2016年には沖縄戦で衛生兵として従軍した米軍兵士の実体験を描いた米映画「ハクソー・リッジ」が上映され、その戦場である浦添城跡（前田高地）には、多くの訪日外国人をはじめとする観光客が訪れています。

戦後、琉球政府が浦添ようどれの墓室を復元、平成になって浦添ようどれを取り巻く石積みが復元されました。現在はグスク本体の発掘調査・復元工事が進められており、浦添市の重要な地域資源に位置づけられています。

近年、歴史ガイドの案内による浦添城跡見学や地域集落の散策等が活発に行われており、今後來訪者の滞在時間を延長していくため、更なる取組の実施や受入環境の整備等が求められてきます。

また、モノレールの延長により、浦添城跡付近に浦添前田駅が建設され、その周辺では観光交流拠点施設等の開発も予定されており、この新駅や浦添市美術館等との連携を図り、有機的なつながりを形成し、ネットワークを構築することで、浦添城跡を核とする歴史・文化等の地域資源を活かした取組を積極的に推進することができます。



【戦略的重点施策としての選定理由】

- ✓ 浦添が王統を確立して繁栄した時代、歴代王の居城であった浦添グスクは、浦添市のシンボルとして、現在に至るまで市民の心のよりどころになっている。また、浦添市景観まちづくり条例において、重要かつ先導的な地区として、浦添グスク周辺地区である仲間地区が重点地区に指定され、良好な景観形成の取組が進められている。
- ✓ 浦添城跡周辺に浦添前田駅が建設され、今後、駅を拠点としたコンテンツを構築することができる可能性がある。

◇積極的に推進する取組

■浦添グスクの復元・整備

- ①文化財の保存・活用（施策（１）－①－iii）
- ②浦添城跡の歴史・文化資源としての活用（施策（１）－①－ii）
- ③既存施設の効果的かつ柔軟な利活用（施策（３）－①－iii）

■観光客の受入環境の整備

- ④まちなみ・景観保全（施策（３）－③－i）
- ⑤案内サインの充実（施策（３）－②－iv）
- ⑥観光・交流拠点の充実（施策（３）－①－ii）

■滞在コンテンツの開発・充実

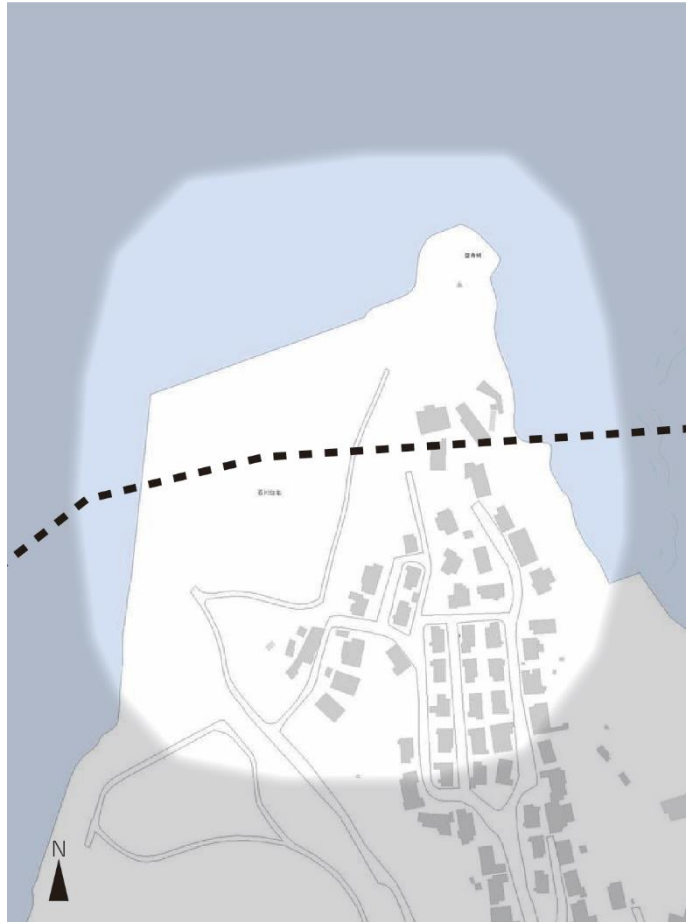
- ⑦周遊ルート構築、文化資源と連動するコンテンツづくり（施策（１）－①－i）
- ⑧テーマ性を活かした浦添ならではの滞在コンテンツの造成（施策（１）－③－i）
- ⑨地域活動の観光コンテンツ化（施策（１）－①－iv）
- ⑩修学旅行受入への取組（施策（１）－③－vii）
- ⑪他市町村との連携体制の構築（施策（４）－③－i）

■観光客のおもてなしの充実

- ⑫観光ガイド人材の育成・技術向上（施策（４）－①－ii）
- ⑬多言語による情報発信手法構築（施策（２）－①－iii）
- ⑭子どもたちの郷土愛の醸成（施策（４）－①－iv）

重点エリア② カーミージー周辺エリア（人と自然の交流拠点）

港川に位置するカーミージー地区周辺一帯は、隣接する牧港補給地区（キャンプキンザー）の存在により、沖縄県都市部において奇跡的に残された手付かずの貴重な自然海岸を有する地域であり、従来から港川地域住民による里浜としての利用や小中学校などの環境学習の場としての利用が図られており、地域より公園整備の要望があげられ、牧港補給地区が存在する特徴を生かした整備を検討が進められています。臨港道路浦添線の開通により、地元の港川自治会は、道路の開通に伴って訪れる人が増加することにより、貴重なイノーが荒らされることを懸念し、平成 27 年に浦添市に対して、条例制定を要請したことから、「浦添市里浜の保全及び活用の促進に関する条例」が検討され、平成 30 年 4 月に施行されることになりました。地域住民が利用する多様で豊かな海辺「里浜」の保全活用に関する条例は全国でも珍しく、県内でも初めての取組でもあります。



このような状況を踏まえ、貴重な西海岸の自然を生かした取組を推進し、イノーの保全と活用の両輪で、地域の観光地域づくりを市民と行政が連携し、実現していきます。



【戦略的重点施策としての選定理由】

- ✓ 浦添市で唯一の自然海岸で、手つかずの自然環境を有していることから、これらを生かした観光地域づくりを実現することができる地域である。
- ✓ また、カーミージーを保全し、観光振興や環境学習に活用しようと、「浦添市里浜の保全及び活用の促進に関する条例」の策定が進められ、自治会をはじめとする市民の機運も高まっている地域であることから、今後重要なエリアと位置づけられる。

◇積極的に推進する取組

■自然環境の保全

- ①里浜のガイドライン作り（施策（１）－②－i）

■観光客の受入環境整備

- ②まちなみ・景観保全（施策（３）－③－i）
- ③案内サインの充実（施策（３）－②－iv）
- ④観光・交流拠点の充実（施策（３）－①－ii）
- ⑤駐車場の整備・確保に向けた取組（施策（３）－②－v）

■滞在コンテンツの開発・充実

- ⑥自然環境を活用した誘客（施策（１）－②－ii）
- ⑦テーマ性を活かした浦添ならではの滞在コンテンツの造成（施策（１）－③－i）
- ⑧修学旅行受入への取組（施策（１）－③－vii）

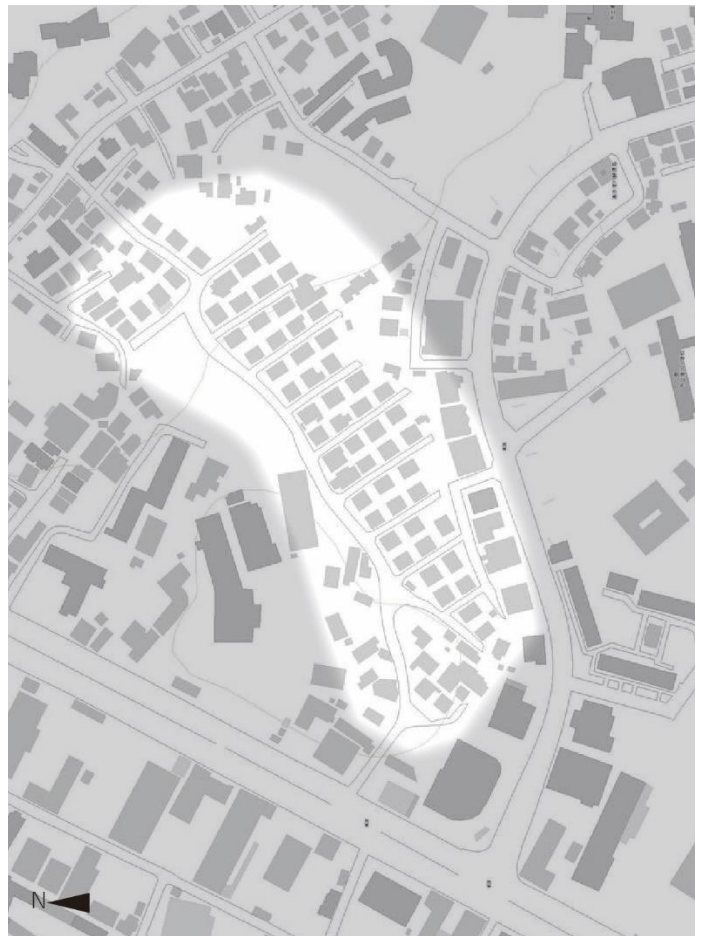
■観光客のおもてなしの充実

- ⑨観光ガイド人材の育成・技術向上（施策（４）－①－ii）
- ⑩多言語による情報発信手法構築（施策（２）－①－iii）
- ⑪子どもたちの郷土愛の醸成（施策（４）－①－iv）

重点エリア③ 港川ステイツサイドタウンエリア

港川ステイツサイドタウンは、元々米軍基地で働く軍人やその家族が暮らす外国人住宅として栄え、その古き良き外国人住宅街の風景を現在まで受け継いでいます。近年、これら外国人住宅をリフォームし、カフェや雑貨屋等個性豊かな店舗が開業されることが多く、女性や訪日外国人等といった多くの観光客がこのエリアに訪れています。

しかし、駐車場が少なく、路上駐車が多いことや近隣の子ども達が登下校に利用しているといった観光地と住宅地が混在している状況であり、観光客を受け入れるための環境が整っていない状況となっています。様々な分野の店舗が流入していくことやそれに伴い、観光客も増えていくことが推測できることから、今後、受入環境の整備を行い、観光客だけではなく、住民にとっても住みやすい環境となるよう、具体的な取組が必要となるエリアです。



【戦略的重点施策としての選定理由】

- ✓ 外国人住宅を活用し、人気のカフェや雑貨屋が軒を連ね、多くの観光客を集客している地域である。最近では、訪日外国人も多く見受けられる。観光拠点としてのポテンシャルを秘めている一方、近年渋滞の発生、駐車場の不足といった受入環境の課題が生じている。
- ✓ 古き良き外国人住宅の風景として価値が高いことから、今後、受入環境の整備を行うとともに、その周辺に住む住民にとっても住みやすい環境として整えていく必要があるエリアである。

◇積極的に推進する取組

■コト消費空間の創出

- ①店舗の魅力化（施策（１）－③－ii）
- ②テーマ性を活かした浦添ならではの滞在コンテンツの造成（施策（１）－③－i）
- ③港川ステイツサイドタウンの賑わいの創出（施策（１）－⑤－ii）

■観光客の受入環境の整備

- ④案内サインの充実（施策（３）－②－iv）
- ⑤駐車場の整備・確保に向けた取組（施策（３）－②－v）
- ⑥観光客向けの防災・防犯（施策（４）－②－vi）
- ⑦公衆無線 LAN 整備（施策（３）－②－iii）

■イメージの構築及び誘客のための取組

- ⑧情報発信手法の構築（施策（２）－①－i）
- ⑨うらそえナビの充実・発信力強化（施策（２）－①－ii）
- ⑩多言語による情報発信手法構築（施策（２）－①－iii）
- ⑪まちなみ・景観保全（施策（３）－③－i）

■事業者等の連携による誘客の促進

- ⑫市内事業者間の連携強化（施策（４）－②－iii）

重点エリア④ 屋富祖商店街エリア（商業・業務拠点）

戦後、道路がいち早く整備され軍作業に就労先を求め、県内外より転入者が集中したため、屋富祖通りには市場や商店街が形成され、屋富祖通りは、最も古くから賑わった商店街として発展してきました。現在の屋富祖商店街には、老舗から新店まで様々な店舗が軒を連ね、浦添市における歓楽街のイメージで知られています。時代と共に、その賑わいも失われてきていましたが、近年まちの活性化の取組や商店街の店主等にフォーカスを当てた「まちゼミ」等の取組が進められ、再び地域の活性化に向け、様々な取組が行われています。

てだこまつりの前夜祭で歩行者天国を活用した取組や若い店主同士で行う取組等が活発化され始めているほか、元々多くの飲食店舗が出店されていることから、これら魅力的な地域資源や取組を活かすために、市内にお金が落ちる仕組みを構築する必要があります。

また屋富祖商店街では、「浦添市来ワ来ワ推進事業」において、屋富祖通り地区で住民ワークショップを開催し、通りの基本構想を策定するなど、まちづくりの検討を行っていることから、将来的にこの内容と整合性を図っていきます。



【戦略的重点施策としての選定理由】

- ✓ 通り沿いは、歓楽街として認知度も高い場所である。老舗から新店まで様々な店舗が軒を連ねていることから、更なる活性化を図り、昼夜問わず、楽しむことができるコンテンツを充実していくことができるエリアである。
- ✓ てだこまつりの前夜祭の会場となり、賑わいを生み出しているほか、最近若い店主が進出しはじめ、店主同士が連携したイベントの展開、「まちゼミ」等といった様々な取組が進められており、活性化を図ることができる可能性があるエリアである。

◇積極的に推進する取組

■コト消費空間の創出

- ①店舗の魅力化（施策（１）－③－ii）
- ②イベントの充実（施策（１）－③－vi）
- ③シンボルロード等の街づくりとの連携（施策（３）－③－ii）
- ④テーマ性を活かした浦添ならではの滞在コンテンツの造成（施策（１）－③－i）
- ⑤「まちゼミ」等の取組の推進（施策（１）－⑥－i）

■観光客の受入環境の整備

- ⑥案内サインの充実（施策（３）－②－iv）
- ⑦駐車場の整備・確保に向けた取組（施策（３）－②－v）
- ⑧観光客向けの防災・防犯（施策（４）－②－vi）

■イメージの構築及び誘客のための取組

- ⑨情報発信手法の構築（施策（２）－①－i）
- ⑩うらそえナビの充実・発信力強化（施策（２）－①－ii）
- ⑪多言語による情報発信手法構築（施策（２）－①－iii）

■事業者等の連携による誘客の促進

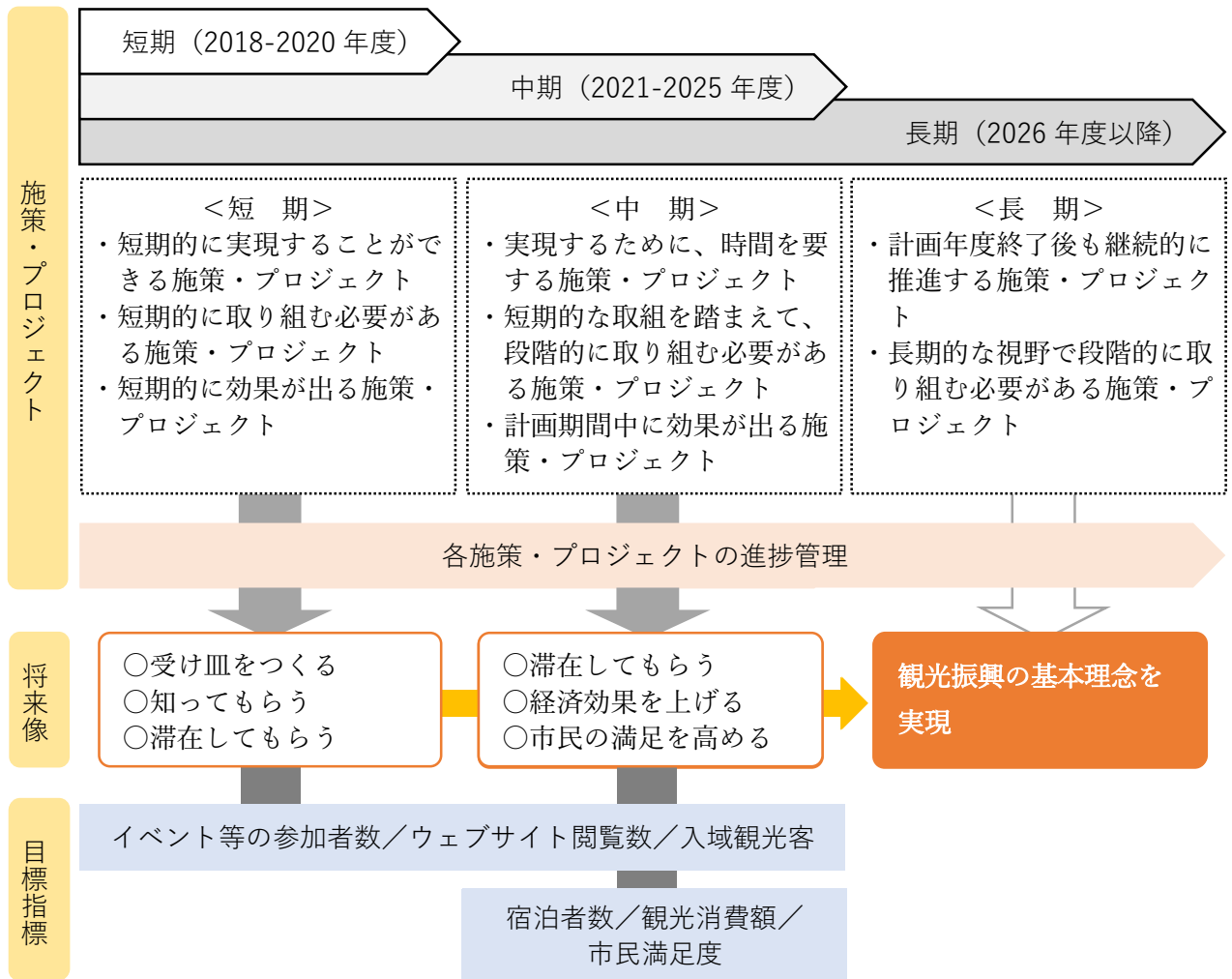
- ⑫市内事業者間の連携強化（施策（４）－②－iii）

第6章 浦添市の観光施策

1. 施策内容

浦添市における観光振興の将来像と目指す方向性に従い、下記の5つの基本施策を軸に具体的な取組を推進していきます。具体的な取組を推進していくために、ロードマップ（短期：3年間、中期：8年間、長期：8年以上）及び実施主体（行政・関連団体・事業者・市民）を明確に示しています。

【ロードマップの考え方】



【実施主体の考え方】

行政	浦添市観光振興課、関連各課、教育委員会など
関連団体	浦添市観光協会、商工会議所、漁協、文化芸能団体など
事業者	宿泊・観光施設・運輸・物販・飲食など
市民	市民および、自治会、市民団体など

<凡例>

◎：主体的に実施する（観光商品・イベントの企画運営、設備・施設の整備、人材育成の仕組み構築・運営など）

○：協力的に実施する（来訪者受け入れ、イベントの人的・資金的協力、設備・施設の協議連携、人材育成実施・参加など）

(1) 地域資源である生活・文化・芸能・自然・施設・環境・人を活かす浦添での過ごし方の提案

施策① 地域の歴史・文化・芸能の保存・活用

i) 周遊ルート構築、組踊での誘客、文化資源と連動するコンテンツづくり

浦添市には、古琉球時代の中山の王城として知られる浦添城跡や組踊等をはじめ、様々な歴史的なストーリーが存在することから、浦添らしい知る人ぞ知る通のコンセプトやストーリーを構築し、それらを積極的に活用したコンテンツを造成し、歴史・文化・芸能の産業化を図ります。



ii) 浦添城跡・浦添市美術館の観光拠点化

浦添城跡の近接地にモノレール駅が建設されることから、浦添城跡や浦添市美術館等といった文化資源を核とし、その周辺の活性化を図っていきます。



iii) 文化財の保存・活用

浦添城跡ほか市内の文化財の調査を行い、文化財の保存・整備・活用を通じて、観光資源として取扱い、市民の愛着や誇りの醸成を図っていきます。



iv) 地域活動の観光コンテンツ化

浦添市内では、空手や踊り、獅子舞、綱引き等といった地域固有の歴史文化が根付いていることから、これら歴史文化の観光コンテンツ化を進め、歴史・文化・芸能の産業化を図り、地域内の伝統文化といった視点だけでなく、来訪者の視点も含め地域活性化を推進していきます。



v) 国立劇場おきなわとの連携強化（組踊での認知度及び誘客等を高める取組）

国の重要無形文化財及びユネスコ無形文化遺産である「組踊」は、沖縄県の伝統文化です。これまで組踊の保存・振興を目的に、国立劇場おきなわとの連携を図り、組踊等の普及を行ってきました。組踊の認知度の向上、そして来訪者の誘客を高めていくために、国立劇場おきなわとの連携を強化します。



具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) 周遊ルート構築、組踊での誘客、文化資源と連動するコンテンツづくり	■			◎	◎	○		浦添城跡周辺 国立劇場おきなわ
ii) 浦添城跡・浦添市美術館の観光拠点化	■	■		◎	○			浦添城跡周辺 浦添市美術館
iii) 文化財の保存・活用	■	■	■	◎	◎	○	○	浦添城跡周辺
iv) 地域活動の観光コンテンツ化	■	■		○	◎	○	○	市全域
v) 国立劇場おきなわとの連携強化	■			◎	◎			国立劇場おきなわ

施策③ 魅力的な商品・サービスの展開

i) テーマ性を活かした浦添ならではの滞在コンテンツの造成

浦添市内における滞在時間の延長、観光消費額の拡大を図るために、浦添市が持つ歴史・文化的な資源や食・スイーツ、海、屋富祖商店街等といった様々なテーマ性を活かした滞在コンテンツを造成していきます。



ii) 店舗の魅力化

観光地域づくりを推進するにあたり、産業においても観光との連携可能性があると考えます。本市には4つの通り会等をはじめとする店舗が多いため、店主の観光に対する機運の醸成を行い、サービスづくりを進め、魅力的な店舗づくりを行います。



iii) クルーズ船からの誘客に向けたコンテンツ造成の取組

沖縄県ではクルーズ船から来沖する訪日外国人の数が年々増加傾向であり、今後もクルーズ船の受入を積極的に進めていきます。浦添市の地理的優位性を踏まえ、クルーズ船からの誘客に向けたコンテンツを造成し、新たな来訪者の獲得を目指していきます。

iv) 雨天時の滞在プログラム構築

歴史・文化や自然といった観光資源を有しているが、雨天時に対応することができる滞在プログラムが少ない現状です。天候に左右されず、観光客の滞在時間を延長させるために、雨天時における滞在プログラムを構築していきます。



v) 市産品の開発およびPR（桑製品・うらそえ織等）

観光消費額の拡大を図るために、浦添市が注力している桑製品を始めとした市産品を開発し、販売していくことが必要となります。観光客に市産品を買ってもらうことで、市内中小企業の販路拡大、売り上げの向上につながるため、企業間同士および官民が連携し、浦添市のブランド力を持った商品を開発し、魅力を発信していきます。



vi) イベントの充実（大規模イベントの集客・安全確保、地域イベント・スイーツ・祭事での観光客受け入れ、他地域イベントとの連携）

浦添市では市民向けのイベントが多く開催されていることから、イベントを観光資源として捉え、多くの誘客を図ります。そして、イベントの場を事業者間、また事業者と住民間、住民と観光客をつなぐ場とすることで、地域の活性化を図っていきます。

また、他自治体において、大規模なイベントが開催されていることから、それらと連携し、一体的なおもてなしを図っていきます。



施策④ スポーツツーリズム・MICE 観光等の推進

i) スポーツツーリズムの充実（ヤクルトキャンプ見学者の浦添滞在促進、各種スポーツ合宿受け入れ、てだこウォークを活用した誘客推進、ハンドボール王国のPR推進）

ヤクルトキャンプの観戦者をはじめとする各種スポーツの参加者・観戦者を対象とし、競技前後の時間を浦添市内で滞在してもらえるための取組を充実させ、消費機会を創出し、商店街や飲食店の活性化を図っていきます。

浦添市は、平成16年にハンドボール王国を宣言し、多くの選手、指導者を輩出してきました。市民だけではなく、市外の方々に対してもその認知度を高めていくために、ハンドボールと触れる機会を創出し、積極的にPRを図ります。



ii) 魅力ある新たなスポーツイベントの創出

スポーツツーリズムを推進し、多くの競技者・観戦者が訪れ、あらゆる人が楽しめる場所にしていくために、魅力ある新たなスポーツイベントを創出していきます。



iii) 浦添市てだこホール等の活用

地域の文化力の向上を図ることを目的に、浦添市てだこホールでは各種団体との協働により様々な事業が展開されています。浦添市においても核となる施設であることから、積極的に施設の活用を行い、多くの人を誘客していきます。



iv) MICE 誘致への取組

浦添市てだこホール等といった多くの集客を見込める施設を有していることから、MICE等の誘致の検討も進めていきます。

また、東海岸に建設が予定されている大型MICEとの連携を図り、アフターMICE等の推進を図り、観光客を誘客していきます。

v) スポーツ環境の整備・充実

スポーツ施設の整備や充実を図り、積極的にスポーツチーム等の合宿や大会などの受入を行い、魅力的なスポーツツーリズムを推進していきます。



具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) スポーツツーリズムの充実（ヤクルトキャンプ見学客の浦添滞在促進、各種スポーツ合宿受け入れ、てだこウォークを活用した誘客推進、ハンドボール王国のPR推進）	→			◎	◎	○	○	浦添運動公園ほか
ii) 魅力ある新たなスポーツイベントの創出	→			◎	◎	○	○	市全域
iii) てだこホール等の活用	→			◎		◎		てだこホール等
iv) MICE誘致への取組	→			◎	○	○		市全域
v) スポーツ環境の整備・充実	→			◎	◎			市全域

施策⑤ 施設を核とした賑わいの創出

i) 観光交流拠点施設（にぎわい交流ゾーン）を核とした周辺施設の賑わいの創出

モノレールの延長により新設される浦添前田駅周辺では、観光交流拠点施設等の開発が進むことから、今後浦添市の東部の核となるエリアと位置づけていきます。周辺のエリアの施設や資源等と核となる拠点が連携を図り、一体的な賑わいづくりを進めていきます。

ii) 港川ステイツサイドタウンの賑わいの創出

港川ステイツサイドタウンでは、外国人住宅を活用し、雑貨屋や飲食店などが軒を並べています。近年、訪日外国人等も訪れ、隠れ家的なスポットになっていることから、さらに認知度を高め、浦添市を代表とする観光地を形成していきます。



具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) 観光交流拠点施設（にぎわい交流ゾーン）を核とした周辺施設の賑わいの創出	→			◎	○	○		浦添城周辺
ii) 港川ステイツサイドタウンの賑わいの創出	→			○	○	◎		港川ステイツサイドタウン

施策⑥ 個店（中小企業等）の人材の発掘・活用

i) 「まちゼミ」等の取組の推進

店舗の方が講師となり、プロならではの知識やコツを楽しく教えてくれる講座「まちゼミ」が開校され、特色のある店舗や店主といった「ヒト」を観光資源として捉え、浦添市の魅力を発信する機会を創出していきます。



具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) 「まちゼミ」等の取組の推進	▶			○	○	◎	○	市全域

(2) 浦添市の情報発信の強化

施策① 情報発信方法の確立

i) 情報発信手法の構築（ウェブ・紙媒体等）

観光地域づくりを進め、誘客を図っていくために、まずは浦添市を観光地としてのイメージを高めるために、市内の拠点やWEB等を用いた浦添市の魅力を発信していきます。情報発信を進めるにあたり、観光のテーマやターゲットに応じたコンテンツやツールを検討し、効果的な仕組みを構築していきます。

ii) うらそえナビの充実・発信力強化

これまでのリピーター層、そして新たな関心層の獲得を目指して、浦添市の観光情報WEBサイト「うらそえナビ」を充実させ、発信力を強化していきます。また、発信による効果の把握にも努めていきます。



iii) 多言語による情報発信手法構築

アフターMICE やクルーズ船等からの誘客を図っていくために、訪日外国人に対応することができる情報発信手法を構築していきます。

iv) 浦添市ふるさとてだこの都市応援寄附金返礼品を活用した浦添市の魅力発信（返礼品の内容（コト・モノ）の充実）

ふるさと納税の返礼品を活用し、市産品だけではなく、体験プログラム等の提供の検討を行い、コト・モノの充実を図り、浦添市の魅力を発信していきます。



具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) 情報発信手法の構築（ウェブ・紙媒体等）	▶			◎	○		○	市全域
ii) うらそえナビの充実・発信力強化	▶			◎	○		○	市全域
iii) 多言語による情報発信手法構築	▶			◎	○	◎		市全域
iv) 浦添市ふるさとてだこの都市応援寄附金返礼品を活用した浦添市の魅力発信（返礼品の内容（コト・モノ）の充実）	▶			◎	○	○		市全域

(3) 受け入れ環境として、滞在拠点・交通の充実

施策① 観光拠点の整備・充実

i) 宿泊施設の充実

これまで宿泊施設が少ないことが課題に多く挙げられてきました。モノレール新駅周辺等への宿泊施設の誘致、その他にも既存施設の活用や民泊等の取組も検討し、宿泊施設の充実を図り、浦添市内での滞在時間の延長、観光消費額の拡大を目指していきます。

ii) 観光・交流拠点の充実（西海岸地区、市内モノレール駅、カーミージー地区海浜公園拠点施設など）

これから西海岸地区、モノレールの新駅周辺において、商業施設が建設され、新たな観光拠点が形成されます。これらの施設と連携し、浦添市の魅力や市産品の発信、観光案内といった情報発信拠点としての機能も充実させ、浦添市の観光・交流拠点として、にぎわいを創出していきます。

iii) 既存施設の効果的かつ柔軟な利活用（浦添大公園、浦添城跡）

浦添大公園や浦添城跡等の既存施設は、浦添市における核となる施設であることから、柔軟な取組が進めていけるよう、関係各所と調整を行い、観光・交流拠点の充実を図ります。



iv) クルーズ船バースの整備に向けた事業主体との連携

西海岸開発に伴い、クルーズ船バースの整備に向けた取組を推進し、クルーズ船の誘致を進めていきます。



具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) 宿泊施設の充実	▶			◎	○	○	○	市全域
ii) 観光・交流拠点の充実（西海岸地区、市内モノレール駅、カーミージー地区海浜公園拠点施設など）	▶▶▶			◎	○	○		西海岸地区 市内モノレール新駅 カーミージー周辺
iii) 既存施設の効果的かつ柔軟な利活用（浦添大公園、浦添城跡）	▶▶▶			◎	○			浦添城跡周辺 浦添大公園
iv) クルーズ船バースの整備に向けた事業主体との連携	▶▶▶▶▶			◎				西海岸地区

施策② 交通・情報インフラの充実

i) 2次交通の充実（市民・観光客が利用できるコミュニティバス、レンタルサイクルなど）

市内での滞在時間を延長するために、市内における2次交通の整備・充実を図っていきます。2次交通の整備にあたっては、レンタサイクル、支線公共交通（コミュニティバス、デマンドタクシー、バス）等といった様々な移動手段を検討し、市民や来訪者が利用しやすいサービスの拡充を図っていきます。



ii) 西海岸や市内モノレール駅等とあわせた市内交通体系の整理・整備

モノレール駅や西海岸等の開発により、交通の流れも大きく変化することが予測されます。これら市内の開発動向に合わせ、随時交通体系の見直し・整備を行い、観光客や市民にとって便利な交通網を形成していきます。

iii) 公衆無線LAN整備

訪日外国人を誘客していくために、公共施設や主要観光施設に公衆無線LANを整備していきます。

公衆無線LANを整備することで、観光客は気軽に観光地や店舗等の情報を調べたり、その場所の魅力をSNS等で発信することができます。また、WEBサイト等では容易に翻訳等が行えるため、案内板やガイドブックとは異なり、迅速に訪日外国人への受入環境を整えていくことができます。



iv) 案内サインの充実

浦添市には、入り組んだ道も多いことから、誰もが主要な観光施設や目的地に行くことができるよう、案内サインを充実させ、観光客にやさしい地域を形成していきます。また、訪日外国人にもわかるよう、多言語表記も推進していきます。

v) 駐車場の整備・確保に向けた取組

沖縄県内での観光客の移動手段として、自動車が最も多く、これから観光客を誘客していくためには、駐車場の整備・確保が必要となります。主要な観光地や店舗の周辺において、駐車場を整備するとともに、那覇市のベッタタウンといった地域の特性を生かし、シェアパーキング等といった取組の検討も進めます。



具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) 2次交通の充実（市民・観光客が利用できるコミュニティバス、レンタルサイクルなど）	▶			◎		○		カーミージー周辺 屋富祖商店街 港川ステイツサイドタウン 浦添城跡周辺
ii) 西海岸や市内モノレール駅等とあわせた市内交通体系の整理・整備	▶			◎		○		市全域
iii) 公衆無線LAN整備	▶			◎		◎		カーミージー周辺 屋富祖商店街 港川ステイツサイドタウン 浦添城跡周辺
iv) 案内サインの充実	▶			◎	○	○		市全域
v) 駐車場の整備・確保に向けた取組	▶			◎	○	◎	◎	市全域

施策③ 観光地域としての空間形成

i) まちなみ・景観保全（景観地区検討、自然緑地保全、商店街、季節や時間帯に応じたまちなみ・景観・眺望スポット活用）

観光客に、地域の文化・歴史・自然等に根付いた地域ならではの世界観を感じてもらうために、浦添城跡の限界や自然緑地の保全を推進していくとともに、市内の開発動向に合わせて浦添市独自のまちなみを維持・形成していきます。

また、季節や時間帯に応じたまちなみ・眺望スポット等が市内各場所にあることから、観光資源として活用し、浦添らしい空間を伝えていきます。



ii) シンボルロード等のまちづくりとの連携

シンボルロードは、浦添市の都市軸として、東西を横断する浦添西原線から浦添ふ頭地先に至り、さまざまな表情を演出する、本市の顔となるように整備していきます。この整備に合わせて、シンボルロード沿線を地域の特色に応じた取組を進めていきます。

具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) まちなみ・景観保全（景観地区検討、自然緑地保全、商店街、四季や時間帯に応じたまちなみ・景観・眺望スポット活用）	▶			◎	○	○	○	市全域
ii) シンボルロード等のまちづくりとの連携	▶			◎	◎	○	○	シンボルロードの区間～市役所

(4) 浦添観光を支える体制の充実

施策① 観光人材の育成

i) 観光推進の担い手発掘・育成

観光に関わる事業者等の観光に対する機運を高めるために、商品開発や販路開拓の勉強会や店舗づくりの講習会等を実施し、観光振興を推進していく担い手を発掘・育成します。

ii) 観光ガイド育成・技術向上（訪日外国人対応含む）

観光客の満足度を高めるために、観光ガイドの育成やガイド技術の向上に努めていきます。



iii) 住民の誇りづくり

観光というツールを用いて、地域の歴史や文化、自然等の魅力を知るためのセミナー等を開催し、地域住民の機運の醸成、ひいては地域の誇りやアイデンティティの醸成を図っていきます。

観光を通じて、住民も楽しむことができる取組を進めていきます。



iv) 子どもたちの郷土愛の醸成（人材育成）

小学校の総合学習等を通して、郷土愛を育み、浦添市に誇りをもち、将来、浦添市内で活躍していける人材の育成に努めていきます。



具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) 観光推進の担い手発掘・育成	▶			◎	◎	○		市全域
ii) 観光ガイド育成・技術向上（訪日外国人対応含む）	▶			◎	◎			市全域
iii) 住民の誇りづくり	▶			◎	○	○	○	市全域
iv) 子どもたちの郷土愛の醸成（人材育成）	▶			◎	◎	○	○	市全域

施策③ 広域連携の推進

i) 他市町村との連携体制の構築

浦添市は、那覇市等といった観光客が多い市町村に隣接していることから、広域連携による観光誘客の推進を図ります。

周辺市町村との連携により、相互補完関係を持つプログラムの構築が可能となり、対外的なプロモーションを実施するにあたり、広域で多様性のあるプログラムを提供することができます。

具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) 他市町村との連携体制の構築				◎	◎			市全域

(5) マーケティング・経済波及効果の検証体制の充実

施策① マーケティング戦略の構築

i) 継続的なマーケティング調査の実施分析

継続的なマーケティング調査を行い、浦添市の実態やニーズを的確に把握し、戦略的な取組を推進していきます。

具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) 継続的なマーケティング調査の実施分析				◎	○			市全域

施策② 観光振興による経済波及効果の検証

i) 経済波及効果を生み出す他業種連携推進

観光産業は裾野が広く、経済波及効果が高い産業といわれています。交流人口の増加により、交通機関の利用、飲食や宿泊、市製品の購入等その消費活動は多岐に渡ります。これにより、地域経済の活性化を生み出していくために、他業種との連携を推進していきます。

ii) 経済波及効果を求めるためのデータ収集

経済波及効果を算出し、取組の効果を的確に把握していくために、算出するためのデータの収集に努めていきます。

具体的な取組	ロードマップ			実施主体				展開するゾーン
	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	
i) 経済波及効果を生み出す他業種連携推進				○	◎	○		市全域
ii) 経済波及効果を求めるためのデータ収集				○	◎	○		市全域

< 施策一覧 >

基本方針（１）地域資源である生活・文化・芸能・自然・施設・環境・人を活かす浦添での過ごし方の提案

施策	取組	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	主なエリア
①地域の歴史・文化・芸能の保存・活用	i) 周遊ルート構築、組踊での誘客、文化資源と連動するコンテンツづくり				◎	◎	○		浦添城跡周辺 国立劇場おきなわ
	ii) 浦添城跡・浦添市美術館の観光拠点化				◎	○			浦添城跡周辺 浦添市美術館
	iii) 文化財の保存・活用				◎	◎	○	○	浦添城跡周辺
	iv) 地域活動の観光コンテンツ化				○	◎	○	○	市全域
	v) 国立劇場おきなわとの連携強化				◎	◎			国立劇場おきなわ
②自然環境の保全・活用	i) 里浜のガイドライン作り				◎	◎	○	○	カーミージー周辺
	ii) 自然環境を活用した誘客				◎	○	◎	○	カーミージー周辺
③魅力的な商品（モノ・コト）の活用・造成	i) テーマ性を活かした浦添ならではの滞在コンテンツの造成				◎	○	○		カーミージー周辺 屋富祖商店街 港川ステイツサイド タウン 浦添城跡周辺
	ii) 店舗の魅力化				○	○	◎		屋富祖商店街他
	iii) クルーズ船からの誘客に向けたコンテンツ造成の取組				◎	○	○		市全域
	iv) 雨天時の滞在プログラム構築				○	◎			カーミージー周辺 屋富祖商店街 港川ステイツサイド タウン 浦添城跡周辺
	v) 市産品の開発および PR（桑製品・うらそえ織等）				◎	○	◎		市全域
	vi) イベントの充実（大規模イベントの集客・安全確保、地域イベント・スイーツ・祭事での観光客受け入れ、他地域イベントとの連携）				◎	◎	◎	◎	市全域
	vii) 修学旅行受入への取り組み（体験型プログラム構築・安全管理推進）				◎	◎	○	○	カーミージー周辺 浦添城跡周辺
④スポーツツーリズム・MICE 等の推進	i) スポーツツーリズムの充実（ヤクルトキャンプ見学者の浦添滞在促進、各種スポーツ合宿受け入れ、てだこウォークを活用した誘客推進、ハンドボール王国のPR推進）				◎	◎	○	○	浦添運動公園 ほか
	ii) 魅力ある新たなスポーツイベントの創出				◎	◎	○	○	市全域
	iii) てだこホール等の活用				◎		◎		てだこホール等
	iv) MICE 誘致への取組				◎	○	○		市全域
	v) スポーツ環境の整備・充実				◎	◎			市全域
⑤施設を核とした賑わいの創出	i) 観光交流拠点施設（にぎわい交流ゾーン）を核とした周辺施設の賑わいの創出				◎	○	○		浦添城周辺
	ii) 港川ステイツサイドタウンの賑わいの創出				○	○	◎		港川ステイツサイド タウン
⑥個店（中小企業等）の人材の発掘・活用	i) 「まちゼミ」等の取組の推進				○	○	◎	○	市全域

基本方針（２）浦添の情報発信の強化

施策	取組	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	主なエリア
①情報発信方法の確立	i) 情報発信手法の構築（ウェブ・紙媒体等）				◎	○		○	市全域
	ii) うらそえナビの充実・発信力強化				◎	○		○	市全域
	iii) 多言語による情報発信手法構築				◎	○	◎		市全域
	iv) 浦添市ふるさとてだこの都市応援寄附金返礼品を活用した浦添市の魅力発信（返礼品の内容（コト・モノ）の充実）				◎	○	○		市全域

基本方針（3）受け入れ環境として、滞在拠点・交流の充実

施策	取組	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	主なエリア
①受け入れ施設の整備・充実	i) 宿泊施設の充実				◎	○	○	○	市全域
	ii) 観光・交流拠点の充実（西海岸地区、市内モノレール駅、カーミー地区海浜公園拠点施設など）				◎	○	○		西海岸地区 市内モノレール新駅 カーミー周辺
	iii) 既存施設の効果的かつ柔軟な利活用（浦添大公園、浦添城跡）				◎	○			浦添城跡周辺 浦添大公園
	iv) クルーズ船バースの整備に向けた事業者との連携				◎				西海岸地区
②交通・情報インフラの充実	i) 2次交通の充実（市民・観光客が利用できるコミュニティバス、レンタルサイクルなど）				◎		○		カーミー周辺 屋富祖商店街 港川ステイツサイド タウン 浦添城跡周辺
	ii) 西海岸や市内モノレール駅等とあわせた市内交通体系の整理・整備				◎		○		市全域
	iii) 公衆無線LAN整備				◎		◎		カーミー周辺 屋富祖商店街 港川ステイツサイド タウン 浦添城跡周辺
	iv) 案内サインの充実				◎	○	○		市全域
	v) 駐車場の整備・確保に向けた取組				◎	○	◎	◎	市全域
③観光地域としての空間形成	i) まちなみ・景観保全（景観地区検討、自然緑地保全、商店街、四季や時間帯に応じたまちなみ・景観・眺望スポット活用）				◎	○	○	○	市全域
	ii) シンボルロード等のまちづくりとの連携				◎	◎	○	○	シンボルロードの区間～市役所

基本方針（4）浦添観光を支える体制の充実

施策	取組	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	主なエリア
①観光人材の育成	i) 観光推進の担い手発掘・育成				◎	◎	○		市全域
	ii) 観光ガイド育成・技術向上（訪日外国人対応含む）				◎	◎			市全域
	iii) 住民の誇りづくり				◎	○	○	○	市全域
	iv) 子どもたちの郷土愛の醸成（人材育成）				◎	◎	○	○	市全域
②観光まちづくり推進体制の構築	i) 浦添市観光協会の組織強化及び法人化				○	◎			市全域
	ii) かじ取り役となる官民連携の体制構築				◎	○	○		市全域
	iii) 市内事業者間同士の連携強化				○	○	◎		市全域
	iv) 訪日外国人受け入れ体制の構築				◎	○	○	○	市全域
	v) 行政内の体制の連携強化				◎				市全域
	vi) 観光客向けの防災・防犯				◎	○	○	○	市全域
③広域連携の推進	i) 他市町村との連携体制の構築				◎	◎			市全域

基本方針（5）マーケティング・経済波及効果の検証体制の充実

施策	取組	短期	中期	長期	行政	関連団体	事業者	市民	主なエリア
①マーケティング戦略の構築	i) 継続的なマーケティング調査の実施分析				◎	○			市全域
②観光振興による経済波及効果の検証	i) 経済波及効果を生み出す他業種連携推進				○	◎	○		市全域
	ii) 経済波及効果を求めるためのデータ収集				○	◎	○		市全域

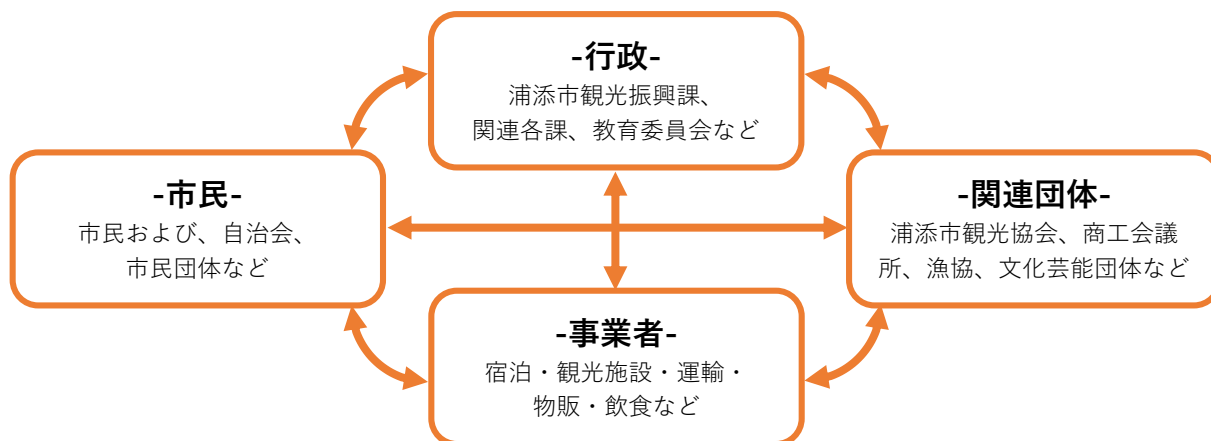
第7章 計画の実現に向けて

1. 推進体制の構築

本計画の推進にあたっては、行政、市民、民間事業者等が浦添市の将来像を共有し、それぞれの役割のもと、連携、協働して取り組みます。

また、他産業や環境、まちづくりなど、他の分野の取組との連携も必要であることから、市民や民間事業者との協働による推進体制を構築し、浦添市の観光地域づくりを実現していきます。

【推進体制構築のイメージ】



主体	役割
行政 (浦添市観光振興課、関連各課、教育委員会など)	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内各部署との連携、国や県、関係市町村、関係機関との協議のもとで、取組を推進します。 ・拠点施設の整備や、民間事業者が事業推進を図りやすい環境づくりとして人材育成や新規事業のきっかけづくりを行います。 ・教育委員会においては、文化財等の保全と活用、学校教育との関連での事業推進を支援します。
関連団体 (浦添市観光協会、商工会議所、漁協、文化芸能団体など)	<p>(観光協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムの運営や情報発信など事業推進を行うとともに、行政と民間をつなぐ、各分野の産業間をつなぐ調整機能を果たします。 ・観光マーケティングやプロモーションについて、行政との連携の下で推進します。 <p>(商工会議所、漁協、文化芸能団体など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者等が行う事業に対しての支援や、団体自らが事業の担い手となる事業を主体的に推進します。 ・民間と行政とをつなぎ、円滑な事業推進が実現するための役割を担います。
事業者 (宿泊・観光施設・運輸・物販・飲食など)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光の主体的な担い手として、事業推進の役割を果たします。 ・関連事業者や行政、市民等との連携・協働のもとで、事業を推進し、観光振興を図るとともに、地域の魅力向上、地域経済の活性化や人材育成に努めます。
市民 (市民および、自治会、市民団体など)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史文化や自然環境等に関する知識と誇りを持ち、訪れる人々を迎え入れます。 ・地域の美化緑化活動や芸能文化の継承、自身の経験や知識を活かした体験受け入れや民泊の受け入れなど、観光まちづくりの担い手として活躍します。

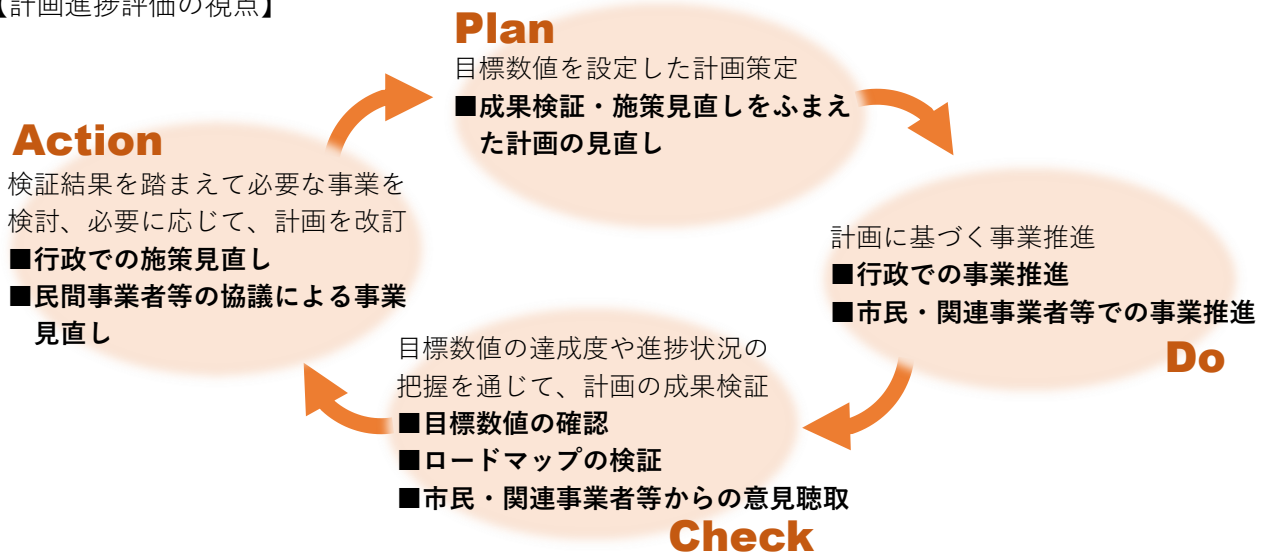
2. 進捗管理

本計画の将来像を実現するためには、計画に基づく事業推進についての進捗管理を行う必要があります。PDCAサイクルのもとで、計画を実行し、それを進捗評価・改善、そして必要に計画を見直すプロセスを運用していきます。

今後、サンエーパルコ開業やモノレール新駅開業及びその周辺開発、港川地区リゾートホテルの開業等といった様々な内外の情勢や環境が変化する要因があることから、計画期間中であっても必要に応じて計画の見直しを行っていきます。

進捗評価については、本計画の目標数値の達成状況や個別事業の進捗評価だけでなく、市民や民間事業者等からの意見聴取を行うといった各取組の進捗管理を行う組織が必要となります。各取組の進捗状況や目標達成状況等を客観的に評価することができる仕組みを構築し、PDCAサイクルのもと、本計画の進捗評価及び進捗管理を行っていきます。

【計画進捗評価の視点】



【計画進捗管理体制】

本計画の進捗管理については、学識経験者や各種団体、観光産業関連団体、民間有識者等で構成する「浦添市観光振興審議会」において行うこととします。浦添市観光振興審議会は、毎年1回以上開催し、本計画の進捗管理及び評価を行います。

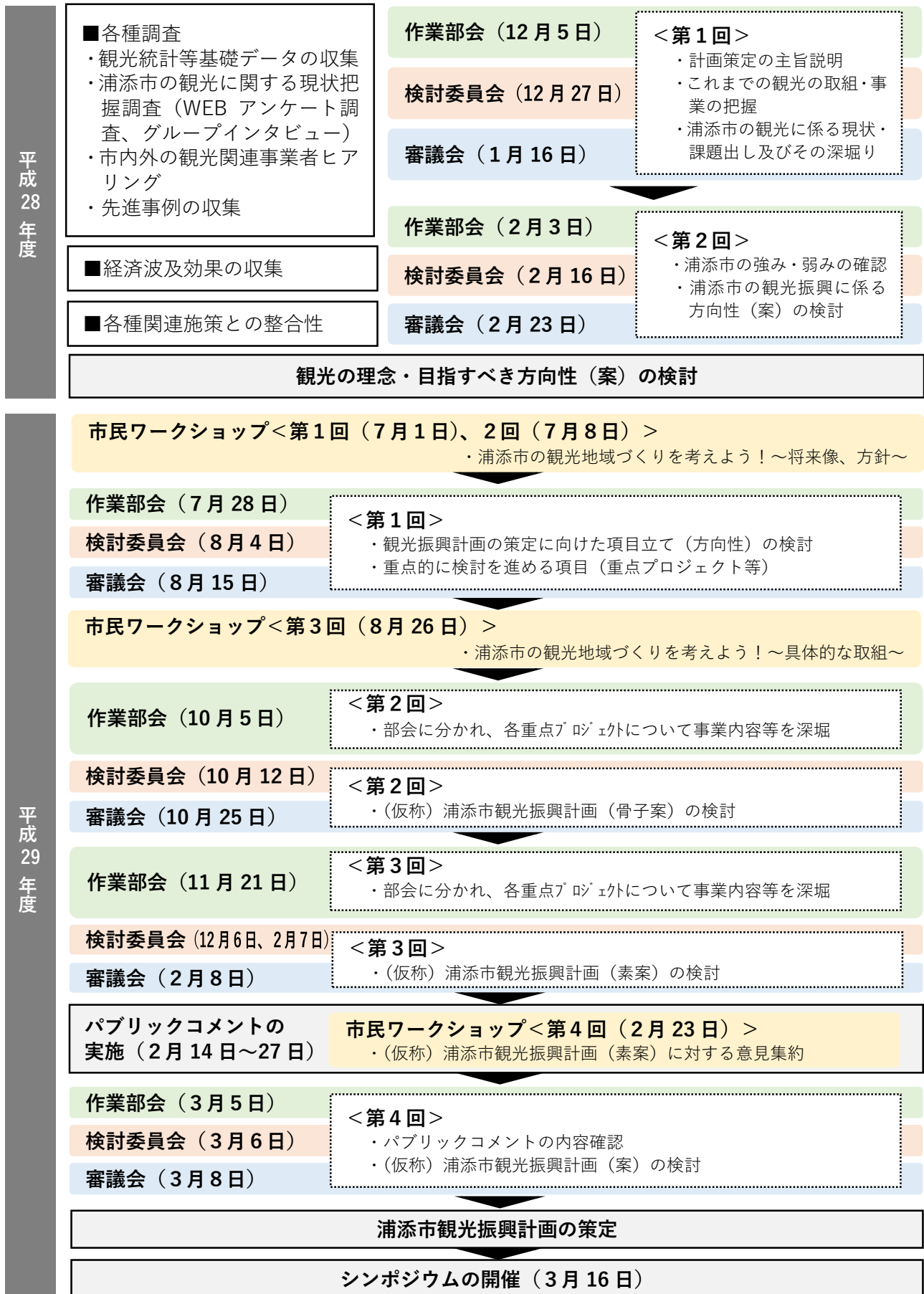
また、計画の中間年次にあたる2020年度には目標指標検証の調査および計画の中間見直しを行い、その後最終前年度である2024年度に目標指標検証の調査、2025年度に計画の見直しを実施します。

《計画進捗管理のスケジュール》

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
前期計画（3年）施策推進			後期計画（5年）施策推進				
		（指標検証） 調査実施 見直し 計画中間				（指標検証） 調査実施	第2次計画見直し 計画見直し 第2次計画検討

資料編

1. 策定の流れ

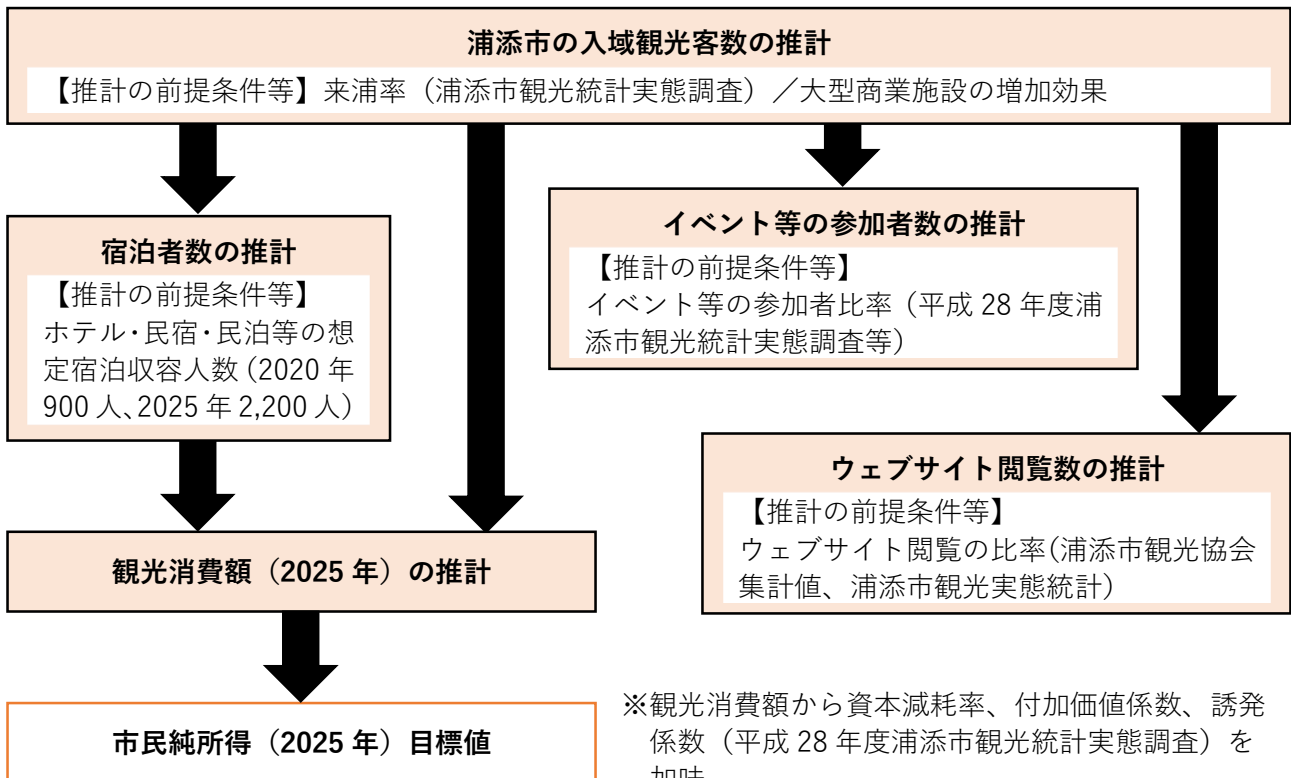


2. 目標数値の考え方

「観光振興による目指す将来像（28～29 ページ）」に掲げる目標数値の考え方について、以下のとおり、示します。

指標	基本的な考え方
入域観光客数	「平成 28 年度浦添市観光統計実態調査」から来浦率を算出し、沖縄県の入域観光客数の推計値に乗じた。これに、大型商業施設開業に伴う増加効果を加味し、浦添市の入域観光客数を算出した。
宿泊者数	2025 年までの宿泊施設誘致見込み及び民宿・民泊・ホームステイ等の実施見込みをもとに、想定される市内宿泊収容人数を算出し、定員稼働率や平均宿泊数を加味して宿泊者数を推計した。
観光消費額	浦添市の入域観光客数（市内宿泊客・日帰り客別）に市内宿泊客・日帰り客の消費単価を乗じた。
イベント等の参加者数	市内入域観光客数の推計値に対するイベント参加者数の比率を、2020 年および 2025 年の入域観光客数の推計値に乗じた。
ウェブサイト閲覧数	市内入域観光客数の推計値に対するページビュー数の比率を、2020 年および 2025 年の入域観光客数の推計値に乗じた。
市民満足度	「住んでよし・訪れてよし」を目指す観光地域づくりの方向性が「第 4 次浦添市総合計画 後期基本計画」の全政策分野に関連することから、平成 27 年度に実施されたアンケート結果に基づき、政策ごとの平均満足度（5 段階評定）の中央値（3.02）を参考に設定した。

<算出の流れ>



3. 浦添市観光振興審議会規則

○浦添市観光振興審議会規則

平成 28 年 6 月 24 日

規則第 54 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、浦添市附属機関設置に関する条例（昭和 47 年条例第 4 号）第 3 条の規定に基づき、浦添市観光振興審議会（以下「審議会」という。）の組織及び運営その他必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 審議会は、浦添市の観光振興に関する事項について、市長の諮問に応じて、調査審議し、及び答申するものとする。

(組織)

第 3 条 審議会は、15 人以内の委員をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 各種団体等の代表者
- (3) 観光産業関連団体の代表者
- (4) その他市長が必要があると認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、再任することを妨げない。

2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第 5 条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 審議会は、会長が招集し、会長は、会議の議長となる。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、会議における審議の参考に供するため必要があると認める場合には、委員でない者を出席させて意見を述べさせることができる。

(庶務)

第 7 条 審議会の庶務は、市民部経済観光局観光振興課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

【浦添市観光振興審議会委員名簿】

(平成29年1月16日時点)

	所属	役職・氏名	備考
1	国立大学法人 琉球大学 観光産業科学部観光科学科 大学院観光科学研究科	教授 金城 盛彦	会長
2	浦添商工会議所	観光サービス部会 宮平 彰夫	
3	浦添市観光協会	専務理事 比嘉 さつき	副会長
4	浦添市文化協会	会長 玉城 千枝	
5	公益社団法人浦添青年会議所	直前理事長 具志堅 興一	
6	浦添まちづくり元気ネットワーク	事務局長 真喜志 一輝	
7	公益社団法人浦添市シルバー人材センター	事務局長 又吉 武信	
8	浦添市商店街連絡協議会	会長 山城 興光	
9	NPO 法人うらおそい歴史ガイド友の会	事務局長 玉那覇 清美	
10	沖縄ツーリスト(株)浦添支店	副支店長 金城 盛信	
11	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団	事務局長 又吉 民人	
12	浦添・宜野湾漁業協同組合	組合長 中西 聡明	
13	株式会社 おきぎん経済研究所	調査研究員 當銘栄一	

【浦添市観光振興審議会開催概要】

回数	日時	議事内容
1	平成29年1月16日(月) 14:00~16:30	○報告事項 1) 浦添市観光振興計画について主旨説明 ○議事 1) 浦添市の現状および浦添市を取り巻く観光動向について 2) 浦添市における観光振興に係る課題について
2	平成29年2月23日(木) 14:40~16:00	○報告事項 1) 浦添市観光振興計画の期間について 2) WEBアンケート調査の結果報告について ○議事 1) 本市の観光振興に係る方向性(基本理念等)の検討
3	平成29年8月15日(水) 13:30~15:30	○報告事項 1) 昨年度の進捗状況のおさらい 2) 平成28年度版浦添市観光統計実態調査(サーベイ) 3) 市民ワークショップの開催報告 4) 第1回作業部会及び第1回検討委員会の開催報告 ○議事 1) (仮称)浦添市観光振興計画の全体体系(素案)について 2) 重点的に検討を進める必要がある項目についての協議
4	平成29年10月25日(水) 13:30~15:30	○議事 1) 施策・プロジェクトのロードマップの考え方について 2) 全体施策体系図についての確認 3) 戦略的重点施策について 4) 浦添市の観光振興施策における各施策・プロジェクトについて
5	平成30年2月8日(木) 13:30~15:30	○議事 1) 目標数値の設定の考え方について 2) (仮称)浦添市観光振興計画(素案)について
6	平成30年3月8日(木) 13:30~15:30	○報告 1) パブリックコメントの実施結果について ○議事 1) 浦添市観光振興計画(案)について 2) キャッチフレーズについて

浦添市観光振興計画

平成 30 年 3 月 発行

発行：浦添市 経済観光局 観光振興課

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶 1 丁目 1 番 1 号

TEL 098-876-1234 (代表)

